

長与町まちづくり町民意識調査

《報告書》

平成27年3月
長与町

《目次》

第1章 調査概要

1. 調査目的	2
2. 実施時期	2
3. 調査対象	2
4. 抽出方法	2
5. 調査方法	2
6. 有効回答数及び回収率	2
7. 設問項目	3
8. 報告書の見方	8

第2章 調査結果からみた現状と課題(結果要旨)

1. 現在の長与町について	10
2. 今後のまちづくりについて	10

第3章 調査結果

1. 回答者の基本属性	12
2. 日常生活や定住意向、まちのイメージ	16
3. まちづくり施策の満足度・重要度	88
4. 個別のまちづくり課題への取り組みの方向性	94

第1章 調査概要

第1章 調査概要

1. 調査目的

本調査は、長与町が町政運営に関する町民の意見や満足度を調査し、総合計画づくりの貴重な参考資料にするため実施するものである。町民のニーズや課題を把握し、今後の効果的・効率的な展開のための基礎資料とすることを目的とする。

2. 実施時期

平成26年9月8日（月）～9月30日（火）

3. 調査対象

長与町内在住の満18歳以上の男女4,000人

4. 抽出方法

無作為抽出法

5. 調査方法

郵送による配付・回収

6. 有効回答数及び回収率

有効回答数：1,536件 回収率：38.4%

[参考]アンケートの回収票の信頼性について

アンケート票数と誤差との関係は、アンケート票数が少ないと誤差は大きく、アンケート票数が多いと誤差は少なくなる。しかし、統計学的にその関係は一定ではなく一定の数を超えると票数を大幅に増やしても誤差はほとんど変わらなくなる。

統計学的には、この「一定の数」は目標誤差：3～5%以内であれば良いとされており、それを下記の計算式で逆算すると概ね400～1,100票程度と算出される。つまり、有効回答票の回収数がこの程度あれば住民意向の把握として十分納得できる数字であるといえる。

参考》サンプル数（アンケートの有効回答票数）と誤差との関係式

$$\sigma = k \sqrt{\frac{(M-n)}{(M-1)} \times \frac{p(1-p)}{n}}$$

M：母集団 n：有効回答数 p：結果の比率

k：信頼率による定数 σ：標本誤差

※kは信頼率を決めると自動的に決定される定数で、信頼率に対応する標準正規分布の%点である。信頼率は、統計的な慣習として95%とすることが多く、信頼率95%の場合、kは1.96となる。

7. 設問項目

(回答区分の標記) SA：単一回答、MA：複数回答、FA：記述回答

設問		選択肢・施策等	回答区分
属性	性別	1. 男 2. 女	SA
	年齢	1. 18～29歳 2. 30～39歳 3. 40～49歳 4. 50～59歳 5. 60～69歳 6. 70歳以上	SA
	職業	(自営) 1. 農林水産業 2. 建築・土木業 3. 製造業 4. 商業 5. サービス業 6. その他 (お勤め) 7. 農林水産業 8. 建築・土木業 9. 製造業 10. 商業 11. サービス業 12. 公務(官公庁) 13. 医療・福祉 14. パートタイム 15. その他 (その他) 16. 専業主婦(主夫) 17. 学生 18. 無職	SA
	通勤先・通学先	1. 町内 2. 長崎市 3. 時津町 4. その他県内(市町名) 5. 県外 6. 通勤・通学していない	SA
	町内での居住年数	1. 5年未満 2. 5年以上～10年未満 3. 10年以上～20年未満 4. 20年以上～30年未満 5. 30年以上	SA
	居住地域	1. 本川内郷 2. 平木場郷 3. 三根郷 4. 吉無田郷 5. 高田郷 6. 丸田郷 7. 嬉里郷 8. 齊藤郷 9. 岡郷 10. まなび野	SA
問1	(1)通院の頻度	1. ほぼ毎日 2. 週に2～3日程度	SA

設 問		選択肢・施策等	回答 区分
		3. 週に1日程度 4. 月に数回程度 5. 年に数回程度 6. この1年間通っていない	
	(2)主な通院場所	1. 町内 2. 長崎市 3. 時津町 4. その他の市町	SA
	(3)通院の移動手段	1. 徒歩 2. 自転車 3. バイク 4. 自動車 5. 路線バス 6. 鉄道(JR) 7. タクシー 8. その他()	SA
問2	(1)買い物の頻度	1. ほぼ毎日 2. 週に2～3日程度 3. 週に1日程度 4. 月に数回程度 5. 年に数回程度 6. この1年間通っていない	SA
	(2)主な買い物の場所	1. 町内 2. 長崎市 3. 時津町 4. その他の市町	SA
	(3)買い物の移動手段	1. 徒歩 2. 自転車 3. バイク 4. 自動車 5. 路線バス 6. 鉄道(JR) 7. タクシー 8. その他()	SA
問3	(1)生活環境の充実度について	1. 公共交通 2. 医療サービス 3. 介護や福祉サービス 4. 教育 5. 子育て 6. 買い物 7. 文化施設 8. スポーツ施設	SA
	(2)今の長与町は住みやすいところだと思いますか。	1. 住みやすい 2. どちらかといえば“住みやすい” 3. どちらかといえば“住みにくい” 4. 住みにくい	SA
	(3)こらからも長与町に住み続けたいと思いますか。	1. これからもずっと住み続けたい 2. どちらかといえば住み続けたい 3. どちらかといえば住みたくない 4. 住みたくない	SA

設 問		選択肢・施策等	回答 区分
	前問で「3」または「4」を選んだ方のみ (4)長与町に住みたくないと思う理由をお答えください。	1. 自然の減少・環境の悪化が進んでいる 2. 日常の買い物が不便 3. 道路事情や交通の便が悪い 4. 地域の行事や近所づきあいが面倒 5. 子どもの教育環境が不十分 6. 町内に適当な職場がない 7. 保健・医療に関するサービスや施設が不十分 8. 福祉のサービスや施設が不十分 9. スポーツ・レクリエーション施設や文化施設が不十分 10. 芸術・文化に触れる機会が少ない 11. 宅地や家賃が高い 12. ごみの分別がわずらわしい 13. 資源ごみの拠点回収が不便 14. その他(具体的に:)	MA
	(5)町についてのイメージ 現在のイメージ (SA) 伸ばしたいもの (MA)	1. 子育て支援や子育て環境が充実している町 2. 保健・医療が充実している町 3. 福祉サービスが充実している町 4. 道路や下水道などの都市基盤が整備されている町 5. 犯罪や災害が少なく安全な町 6. 自然が豊かな町 7. スポーツが盛んな町 8. 子どもの教育環境が充実している町 9. 環境意識が高い町 10. 長与らしい特産品がある町 11. 幼稚園から大学まで揃った学園都市 12. 長崎市のベッドタウン 13. 自治会活動が盛んな町 14. こだわりのショップが多くおしゃれな町 15. 特に個性がない町	SA MA
問4	(1)施策への満足度	1. 健康づくり 2. 母子保健 3. 成人・高齢者保健 4. 予防衛生 5. 精神保健の推進 6. 医療の充実 7. 原爆被爆者対策	SA

設 問	選択肢・施策等	回答 区分
	<ul style="list-style-type: none"> 8. 地域福祉 9. 高齢者福祉 10. 障害者(児)福祉 11. 児童福祉 12. ひとり親福祉 13. 低所得者福祉 14. 介護保険 15. 国民健康保険 16. 後期高齢者医療 17. 乳幼児教育 18. 学校教育 19. 社会教育 20. 青少年の健全育成 21. 生涯スポーツの充実 22. 男女共同参画社会の確立 23. 人権の尊重 24. ボランティア活動の推進 25. 文化の振興 26. 交流活動の推進 27. 学園都市づくり 28. 計画的な土地利用の推進 29. 道路の整備 30. 公共交通機関の充実 31. 市街地の整備 32. 住宅の整備 33. 公園・緑地の整備 34. 地域情報化の推進 35. 自然との共生 36. 循環型社会の創造 37. 墓地の整備 38. 上水道の充実 39. 下水道の充実 40. 美しい景観づくり 41. 交通安全の推進 42. 消防・防災の充実 43. 防犯の充実 	

設 問		選択肢・施策等	回答 区分
		44. 農業の振興 45. 林業の振興 46. 水産業の振興 47. 商業の振興 48. 工業の振興 49. 観光の振興 50. 消費者保護の推進 51. 地域活動や自治会活動の推進 52. 住民参加の促進 53. 広域行政の推進 54. 行政の充実 55. 財政の充実	
	(2)この5年で進んだ、良くなったもの	(55の施策の中から3つまで選び理由を記入)	MA
	今後特に重要と思うもの	(55の施策の中から3つまで選び理由を記入)	MA
問5	長崎市、時津町方面へ向かう道路の交通渋滞問題への取組	1. 既存の路線バスの利便性の向上(増便など) 2. 既存の鉄道(JR)の利便性の向上(増便など) 3. ノーマイカーデーの推進など、マイカー利用を減らす取り組み 4. 「パーク&ライド」の推進(駐車場の充実など) 5. 道路などの都市基盤の整備 6. 現状のままでよい(特に取り組む必要はない) 7. その他()	SA
問6	高齢化が進み、買い物困難者や交通弱者が増加していくことへの取組	1. 路線バスなど今ある公共交通機関の利便性を向上させる 2. 新しい公共交通(コミュニティバスや乗り合いタクシー等)の導入 3. 移動が困難な高齢者等が利用できる福祉タクシーなどの導入 4. 現在のままでよい(特に取り組む必要はない) 5. その他()	SA
問7	地域のコミュニティを維持し、暮らしやすいまちづくりを進めるために必要なこと	1. 自治会への加入の促進(特に新住民や若い人など) 2. 自治会が中心となった行事やイベントの開催 3. 一人暮らしのお年よりの見守りなど、地域ぐるみでの高齢者対策 4. 通院援助や買い物支援など住民どうしの助け合い 5. 地域ぐるみでの子育て支援 6. 防犯・防災対策の強化 7. 地域清掃、ゴミの分別など地域ぐるみでの環境活動 8. その他()	MA

※55の施策ごとに満足・不満足を5段階で評価

設 問		選択肢・施策等	回答 区分
問8	子育て支援を充実させるために、今後必要な取組	1. 母子の保健・医療体制の充実 2. 子育て支援センターの充実 3. 子育てに関する相談体制の充実 4. 延長保育、乳児保育など保育サービスの充実 5. 子育てサークルの支援やネットワーク化など 6. 子どもの遊び場の充実、安全な生活環境づくり 7. 児童館・学童保育など放課後の居場所づくり 8. 子育てに関する経済的支援 9. 子育てに関する情報発信の強化 10. ワーク・ライフ・バランスの推進など、父親が子育てに参加しやすい環境づくり 11. その他()	MA
問9	新しい図書館に望むこと	1. 蔵書数や設備が充実した図書館 2. 検索用パソコン(タブレット)など情報システムが充実した図書館 3. おしゃれなカフェとの融合など、くつろぎのある図書館 4. 開館時間が長いなど、利用しやすい図書館 5. 本の購入ができるなど、民間機能が融合した図書館 6. DVDの観賞など、AVスペースが充実した図書館 7. 最寄公民館への返却システムや移動図書館など、まちと繋がる図書館 8. 多様なイベントが開催される図書館 9. 十分な駐車スペースやバス停が近いなど行きやすい図書館 10. その他()	MA
問10	地域活動への参加状況	1. 積極的に参加している 2. 内容によっては参加している 3. ほとんど参加していない 4. まったく参加していない	SA
問11	ボランティア活動への参加意向	1. 参加したい 2. どちらかといえば参加したい 3. どちらかといえば参加したくない 4. 参加したくない 5. すでに参加している	SA
問12	全体的にみたまちづくりの満足度	1. 満足 2. どちらかといえば満足 3. どちらかといえば不満 4. 不満	SA
自由意見欄			

8. 報告書の見方

回答は、原則として、各質問の回答数を基数（n）とした百分率で表し、小数第2位を四捨五入しているため百分率の合計が100%にならない場合がある。また、複数回答の質問では、回答比率の合計が100%を超える場合がある。1%未満の数値は表示しない。

第2章 調査結果からみた現状と課題 (結果要旨)

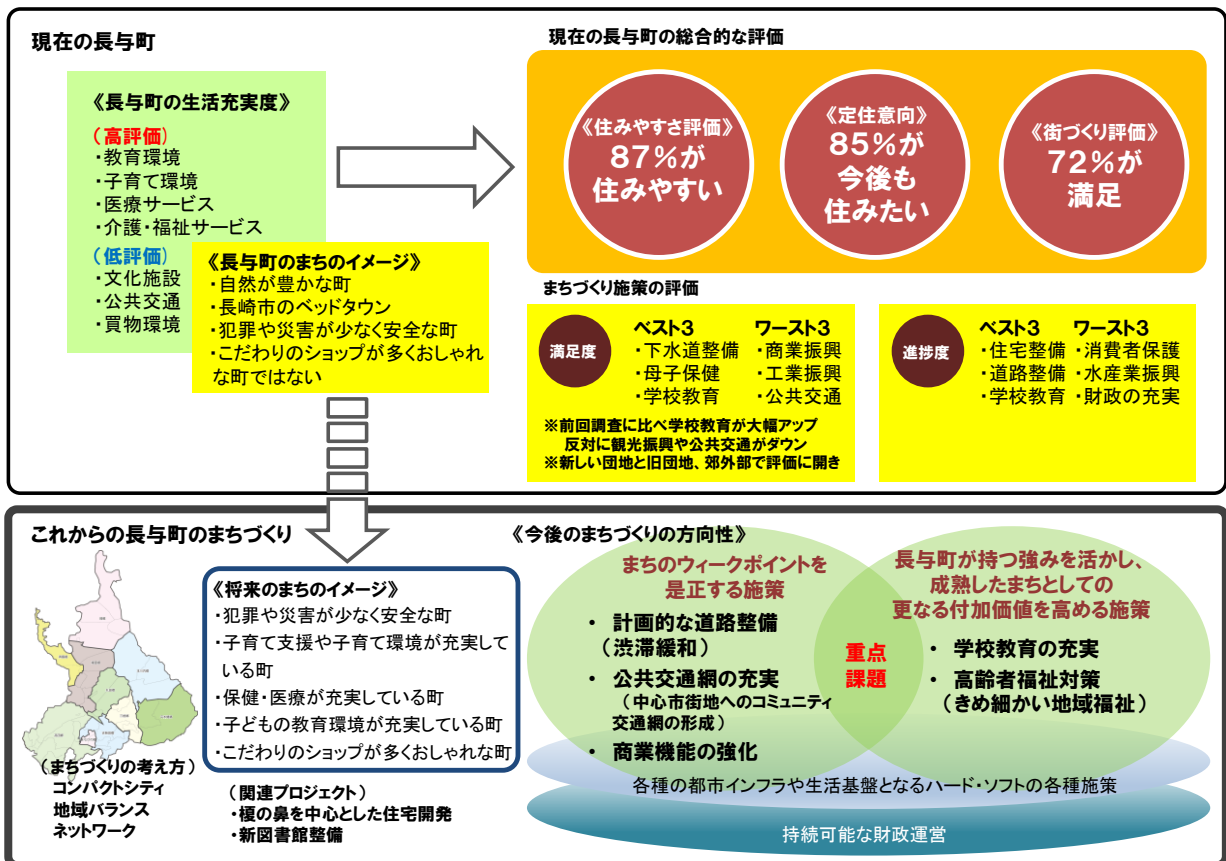
第2章 調査結果からみた現状と課題（結果要旨）

1 現在の長与町について

現状の長与町を評価する総合的な指標として“住みやすさ”が挙げられるが、今回調査では87%の町民が「住みやすい」と回答するなど、全体として非常に満足度が高いことが窺える結果といえる。こうした高評価の背景となる施策満足度をみると、下水道整備や母子保健、学校教育などの満足度が非常に高くなっている。特に学校教育は前回調査に比べ満足度が最も高まった施策である。一方、満足度が低い施策は商業振興、工業振興、公共交通などであり改善が求められている。

2 今後のまちづくりについて

今後の重点課題は大きく「まちのウィークポイントを是正する施策」と「長与町が持つ強みを生かし成熟したまちとしての付加価値を高めるための施策」に区分される。前者は長与町の慢性的な課題である道路整備や公共交通網の充実、更には商業機能の強化が挙げられる。また、後者の付加価値を高める施策としては学校教育の充実、高齢者福祉対策などが挙げられる。



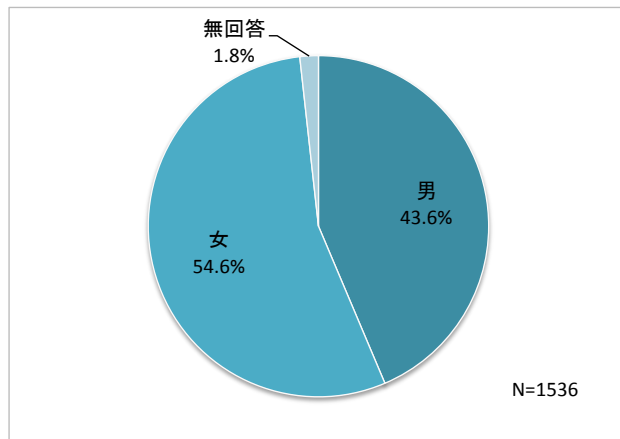
第3章 調査結果

第3章 調査結果

1. 回答者の基本属性

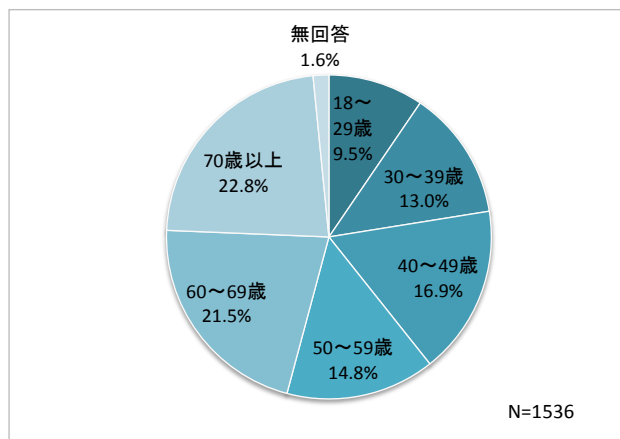
● 性別

性別は、男性 43.6%、女性 54.6%と女性の割合が高い。



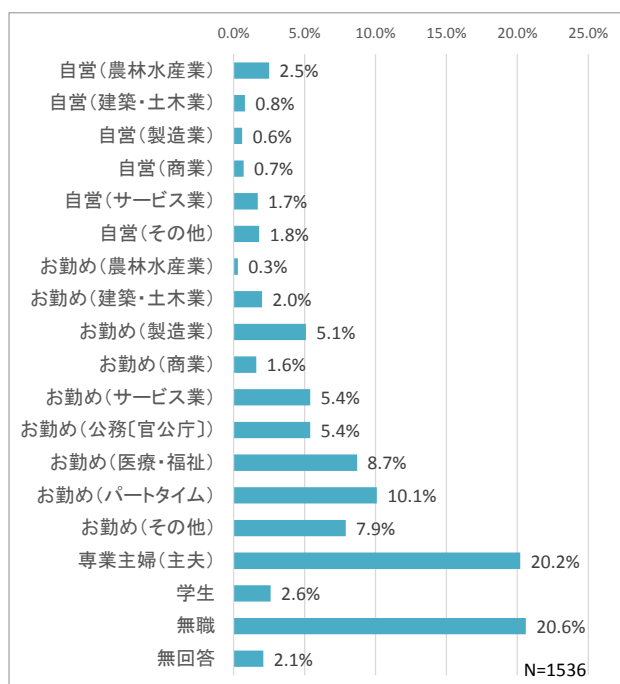
● 年齢

年齢は、「70歳以上」が22.8%で最も高く、「60歳代」が21.5%、「40歳代」が16.9%で続いている。50代以上で約6割を占めている。



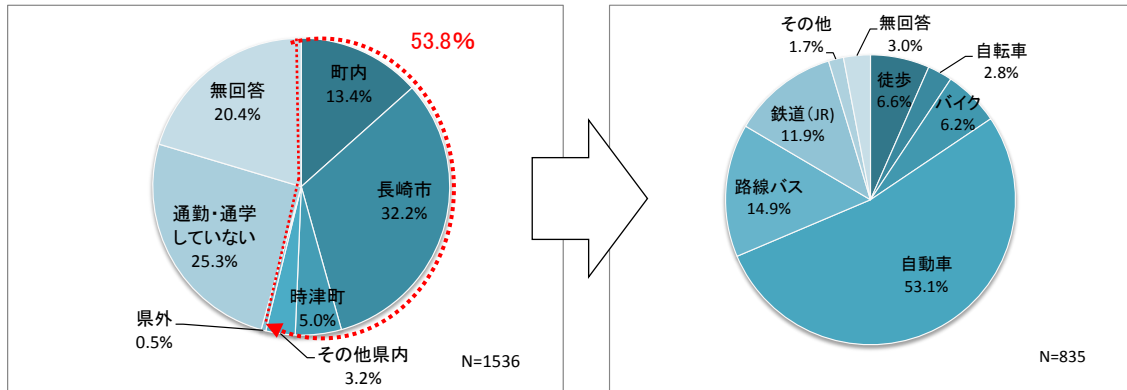
● 職業

職業は、「無職」が20.6%で最も高く、「専業主婦(主夫)」が20.2%、「パートタイム」が10.1%、「医療・福祉」が8.7%で続いている。



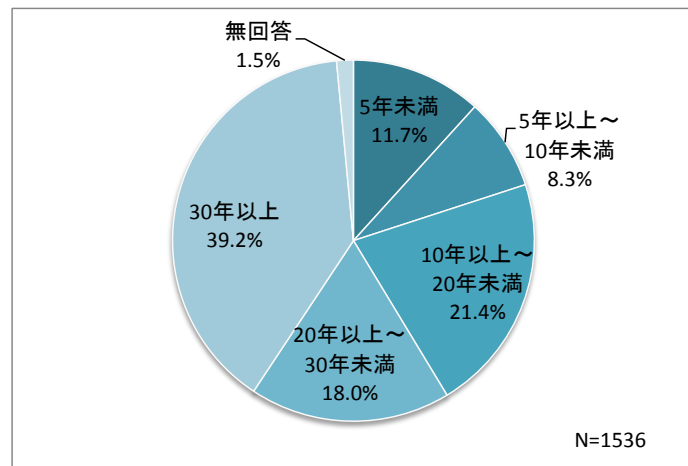
● 勤務・通学先

通勤・通学先は、「長崎市」が32.2%で最も高く、「町内」が13.4%、「時津町」が5.0%で続いている。通勤・通学者(53.8%)の主な移動手段は、「自動車」が53.1%と最も高く、「路線バス」が14.9%、「鉄道(JR)」が11.9%で続いている。



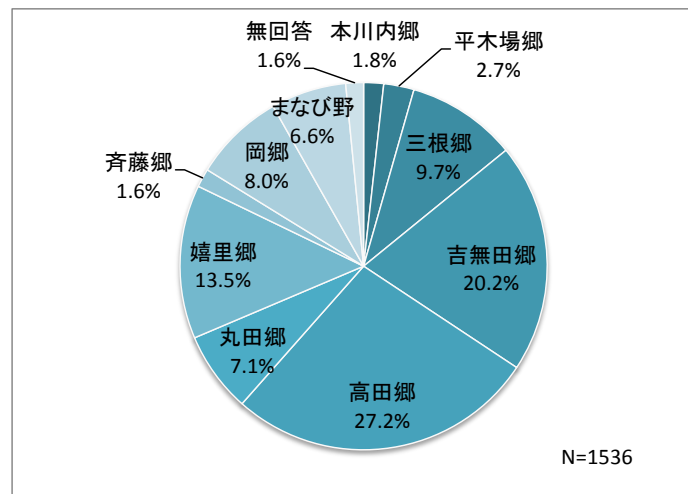
● 居住年数

居住年数は、「30年以上」が39.2%で最も高く、次いで「10年以上～20年未満」が21.4%、「20年以上～30年未満」が18.0%で続いている。



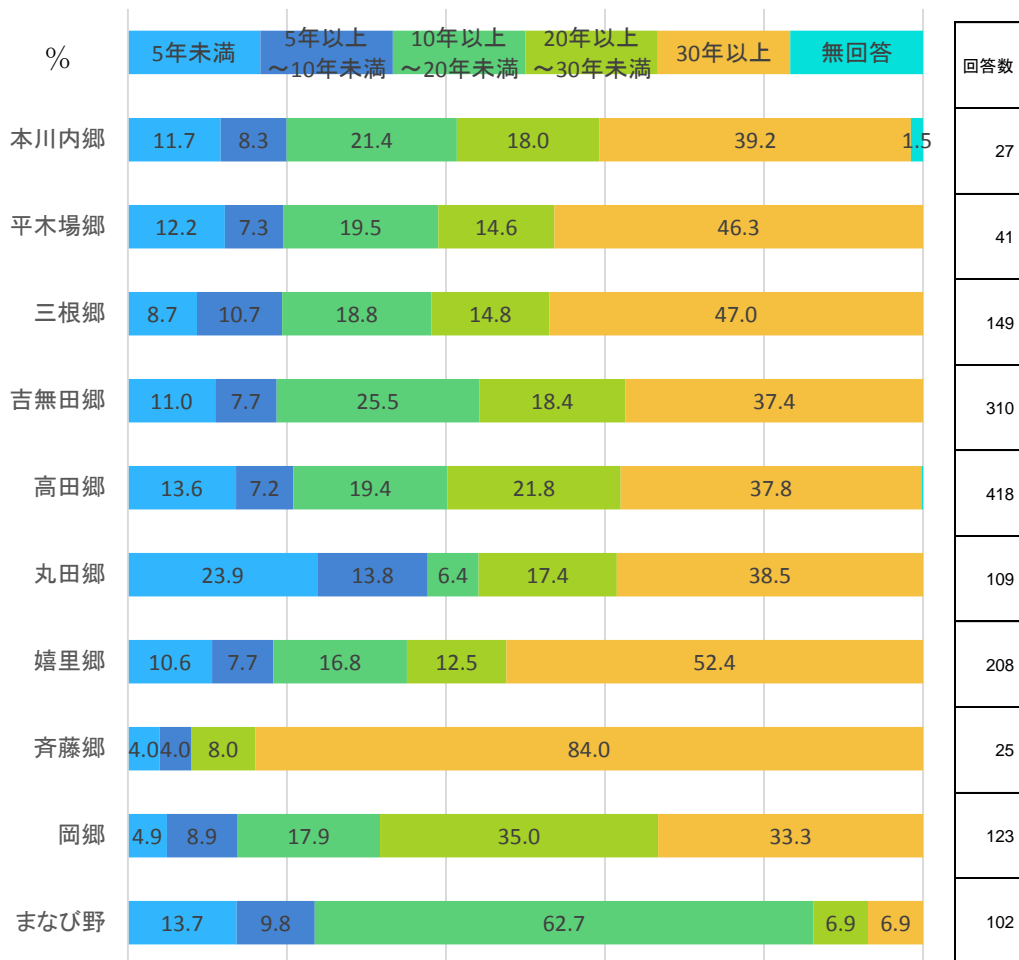
● 居住地域

居住地域は、「高田郷」が27.2%で最も高く、次いで「吉無田郷」が20.2%、「嬉里郷」が13.5%と続いている。なお、回答率は人口比率とほぼ同値である。



(居住年数・地域別クロス)

地域別の居住年数を見ると、まなび野と岡郷以外の地域は「30年以上」が最も多い。特に齊藤郷や嬉里郷では半数以上が「30年以上」と長期居住者が多い。



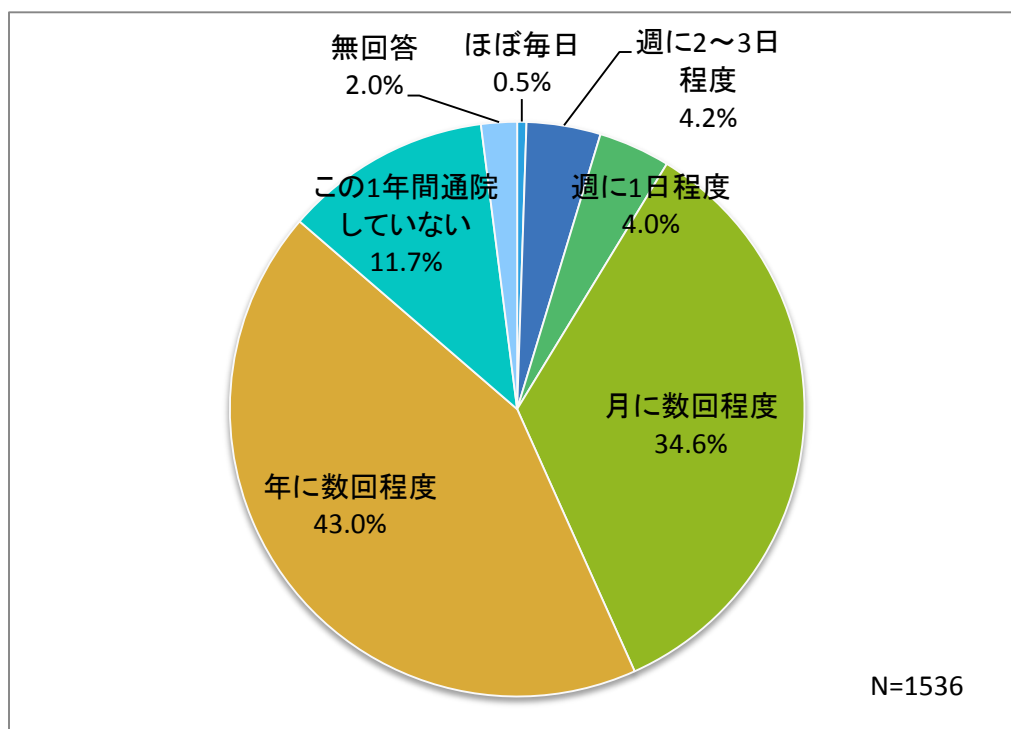
2. 日常生活や定住意向、まちのイメージ

問1 (1) 通院の“頻度” (択一)

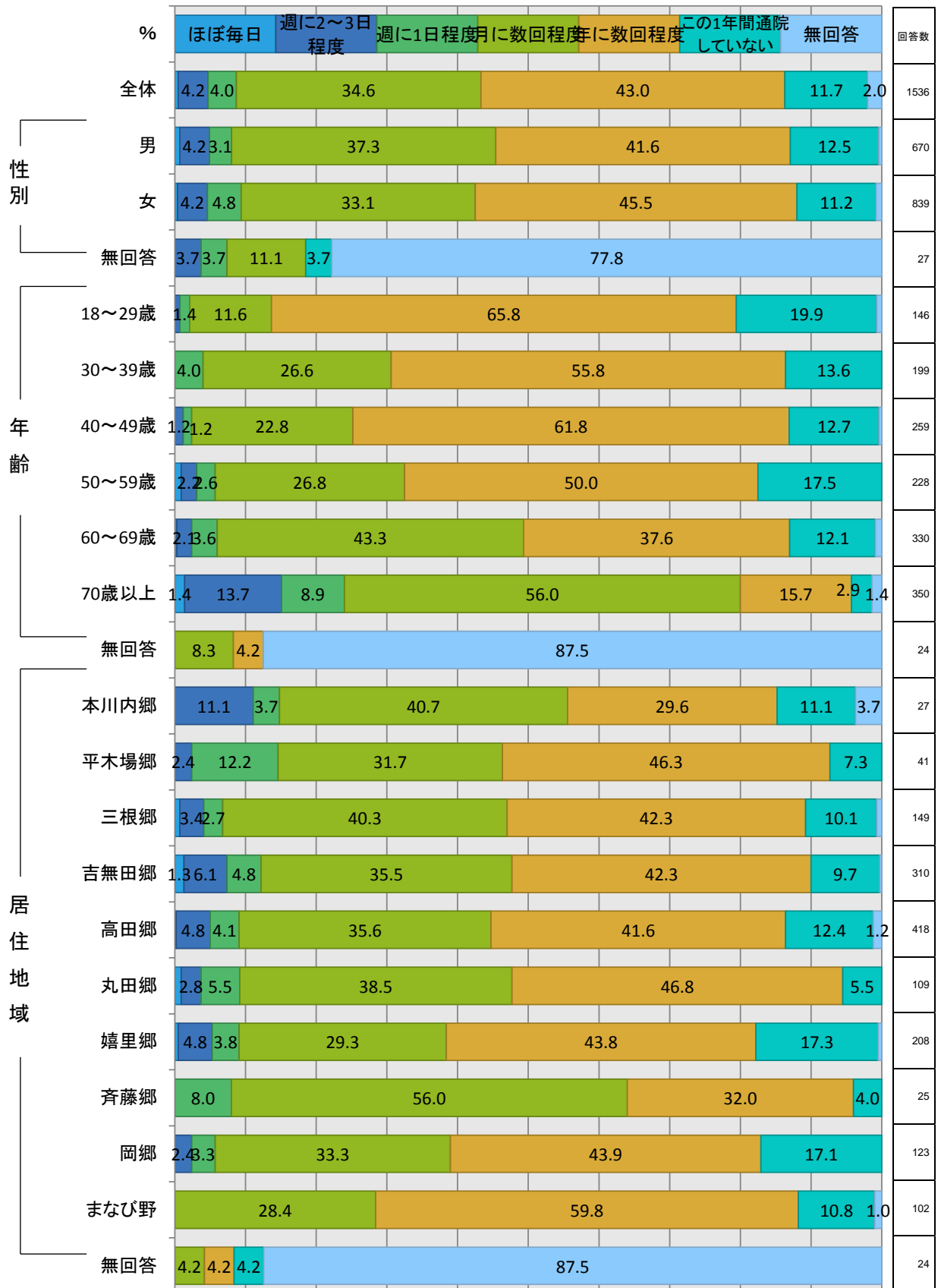
高年代ほど通院頻度が高く、70歳以上では24%が週1回以上通院

全体傾向	通院の状況は、「年に数回程度」が43.0%で最も高く、次いで「月に数回程度」が34.6%、「この1年間通院していない」が11.7%であり、全体の1割弱が週に1回以上通院している。	
クロス集計	男女別	男女別の大きな傾向の違いは見られない。
	年齢別	年齢が上がるにつれて通院頻度が高まる傾向があり、70歳以上では週1回以上通院する割合は24%、月1回以上は80%となる。
	地域別	高齢化率が高い齊藤郷や丸田郷で通院頻度が高い傾向があり、月1回以上の通院は齊藤郷で64%と最も高く、最も低いまなび野に比べ30ポイント以上の開きがある。

(全体傾向)



(基本属性クロス)

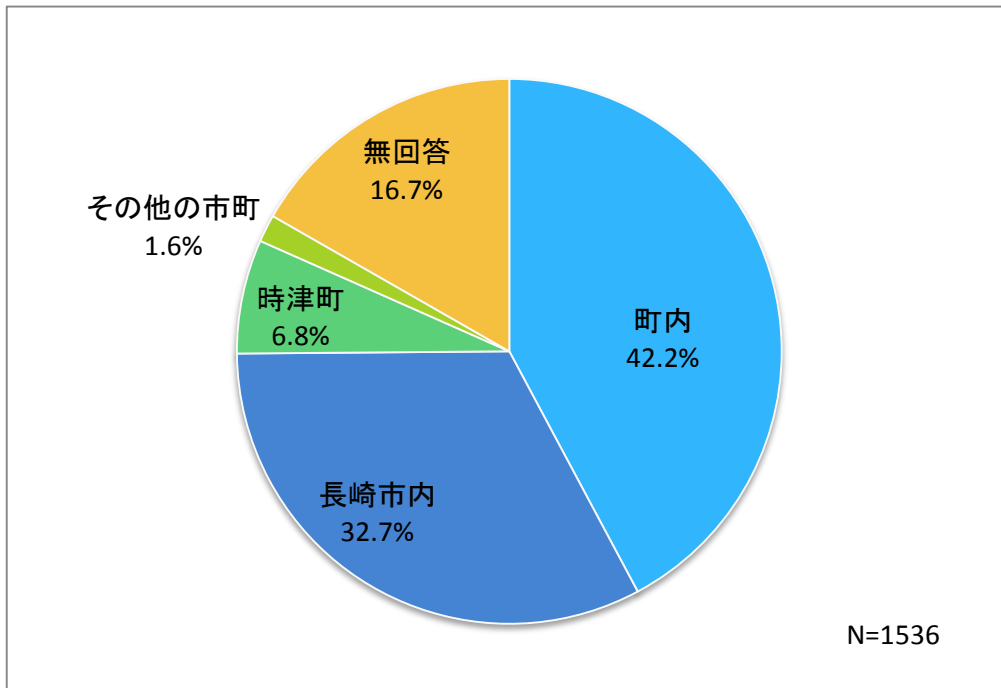


問1 (2) 主な通院場所 (択一)

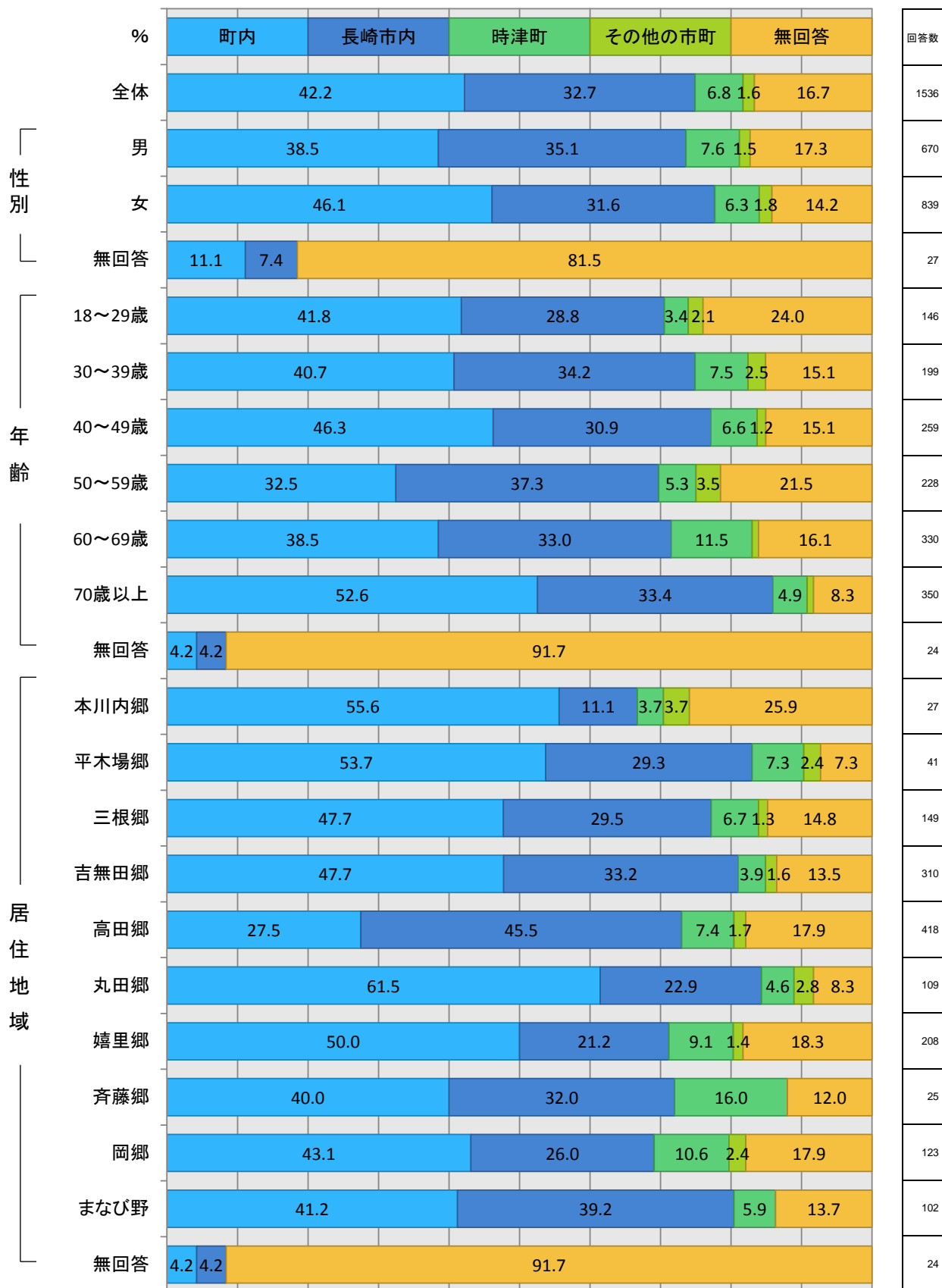
通院場所は居住地域とアクセス性に左右される傾向

全体傾向	通院の場所は、「町内」が42.2%で最も高く、次いで「長崎市内」が32.7%、「時津町」が6.8%が続いており、約4割の回答者が町外へ通院している。なお、無回答(16.7%)には前問にて「この1年間通院していない」(11.7%)が含まれる。	
クロス集計	男女別	「町内」に通院する割合は男性に比べ女性が7ポイントほど高い。
	年齢別	「町内」に通院する割合は70歳以上が52.6%で最も高く、最も少ない50歳代に比べ20ポイント以上の差がある。50歳代は全ての年代の中で唯一、長崎市内への通院割合が町内への通院割合を上回っている。
	地域別	長崎市北部市街地へのアクセスが容易な高田郷は「長崎市内」が45.5%、「町内」が27.5%と、地域別で唯一「長崎市内」の割合が「町内」を上回っている。その他の地域では「町内」の割合が最も高いが齊藤郷や岡郷など時津方面へのアクセスが容易な地域では「時津町」の割合が10%以上と他地域に比べ高い。以上により通院場所は居住地域やアクセス性により左右される傾向が強いといえる。

(全体傾向)



(基本属性クロス)

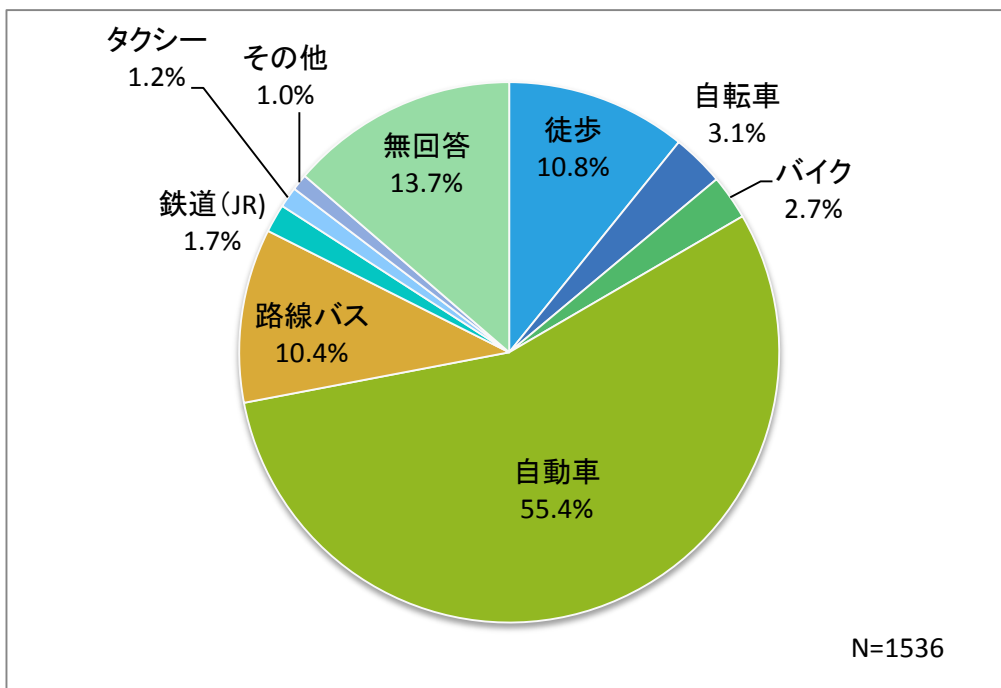


問1 (3) 通院の“移動手段” (択一)

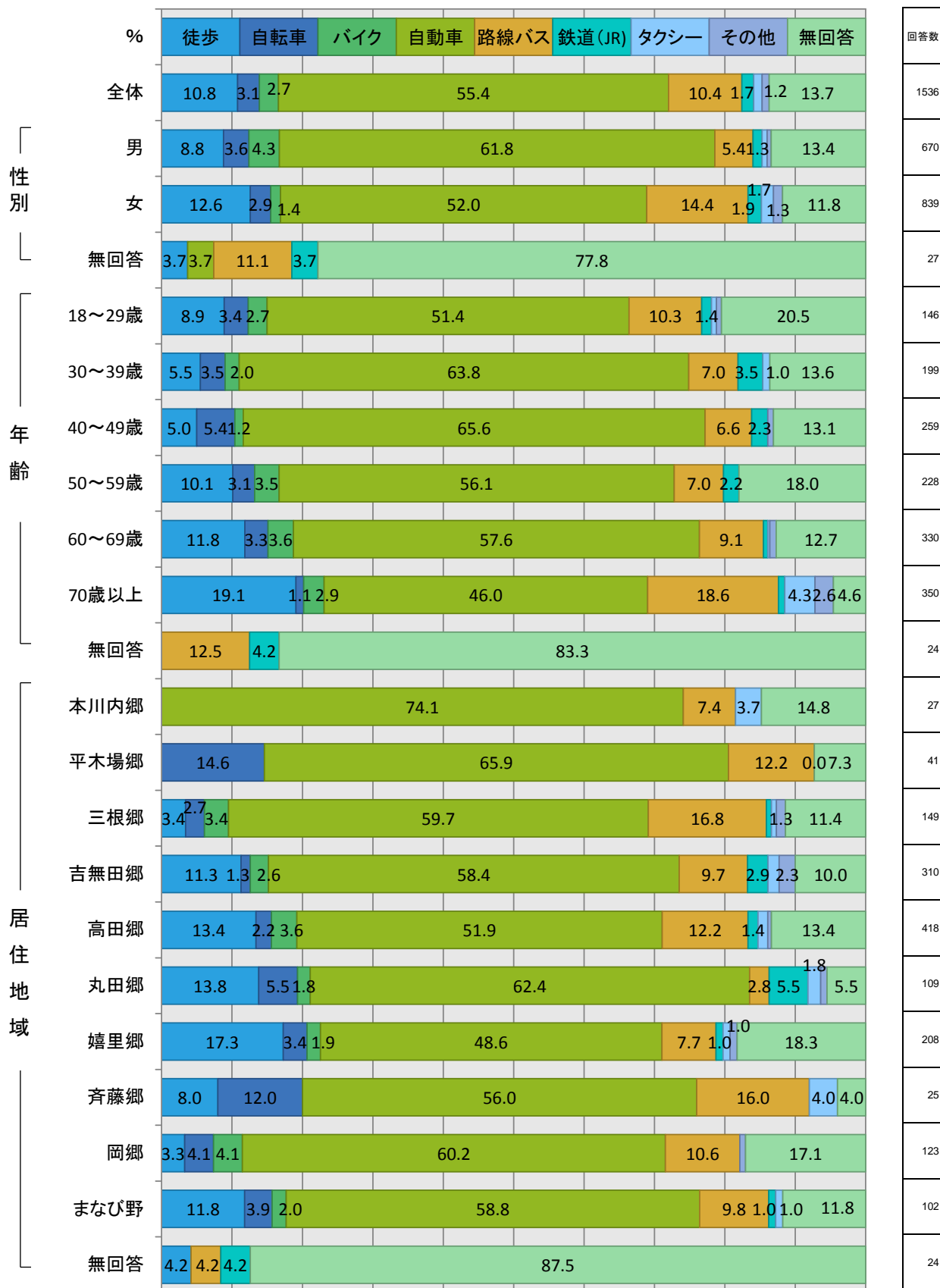
通院の半数以上は「自動車」を利用。ただし高齢者は公共交通への依存度が高い

全体傾向	通院の移動手段は「自動車」が 55.4%と最も高く、次いで「路線バス」が 10.4%、「鉄道 (JR)」が 1.7%、「タクシー」が 1.2%。公共交通を利用する割合は全体の 13.3%と徒歩及び自転車の割合と同程度の割合である。なお、無回答 (13.7%) には前問にて「この1年間通院していない (11.7%)」が含まれる。	
クロス集計	男女別	男性は女性に比べ「自動車」の割合が高い。女性は「徒歩」や「路線バス」の割合が高く、公共交通全体で見ると男性よりも 10 ポイント程度高い。
	年齢別	年代が高くなるにつれて「徒歩」や「路線バス」などの公共交通を利用する割合が高まる傾向があり、70 歳以上では公共交通の割合は 20%を超える。
	地域別	全ての地域で「自動車」の割合が高いが、最も高い本川内郷と最も低い嬉里郷では 25 ポイント以上の差があるなど地域差が見られる。 近隣に医療機関が多い吉無田郷、高田郷、丸田郷、嬉里郷、まなび野では「徒歩」の割合が 10%以上と高い。一方で三根郷や齊藤郷では「路線バス」の割合が 15%以上と高くなっている。

(全体傾向)



(基本属性クロス)

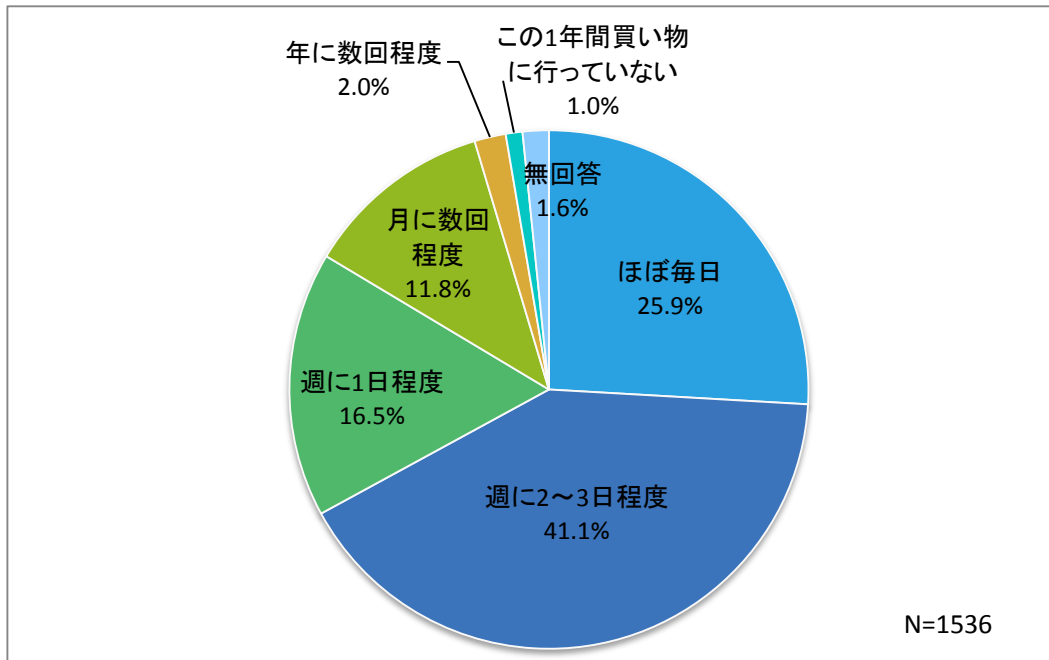


問2 (1) 買い物の“頻度” (択一)

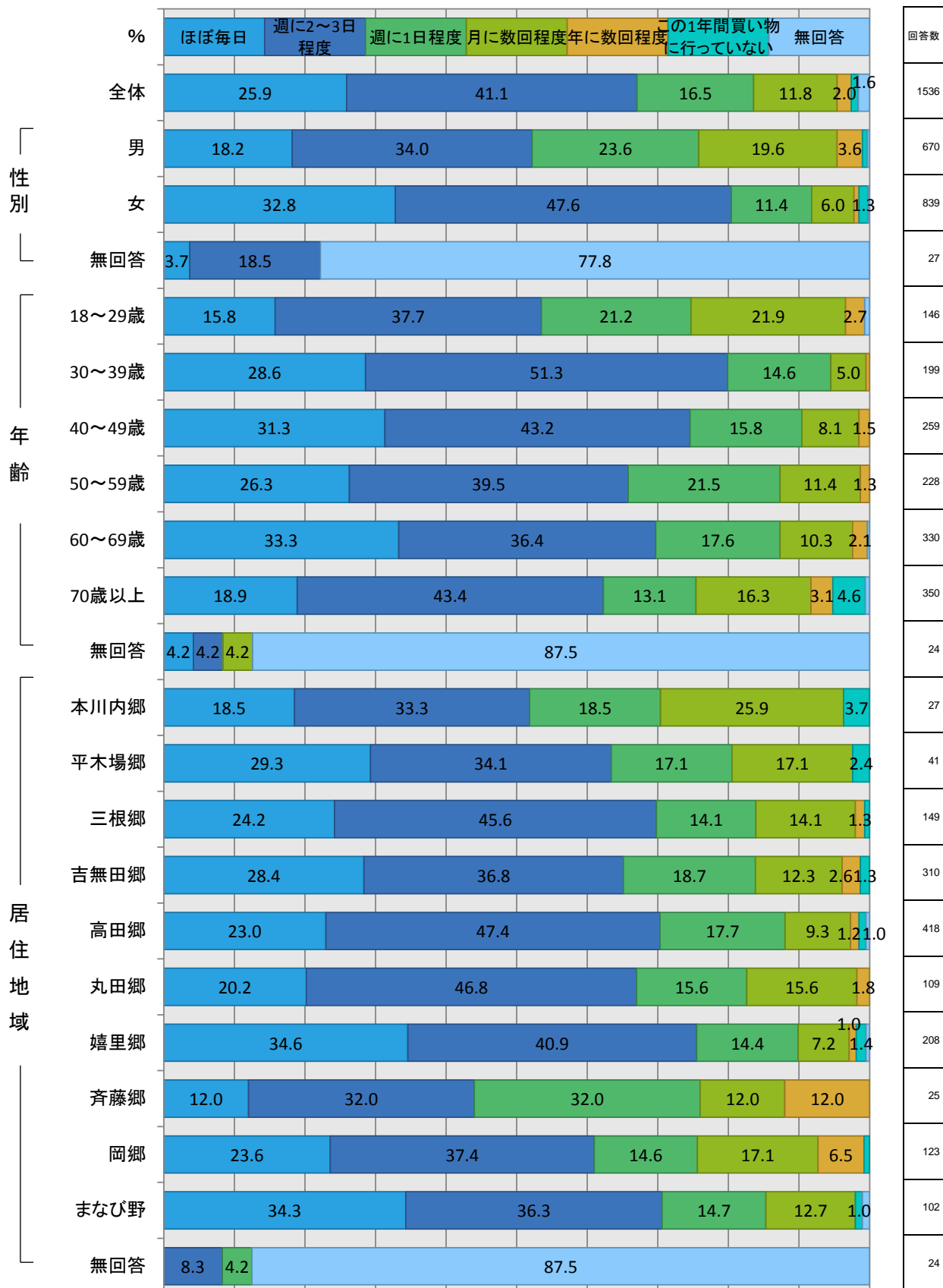
全体の7割近くが週に2~3日以上買い物へ行く

全体傾向	買い物の頻度は、「週に2~3日程度」が最も高く、次いで「ほぼ毎日」、「週に1日程度」と続いており、全体の約8割が週に1回以上買い物へ行っている状況にある。	
クロス集計	男女別	男性に比べ女性の買い物頻度が高い。「週に2~3日以上」は女性で80.4%と男性を28ポイント上回っている。
	年齢別	全ての年代で「週に2~3日程度」が最も高く、「ほぼ毎日」を含めると5割以上となる。特に30歳代と40歳代では買物頻度が高く週2~3日以上の割合は8割前後まで高まる。
	地域別	全ての地域で「週に2~3日程度」が最も高いが、本川内郷や斉藤郷では他地域に比べ買い物頻度が低いなど、居住地域により頻度が左右される傾向が見られる。

(全体傾向)



(基本属性クロス)

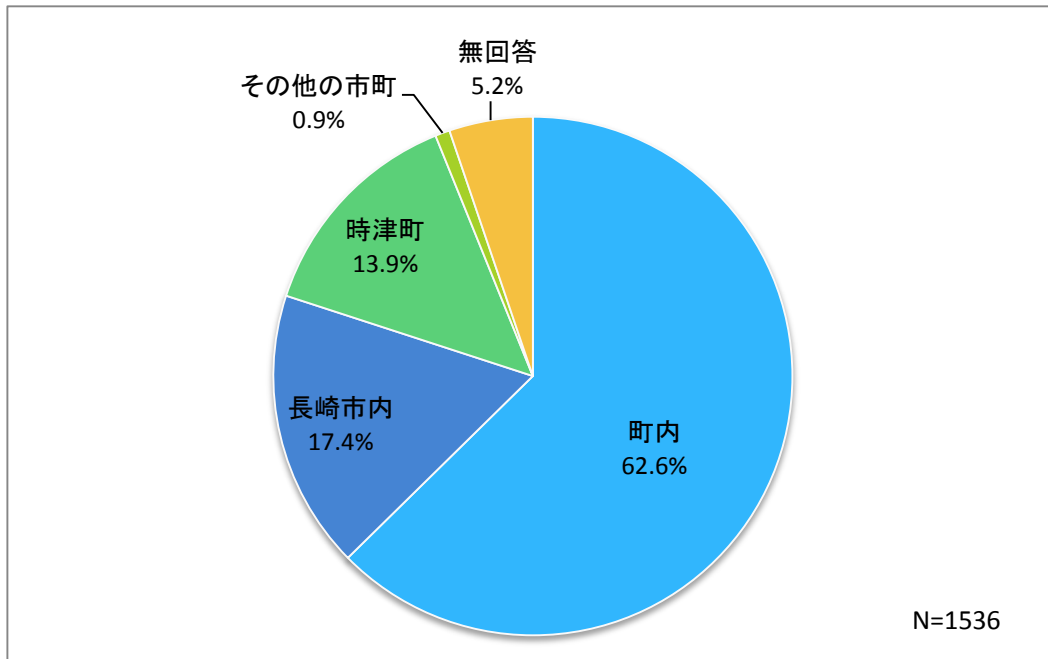


問2 (2) 主な買い物の“場所” (択一)

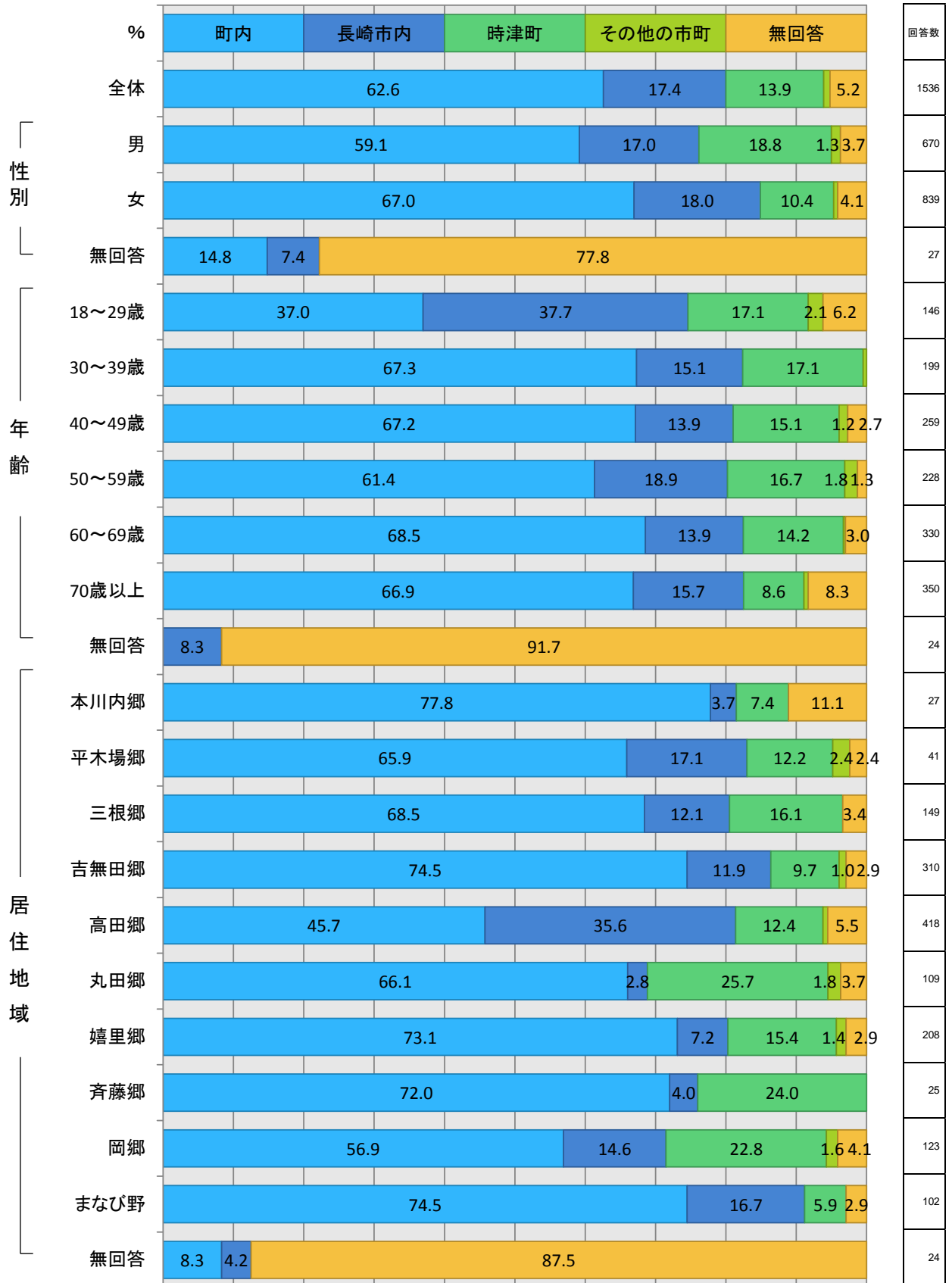
「町内」での買い物は63%。居住地域により長崎市や時津町での購入も

全体傾向	買い物の場所は、「町内」が62.6%で最も高く、次いで「長崎市内」が17.4%、「時津町」が13.9%と続いており、約3分の1の回答者が主に町外で買い物をしている。	
クロス集計	男女別	男女とも「町内」が6割前後が多いが、男性59.1%、女性67.0%と女性の割合が高い。一方で男性は「時津町」が18.8%と女性に比べ8ポイント以上高いなど男女差が見られる。
	年齢別	「18～29歳」を除き「町内」の割合が各年代で最も高い。「18～29歳」は「町内」と「長崎市内」が拮抗しており他年代とは異なる傾向にある。
	地域別	各地域とも「町内」が最も高いが、長崎市北部市街地へのアクセス性が良好な高田郷では「長崎市内」が35.6%と他の地域を大きく上回っている。また、時津方面へのアクセス性が良好な斉藤郷と岡郷では「時津町」の割合が高いなど、買い物場所は居住地域に左右される傾向が見られる。なお、この傾向は通院場所と同様である。

(全体傾向)



(基本属性クロス)

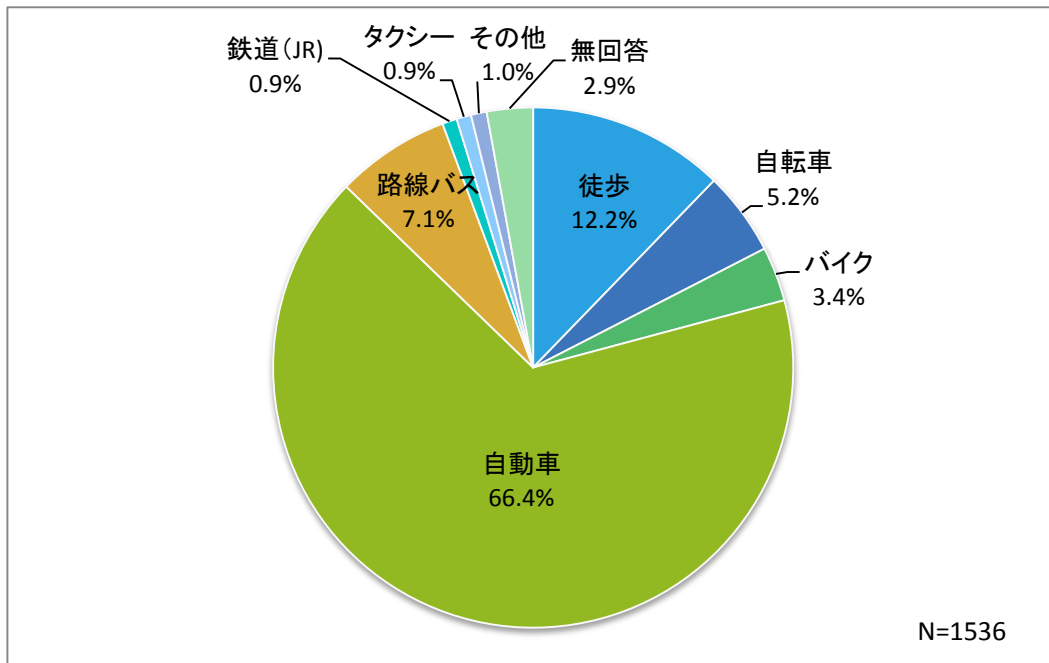


問3 (3) 買い物の“移動手段” (択一)

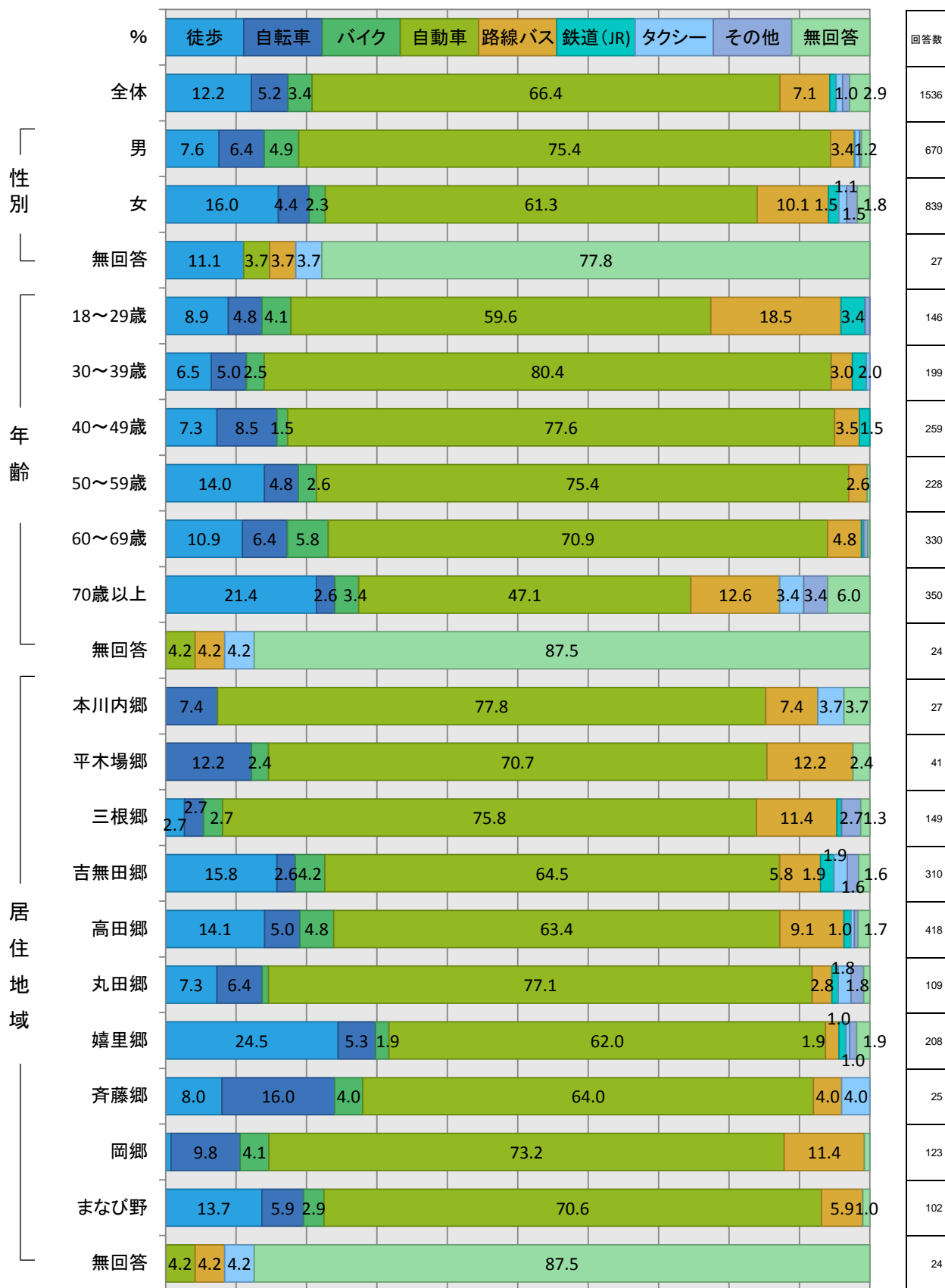
自動車が約7割。70歳以上は徒歩及び路線バスの利用が高い

全体傾向	買い物の移動手段は、「自動車」が66.4%と最も高く、公共交通機関を利用する割合は全体の8.9%である。	
クロス集計	男女別	男女とも「自動車」の割合が最も高いが、男性は女性に比べ14ポイント高いなど自動車への依存度がより高い傾向にある。一方、女性は男性に比べ「徒歩」や「路線バス」などの自動車以外の移動手段の割合が高い。
	年齢別	各年代で「自動車」が最も高いが、年代が高くなるにつれて「徒歩」や「公共交通」の割合が高くなる傾向にある。特に70歳以上では「自動車」の割合が47%と半数を切り、「路線バス」などの公共交通の割合が20%程度まで高まる。
	地域別	全ての地域で「自動車」の割合が最も高いが、「徒歩」は嬉里郷で24.5%、吉無田郷で15.8%など「自動車」に次ぐ高い割合にある一方、本川内郷や平木場郷では0%であるなど地域差が大きい。また、「路線バス」は平木場郷、三根郷、岡郷で10%以上となっており、他地域より高い。

(全体傾向)



(基本属性クロス)



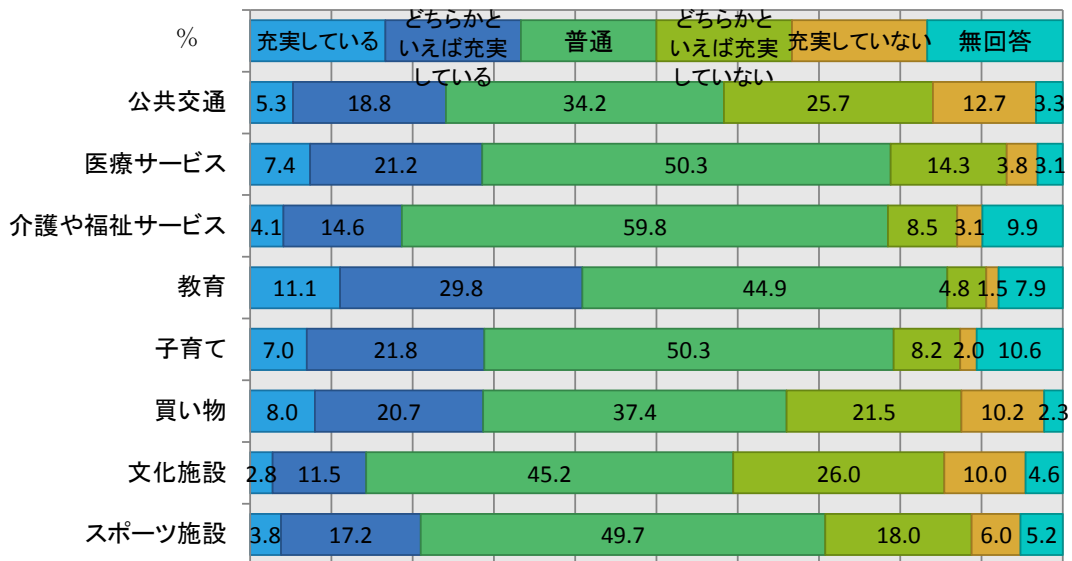
問3 (1)生活環境の充実度について (5段階評価で択一)

生活環境の充実度は「教育」がトップ。「文化施設」や「公共交通」は低評価

全体傾向	「充実している」と「どちらかといえば充実している」の合計は「教育」が40.9%で最も高く、「子育て」、「買い物」、「医療サービス」が続き、最低は「文化施設」となっている。一方、「充実していない」と「どちらかといえば充実していない」の合計は「公共交通」が38.4%で最も高く、「文化施設」、「買い物」、「スポーツ施設」が続いている。	
充実度指数	年齢別	「教育」は全ての年代で評価が高い。一方、充実度が低いとされた分野をみると「文化施設」はすべての年代で評価が低いが、「公共交通」は60歳代と70歳以上の評価は他の年代に比べ高く、自動車利用が多い18歳～50歳代の評価が低い結果となった。
	地域別	「公共交通」と「買い物」で地域差が見られる。「公共交通」は平木場郷や本川内郷で、また、「買い物」は本川内郷で特に評価が低くなっている。

(全体傾向)

N=1536



充実度指数

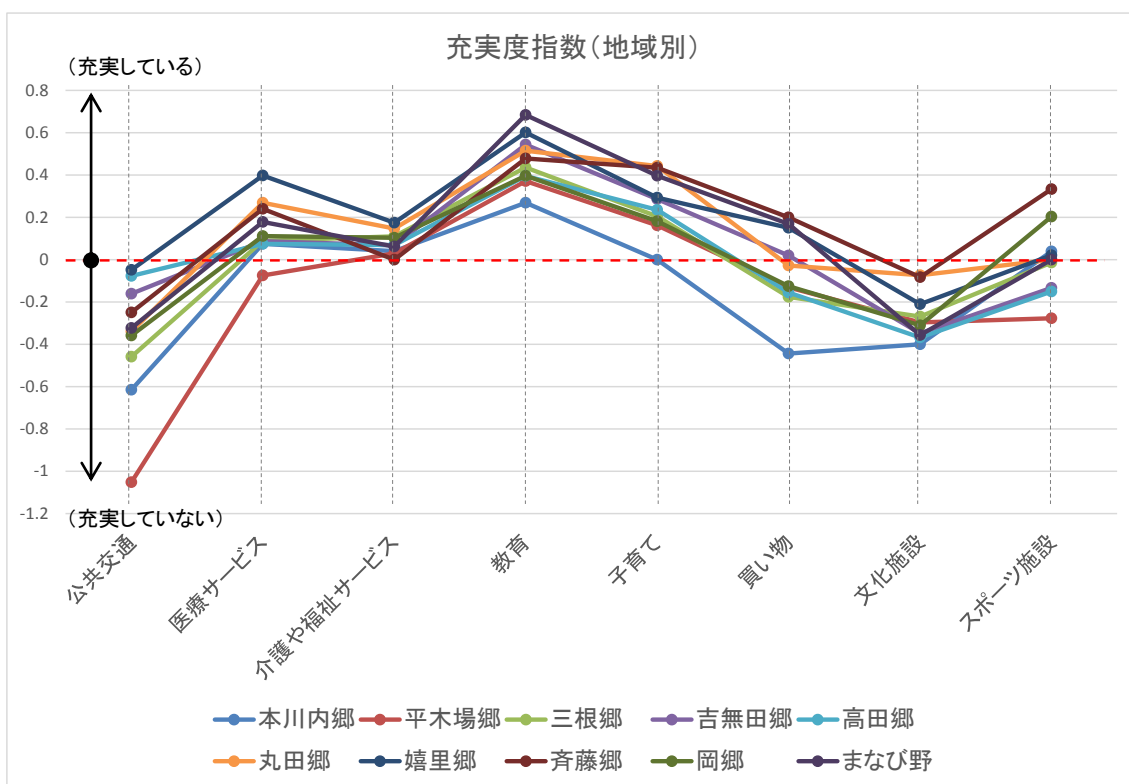
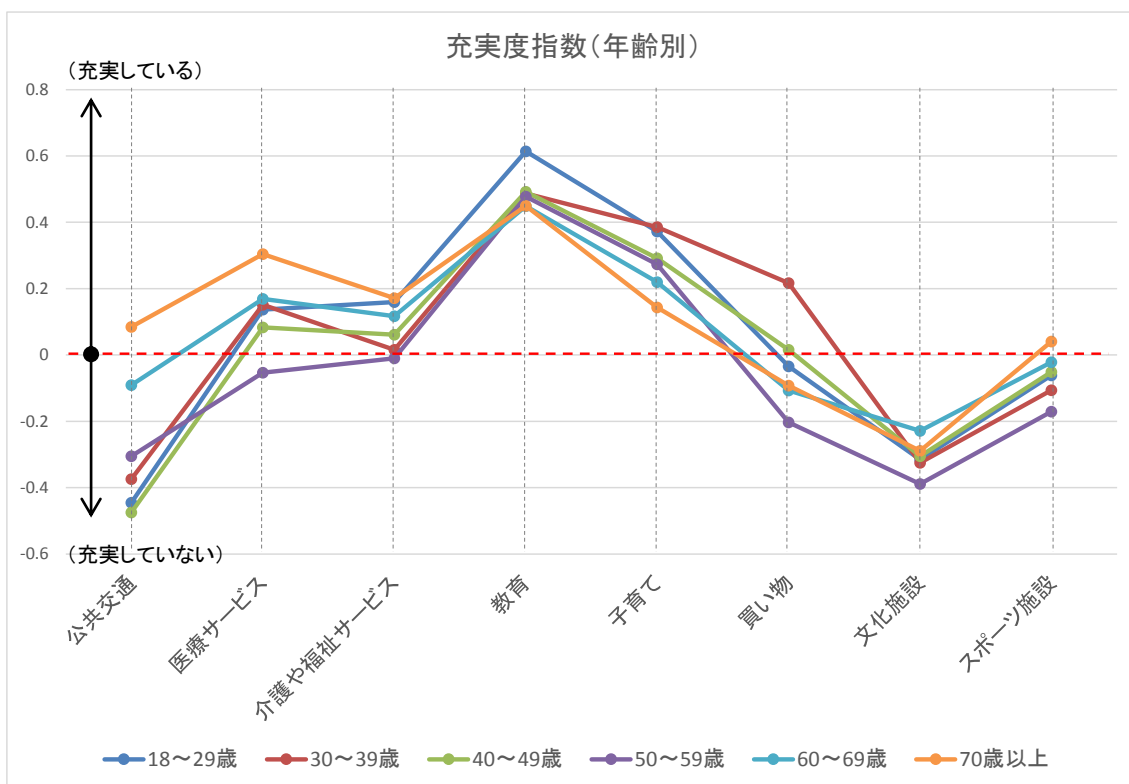
-0.40 -0.30 -0.20 -0.10 0.00 0.10 0.20 0.30 0.40 0.50 0.60



充実度指数 = 「充実している」×2 + 「どちらかといえば充実している」×1 +

「どちらかといえば充実していない」×(-1) + 「充実していない」×(-2) / 回答数

(充実度指数：最大2、最低-2)



《充実度指数》

$$= (\text{「充実している」} \times 2 + \text{「どちらかといえば充実している」} \times 1 + \text{「どちらかといえば充実していない」} \times (-1) + \text{「充実していない」} \times (-2)) / \text{回答数}$$

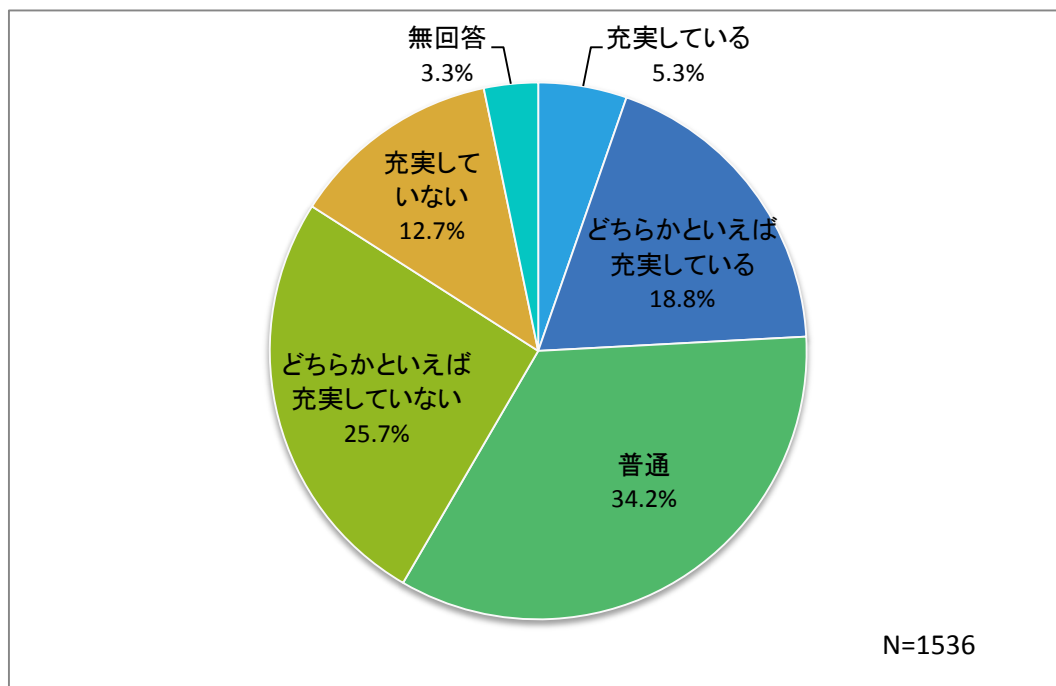
《分野別傾向》

①公共交通

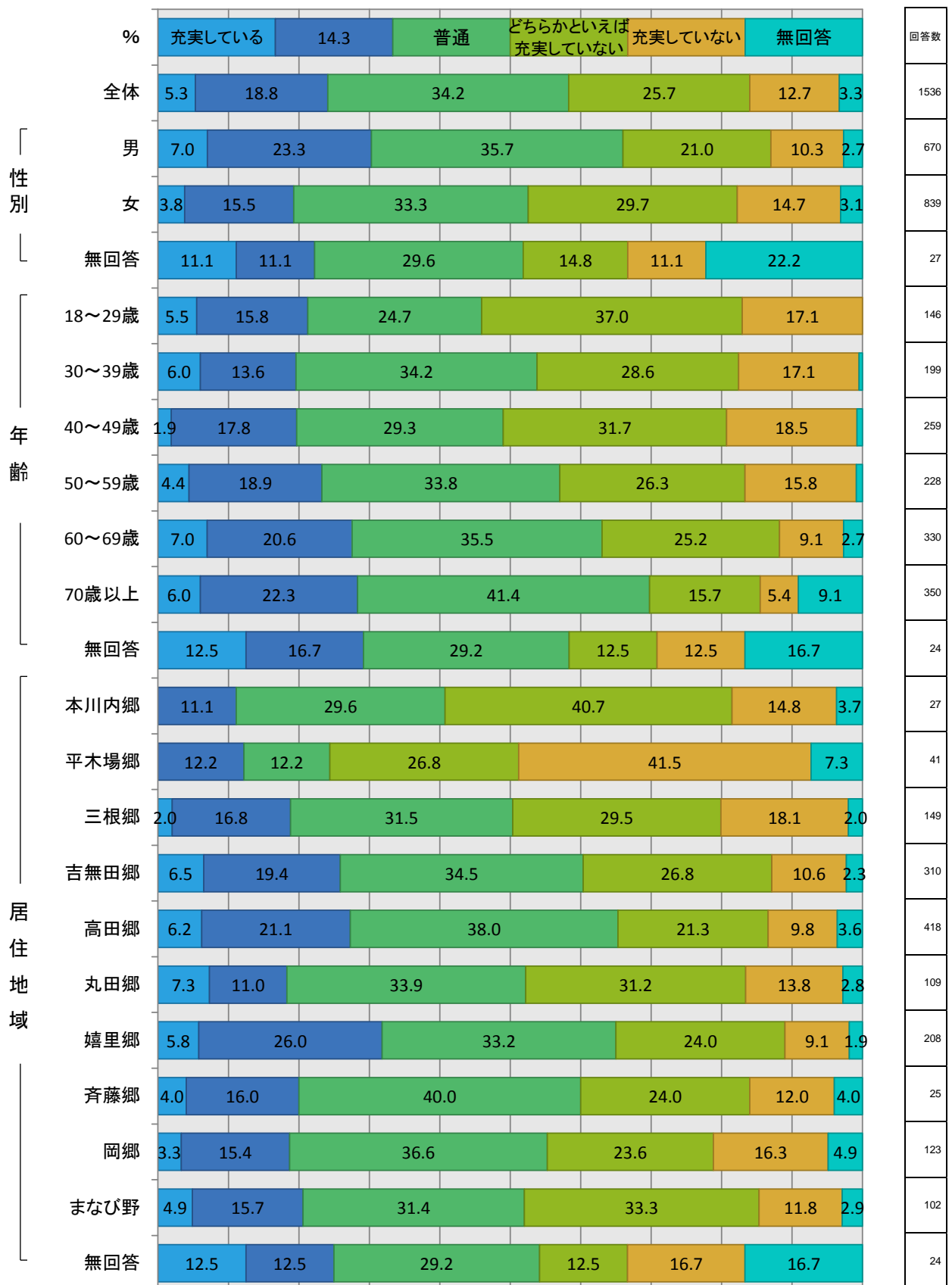
地域差が大きく特に平木場郷や本川内郷では評価が低い

全体傾向	公共交通の充実度については、「普通」が 34.2%と最も高いが、「充実していない（どちらかといえば充実していない）」が「充実している（どちらかといえば充実している）」を上回っている。	
クロス集計	男女別	「充実していない（どちらかといえば充実していない）」は、男性 31.3%に対し女性 44.4%と女性の評価が低い傾向にある。
	年齢別	年齢が高くなるにつれて「充実している（どちらかといえば充実している）」の割合が高くなる傾向にある。
	地域別	「充実している（どちらかといえば充実している）」は嬉里郷が唯一 30%を超えている。一方、平木場郷と本川内郷では「充実していない（どちらかといえば充実していない）」が 50%を超えており、特に評価が低い。

(全体傾向)



(基本属性クロス)

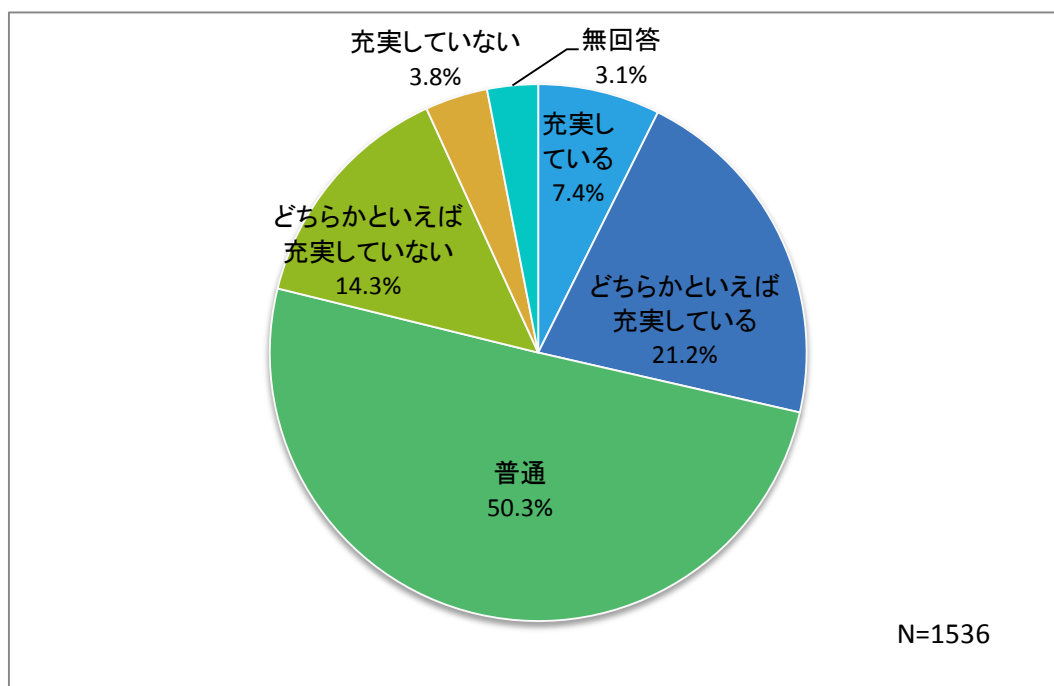


②医療サービス

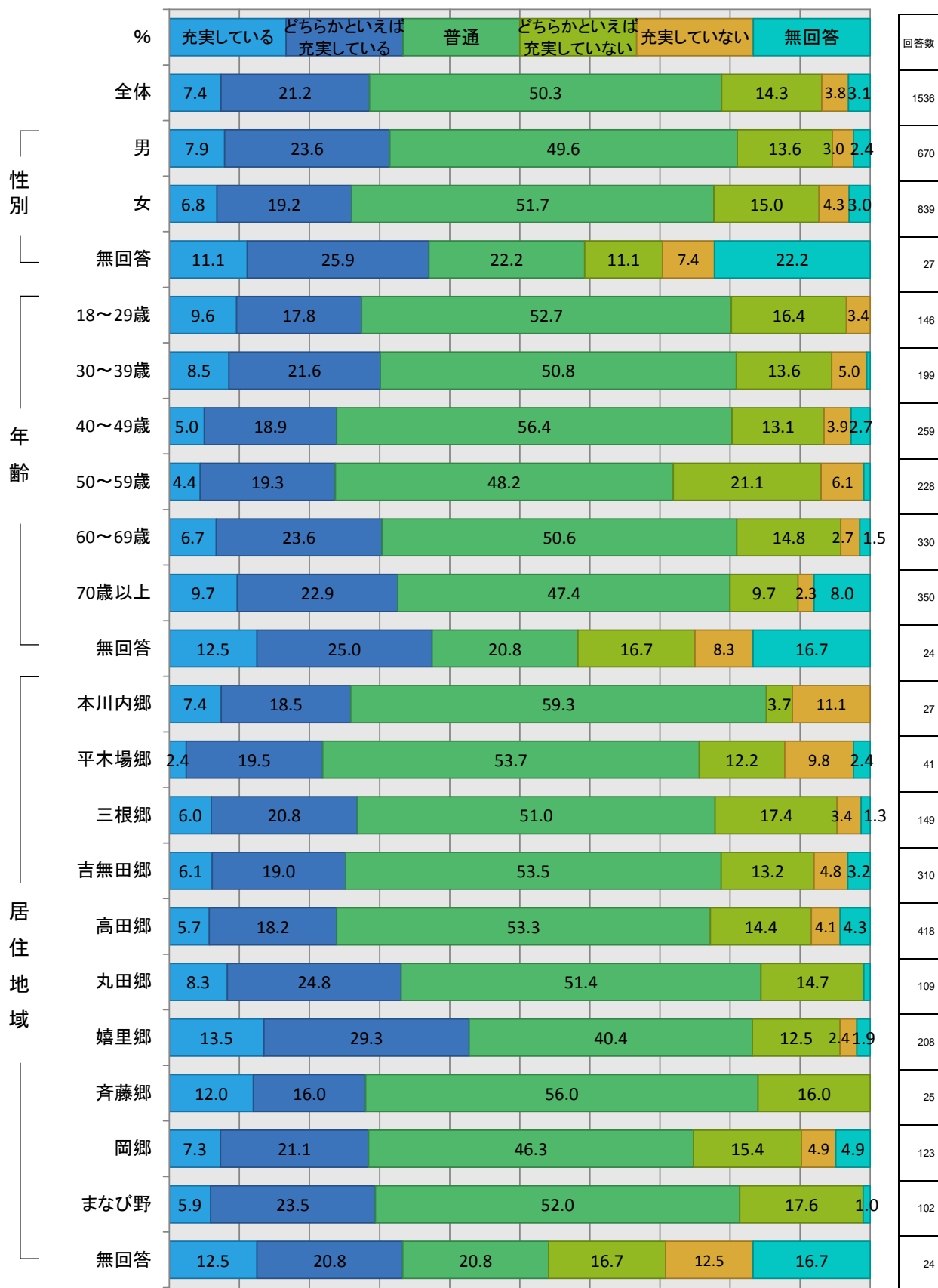
地域差が小さいが、高年代ほど評価が高い傾向

全体傾向	「普通」が50.3%と最も高く、「充実している（どちらかといえば充実している）」が「充実していない（どちらかといえば充実していない）」を10.5ポイント上回っている。	
クロス集計	男女別	男女での大きな傾向の違いは見られない。
	年齢別	全ての年代で「普通」の割合が最も高く、50歳代以外は「充実している（どちらかといえば充実している）」が「充実していない（どちらかといえば充実していない）」を上回り、特に70歳以上はその傾向が強い。
	地域別	全ての地域で「普通」の割合が最も高く、「充実している（どちらかといえば充実している）」が「充実していない（どちらかといえば充実していない）」を上回っているが、特に嬉里郷や丸田郷での評価が高い。

(全体傾向)



(基本属性クロス)

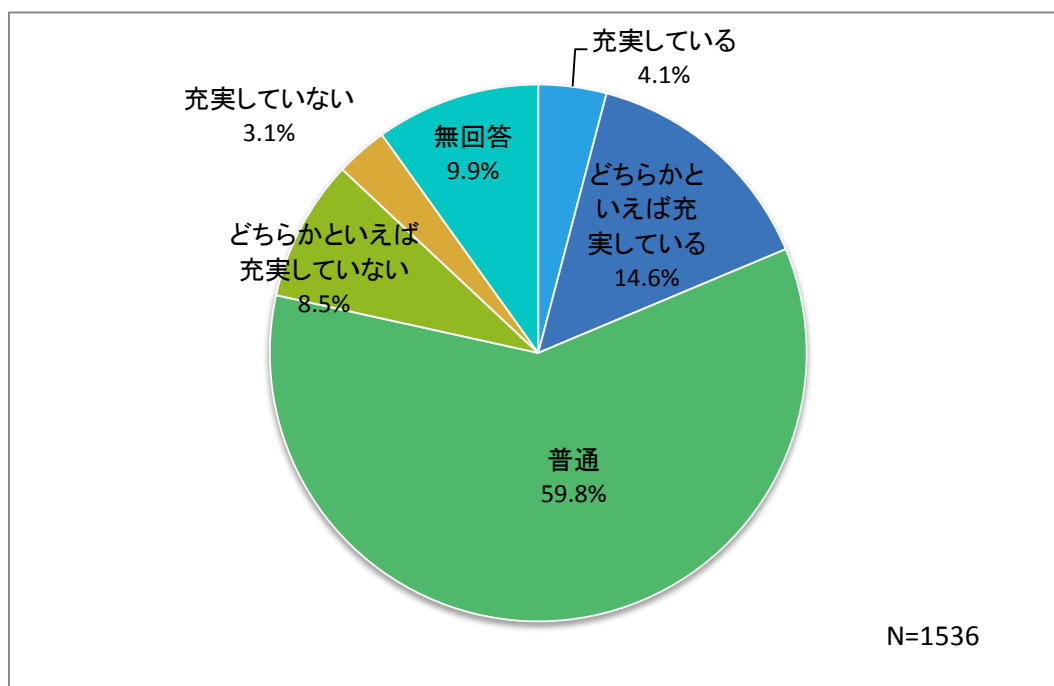


③介護や福祉サービス

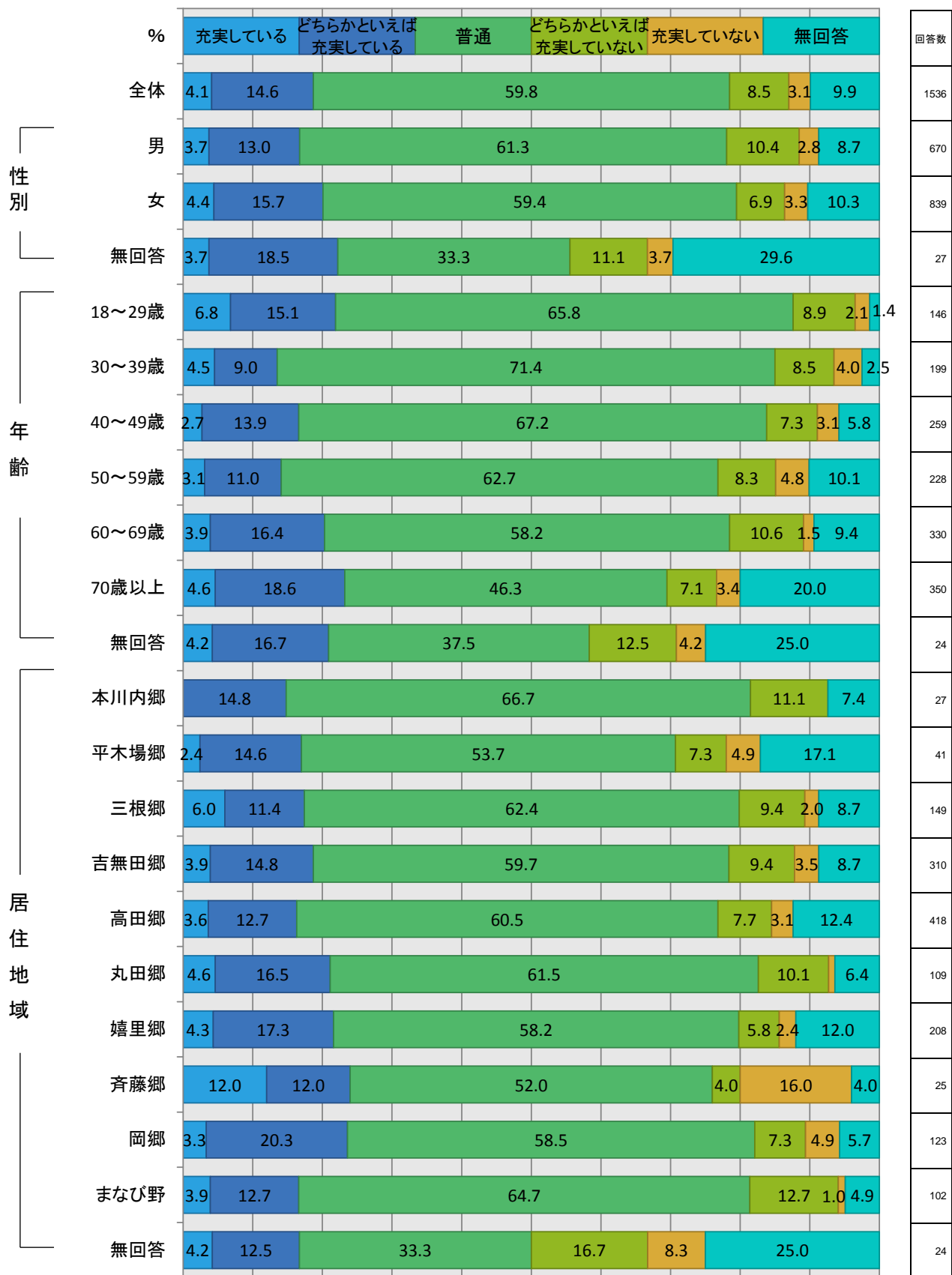
全体的には普通の評価。年代差や地域差は少ない。

全体傾向		介護や福祉サービスの充実度については、「普通」が59.8%と最も高く、「充実している（どちらかといえば充実している）」が「充実していない（どちらかといえば充実していない）」を7.1ポイント上回っている。
クロス集計	男女別	男女での大きな傾向の違いは見られない。
	年齢別	全ての年代で「普通」が最も高く、「充実している（どちらかといえば充実している）」が「充実していない（どちらかといえば充実していない）」を上回っている。「18～29歳」及び60歳以上での評価が高い傾向にある。
	地域別	全ての地域で「普通」が最も高く、「充実している（どちらかといえば充実している）」が「充実していない（どちらかといえば充実していない）」を上回っている。齊藤郷や岡郷で評価が高い傾向が見られる。

(全体傾向)



(基本属性クロス)

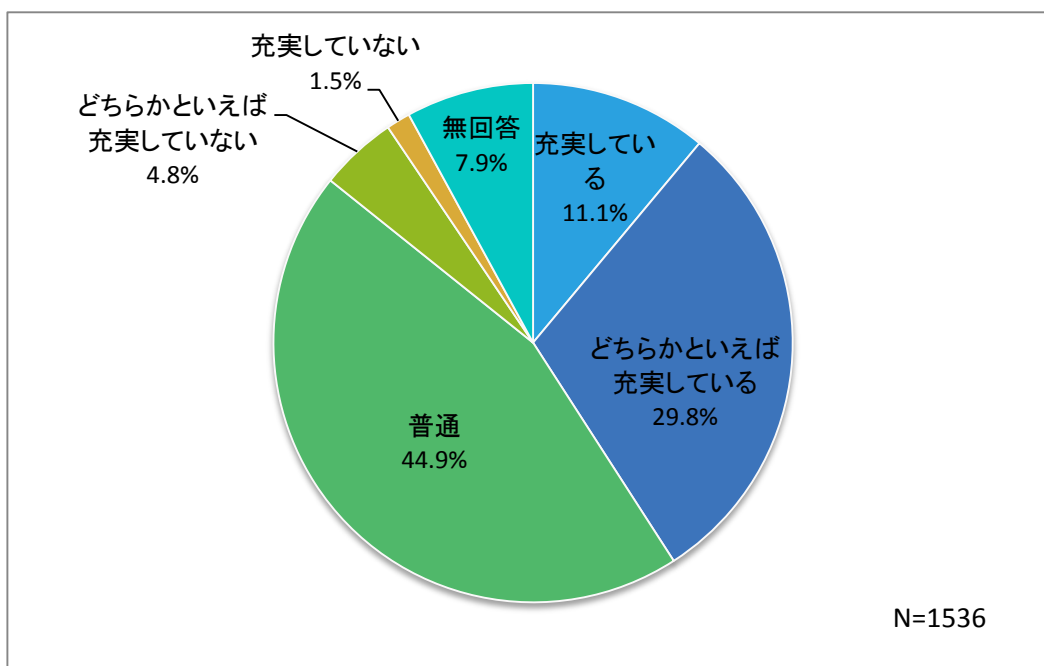


④教育

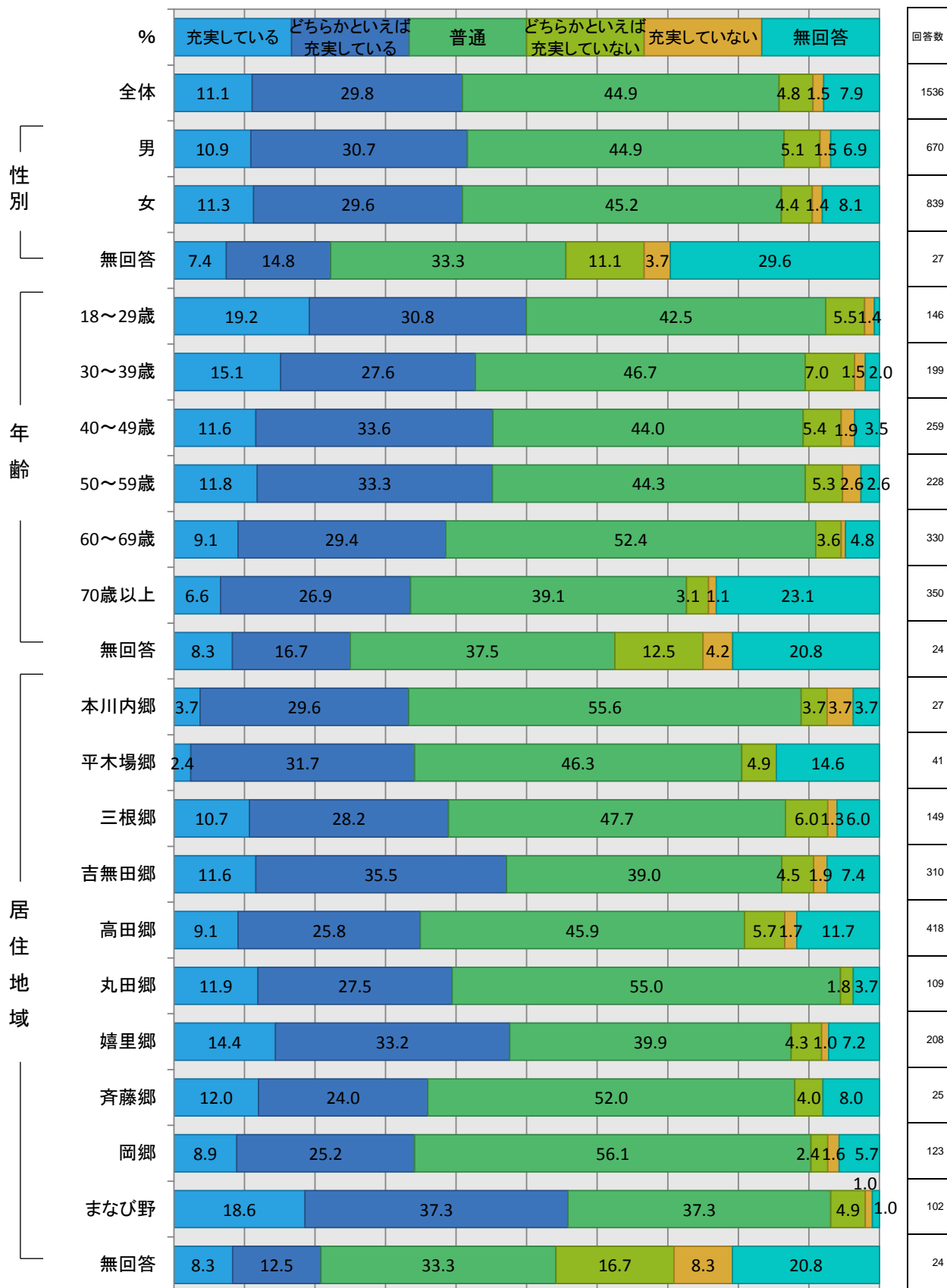
各年代、各地域で高評価。総合評価トップの「教育」

全体傾向	「普通」が44.9%と最も高いが、「充実している（どちらかといえば充実している）」も40.9%と全分野の中で最も評価が高くなっている。	
クロス集計	男女別	男女間での大きな傾向の違いは見られない。
	年齢別	全ての年代で高い評価にあるが、特に「18～29歳」から50歳代にかけての幅広い年代での評価が高くなっている。
	地域別	全ての地域で高い評価にあるが特にまなび野では「充実している（どちらかといえば充実している）」の割合が5割を超えるなど特に評価が高くなっている。

(全体傾向)



(基本属性クロス)

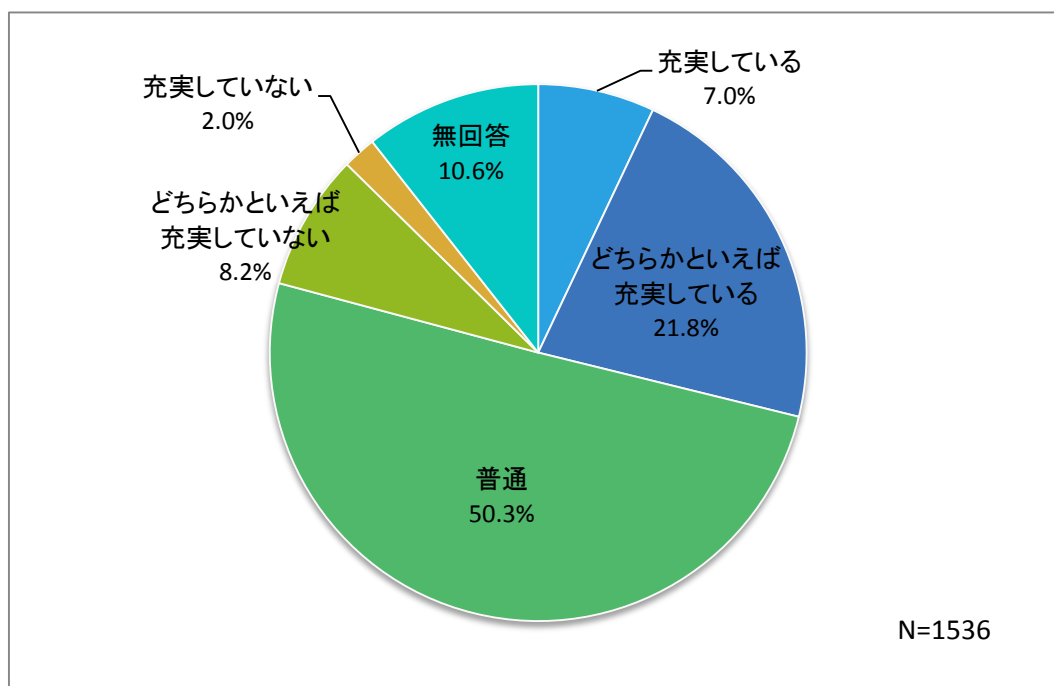


⑤子育て

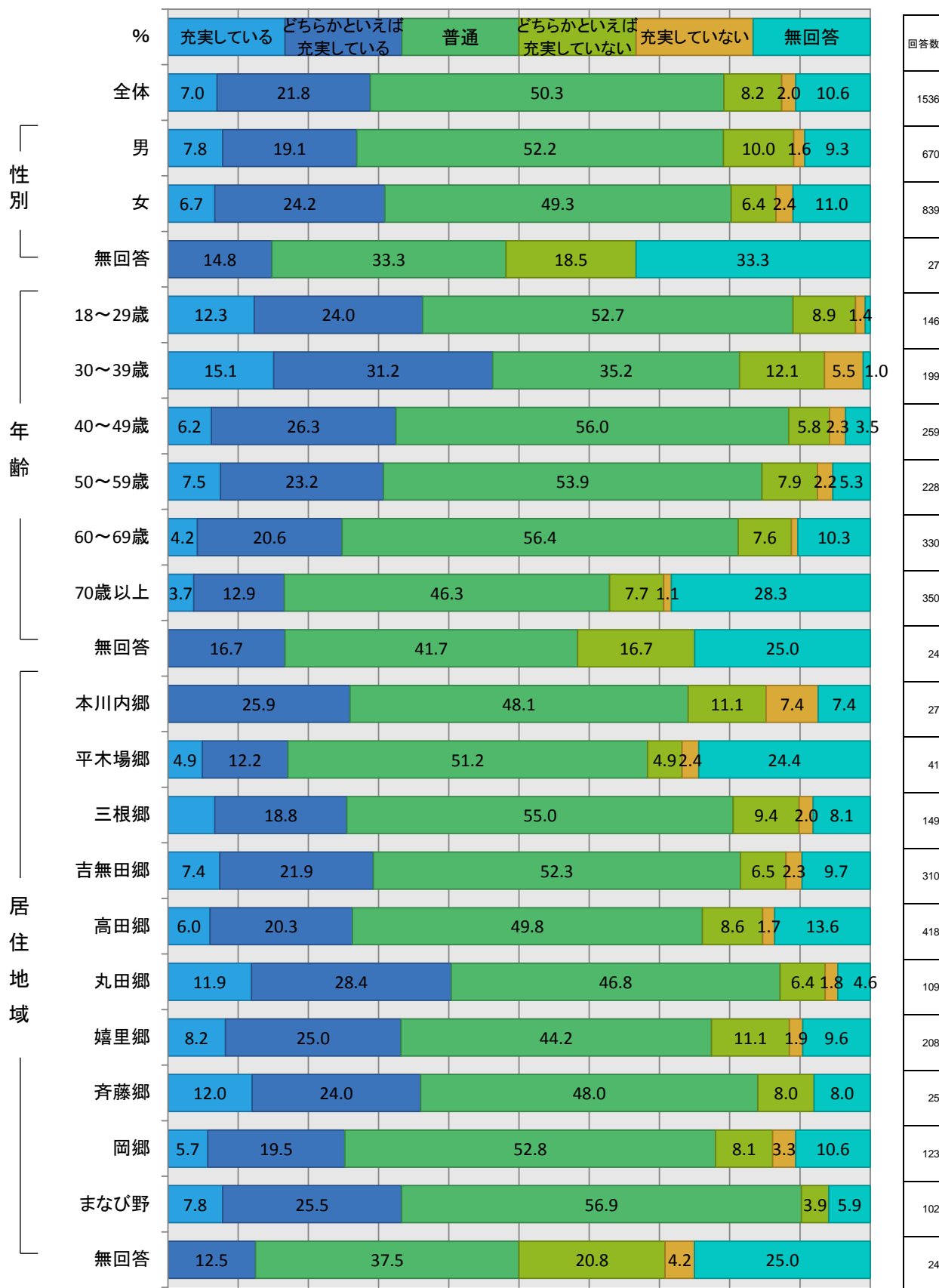
子育て世代の30歳代以下の年代で高評価

全体傾向	「普通」が50.3%と最も高く、「充実している（どちらかといえば充実している）」が「充実していない（どちらかといえば充実していない）」を18.6ポイント上回っている。	
クロス集計	男女別	男女間での大きな傾向の違いは見られない。
	年齢別	子育て世代である30歳代の評価が特に高く、次いで「18～29歳」の評価が高い。
	地域別	全ての地域で「充実している（どちらかといえば充実している）」が「充実していない（どちらかといえば充実していない）」を上回っており、丸田郷、まなび野、斉藤郷、嬉里郷の順で評価が高い。

(全体傾向)



(基本属性クロス)

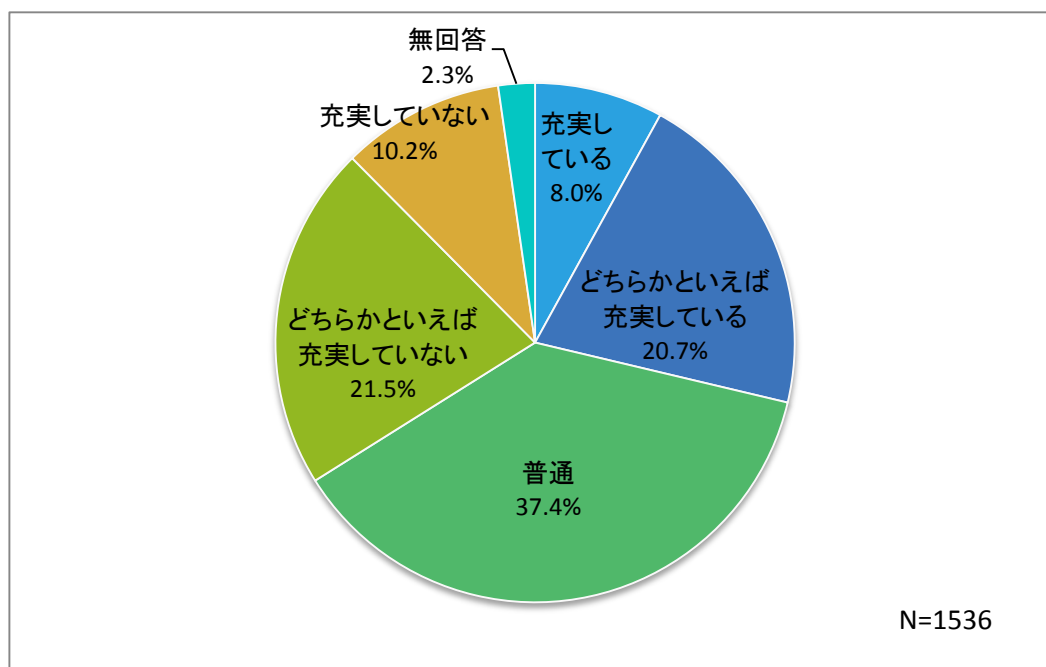


⑥買い物

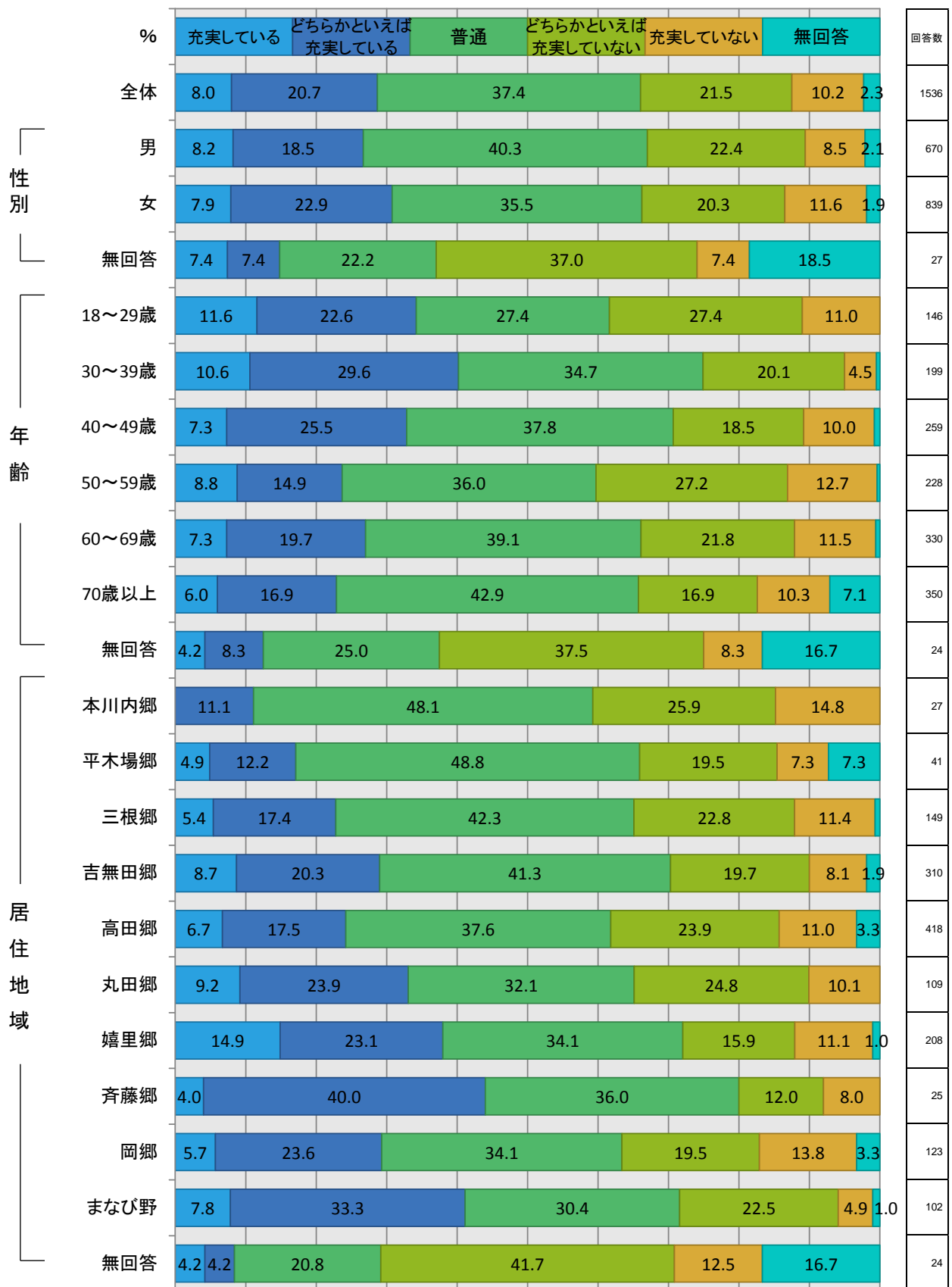
年代が高くなるにつれ評価が低くなる傾向

全体傾向	「普通」が37.4%と最も高いが、「充実していない（どちらかといえば充実していない）」が「充実している（どちらかといえば充実している）」を3.0ポイント上回っている。	
クロス集計	男女別	男女間での大きな傾向の違いは見られない。
	年齢別	30歳代から40歳代にかけては評価が高いが、年代が高くなるにつれ評価が低くなる傾向が見られる。
	地域別	齊藤郷、まなび野、嬉里郷では、「充実している（どちらかといえば充実している）」が「充実していない（どちらかといえば充実していない）」を上回っている。一方、本川内郷、平木場郷、三根郷、高田郷では充実していないとする傾向が強い。

(全体傾向)



(基本属性クロス)

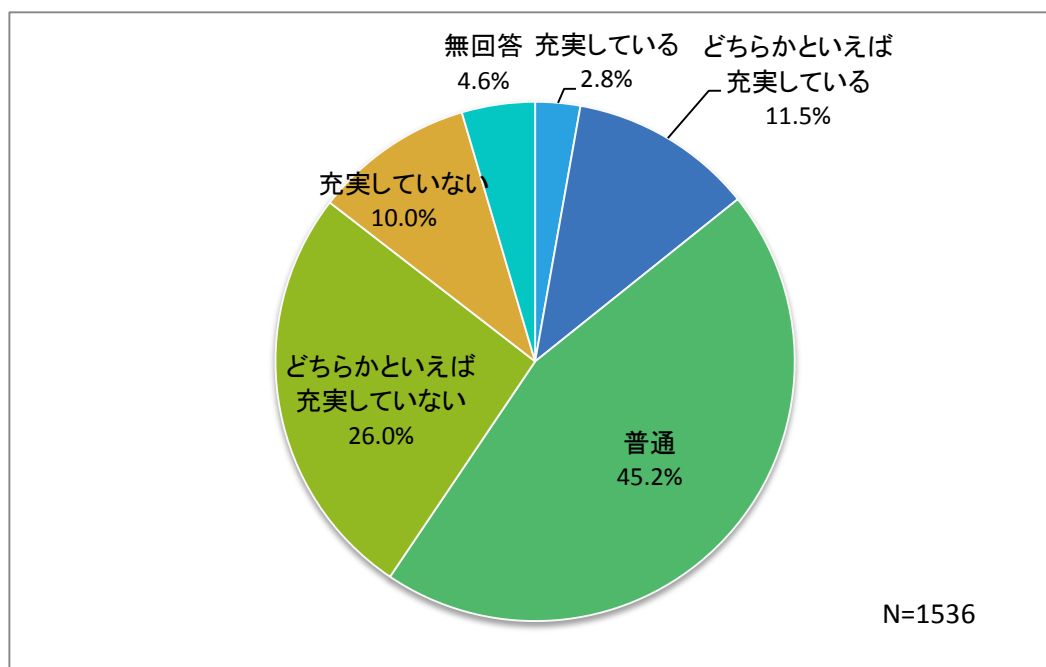


⑦文化施設

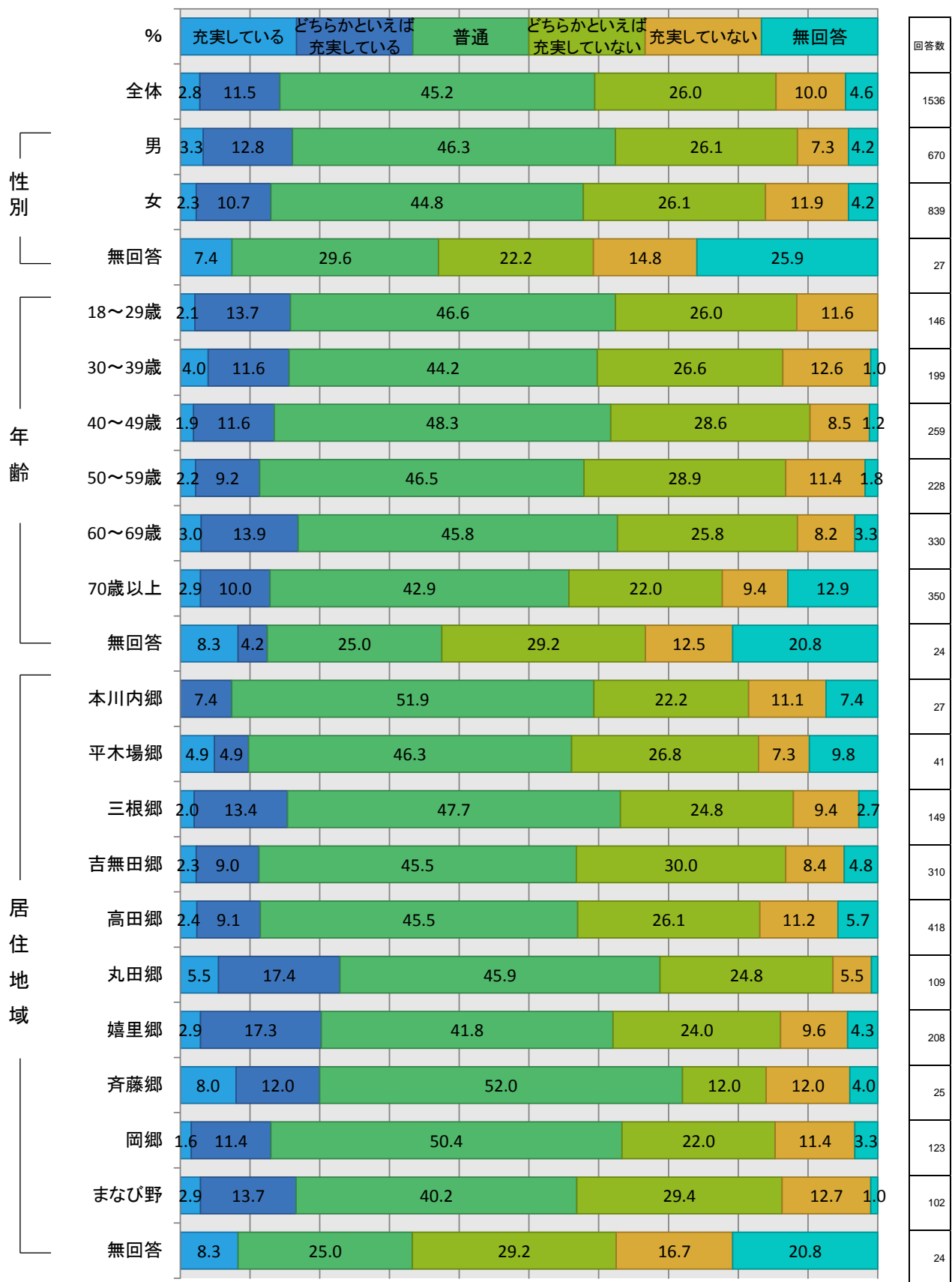
全体的に低評価

全体傾向	「普通」が45.2%と最も高いが、「充実していない（どちらかといえば充実していない）」が「充実している（どちらかといえば充実している）」を21.7ポイント上回るなど全体的に評価が低い。	
クロス集計	男女別	男女間での大きな傾向の違いは見られない。
	年齢別	全ての年代において「充実していない（どちらかといえば充実していない）」が「充実している（どちらかといえば充実している）」を上回っている。
	地域別	全地域において「充実していない（どちらかといえば充実していない）」が「充実している（どちらかといえば充実している）」を上回っている。特にまなび野では「充実していない（どちらかといえば充実していない）」が40%を超えている。

(全体傾向)



(基本属性クロス)

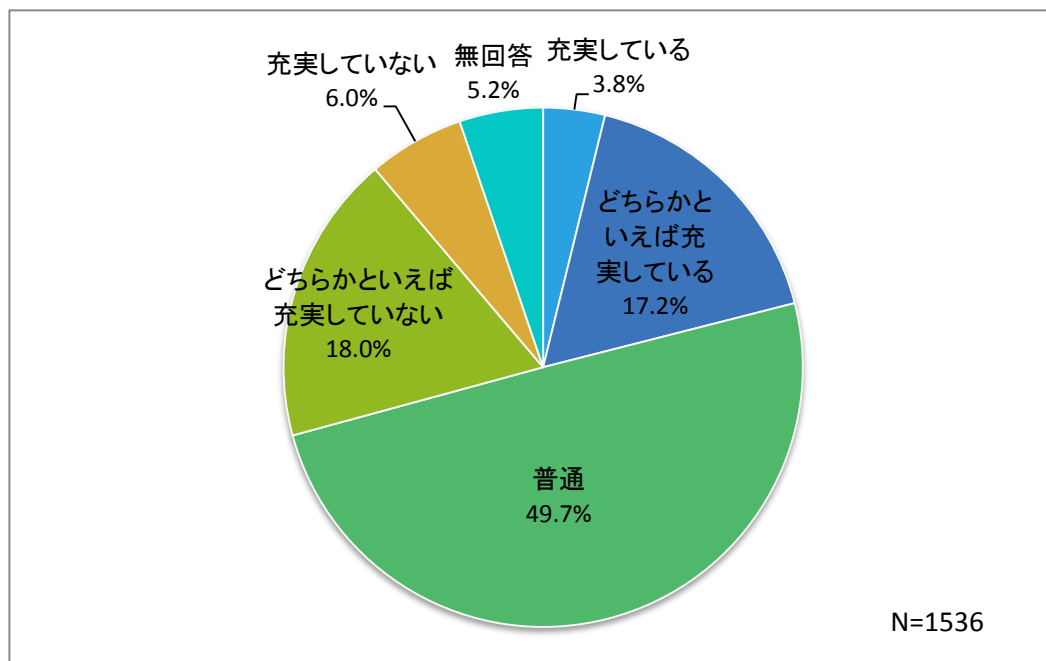


⑧スポーツ施設

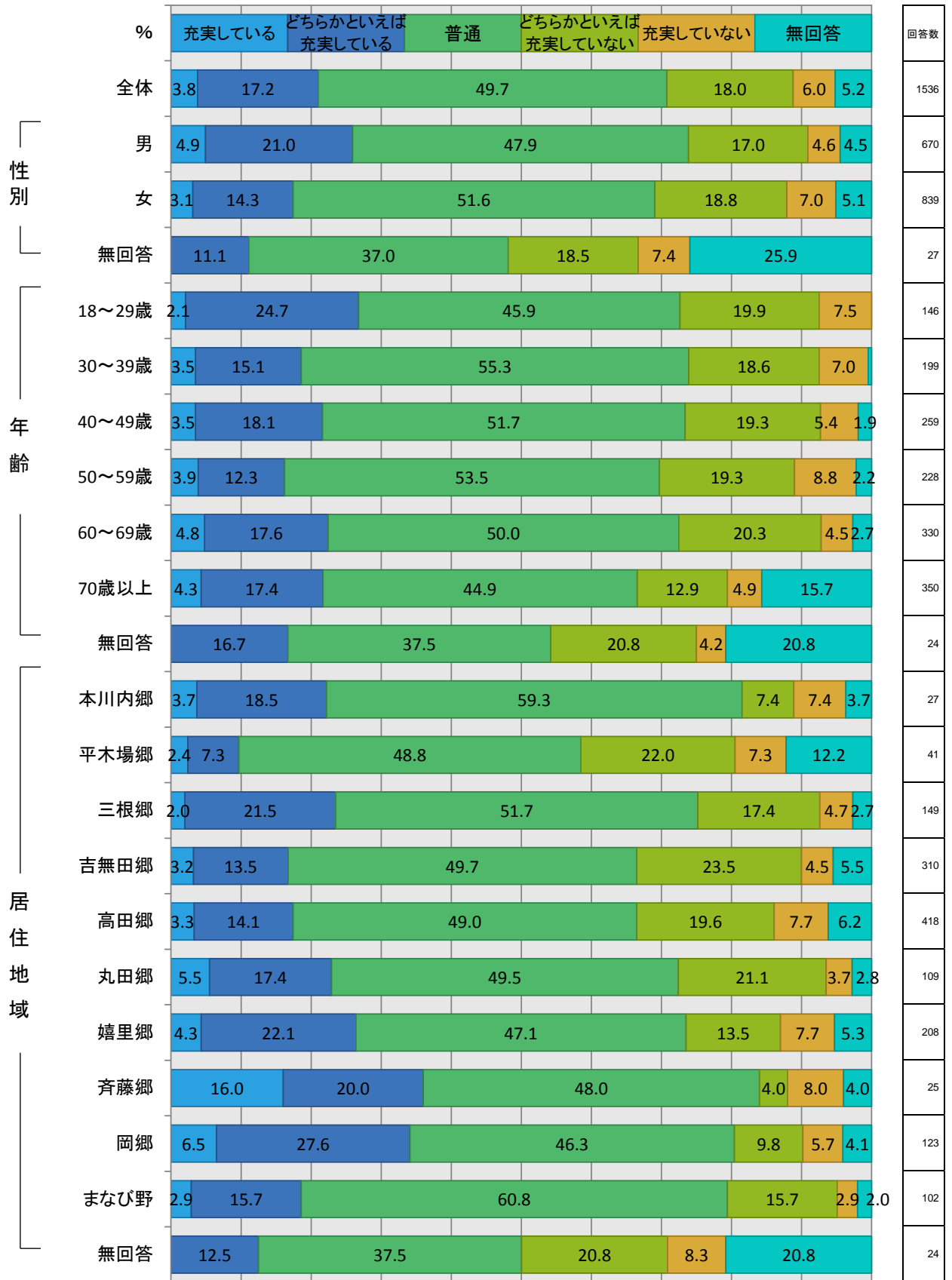
男性に比べ女性が低評価

全体傾向	「普通」が49.7%と最も高いが、「充実していない（どちらかといえば充実していない）」が「充実している（どちらかといえば充実している）」を3.0ポイント上回っている。	
クロス集計	男女別	「充実していない（どちらかといえば充実していない）」は男性21.6%に対し女性が25.8%と女性の評価が低い傾向が見られる。
	年齢別	70歳以上以外の幅広い年代において、「充実していない（どちらかといえば充実していない）」が「充実している（どちらかといえば充実している）」を上回っている。
	地域別	齊藤郷、岡郷、本川内郷は「充実している（どちらかといえば充実している）」が「充実していない（どちらかといえば充実していない）」を上回っており、他地域に比べて評価が高い。

(全体傾向)



(基本属性クロス)

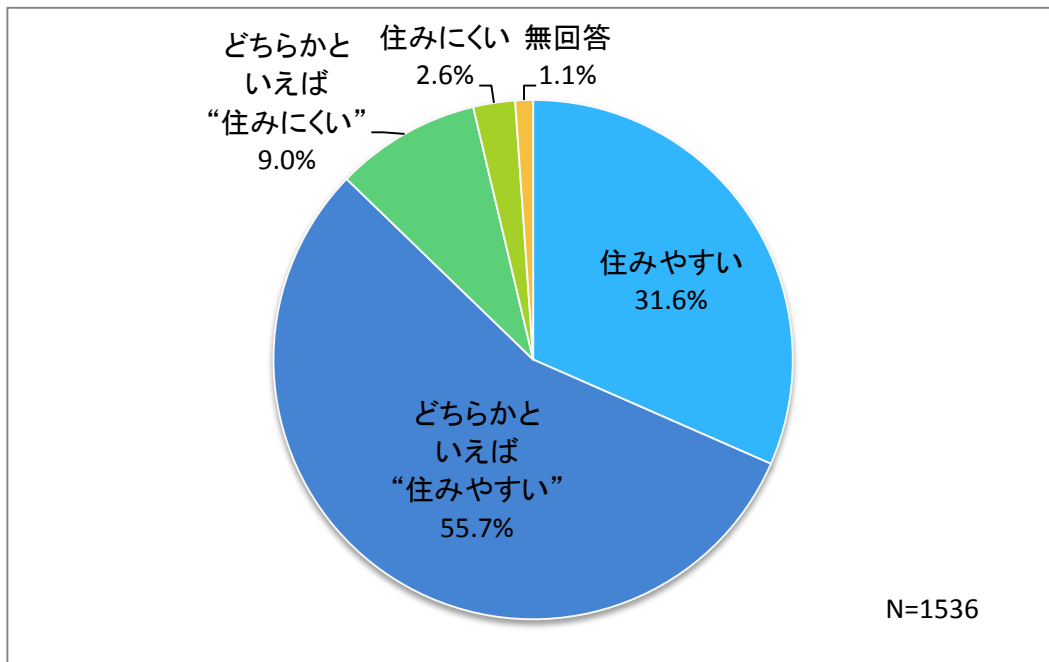


問3 (2)現在の生活環境を総合的にみて、今の長与町は“住みやすいところ”だと思いますか。

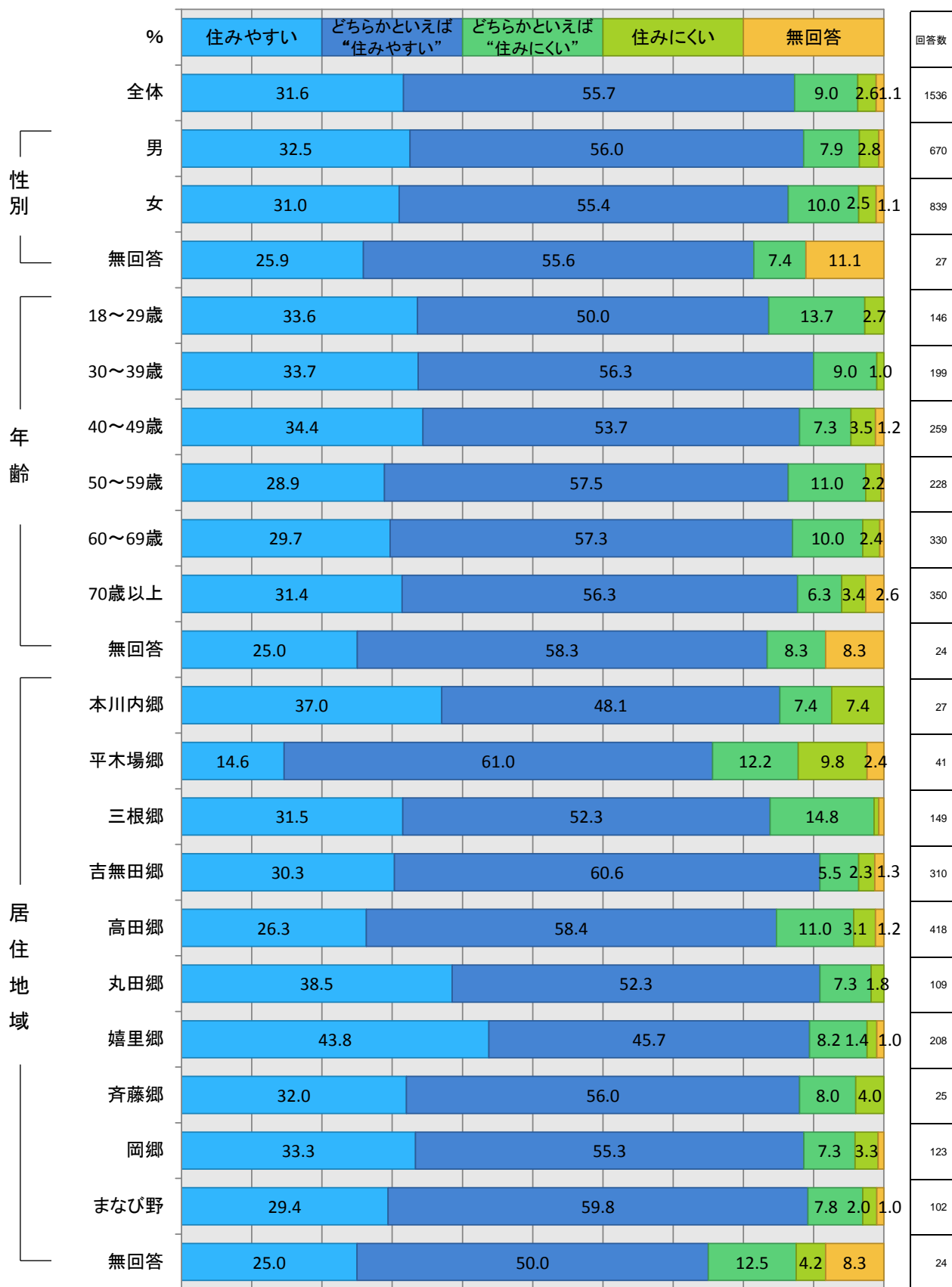
住みやすさは各年代、各地域で高評価

全体傾向		「住みやすい」と「どちらかといえば住みやすい」の合計は 87.3%と「住みにくい」「どちらかといえば住みにくい」の 11.6%を大きく上回っている。
クロス集計	男女別	男女間での大きな傾向の違いは見られない。
	年齢別	年齢による大きな傾向の違いは見られず、全ての年代で評価が高い。
	地域別	全ての地域で評価が高いが、平木場郷では住みにくいとする割合が他地域に比べて高い。

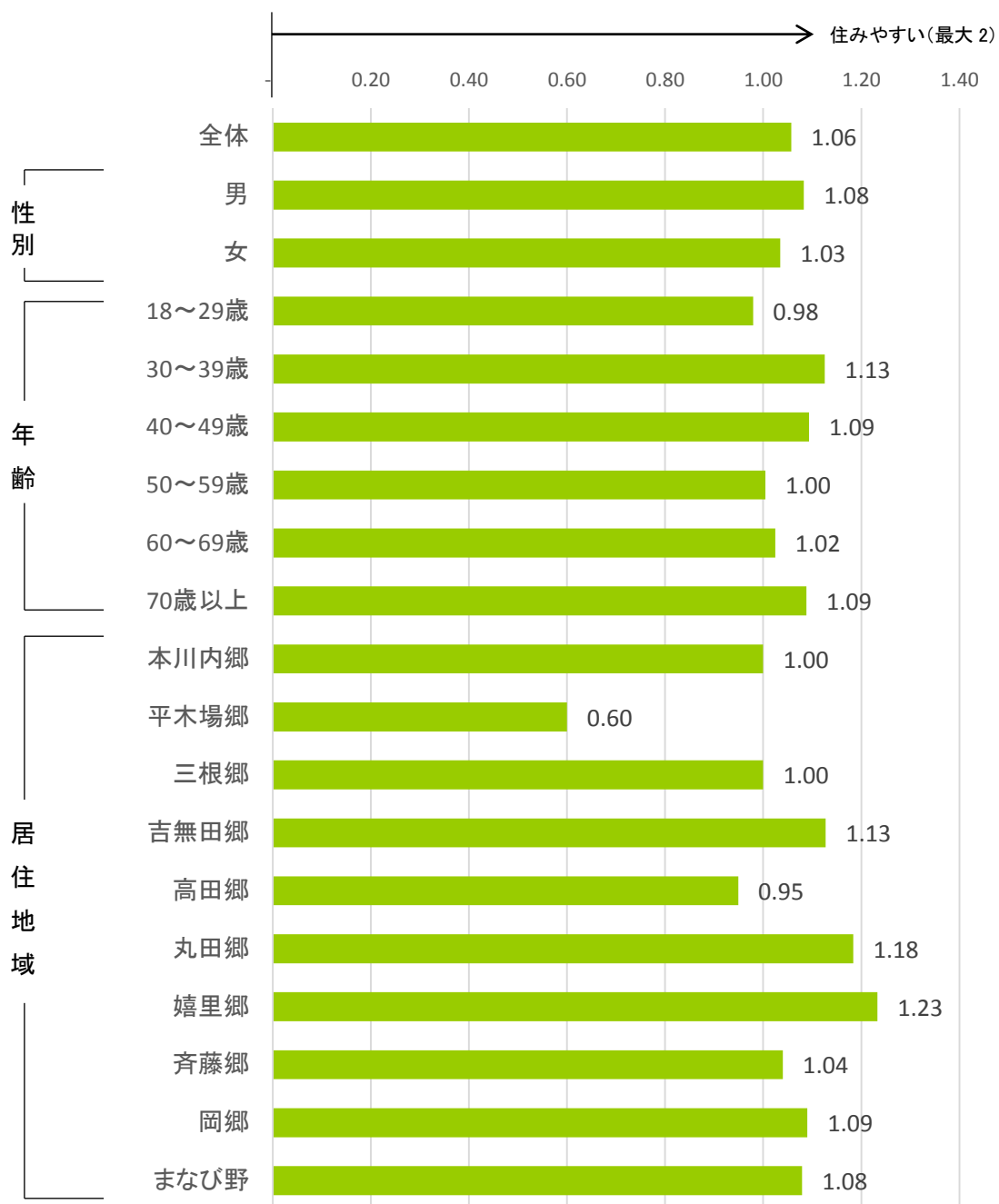
(全体傾向)



(基本属性クロス)



(住みやすさ指数)



《住みやすさ指数》

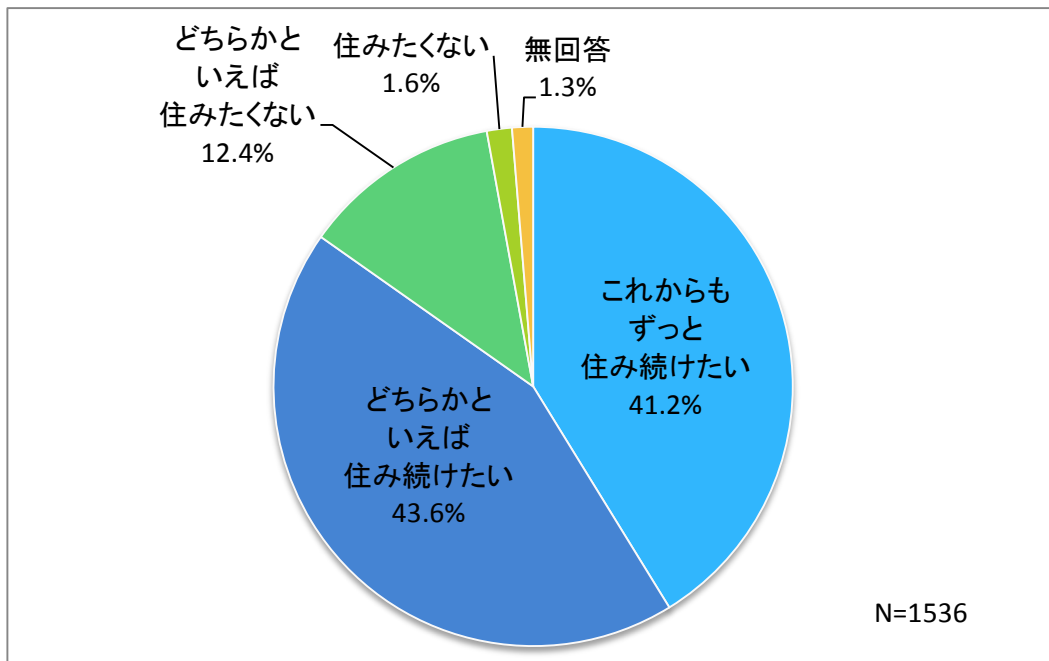
$$= (\text{「住みやすい」} \times 2 + \text{「どちらかといえば住みやすい」} \times 1 + \text{「どちらかといえば住みやすくない」} \times (-1) + \text{「住みにくい」} \times (-2)) / \text{回答数}$$

問3 (3)これからも長与町に住み続けたいと思いますか。(択一)

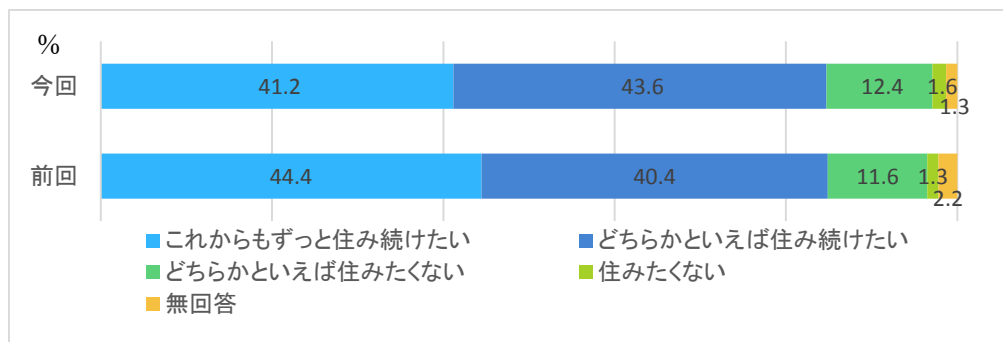
定住意向 85%。前回調査とほぼ同水準の高評価

全体傾向	「これからもずっと住み続けたい」、「どちらかといえば住み続けたい」の合計は84.8%と高い定住意向が見られる。	
クロス集計	男女別	男女間による大きな傾向の違いは見られない。
	年齢別	「これからもずっと住み続けたい」割合が年齢とともに高くなっている。
	地域別	特に斉藤郷、本川内郷の定住意向が高い。

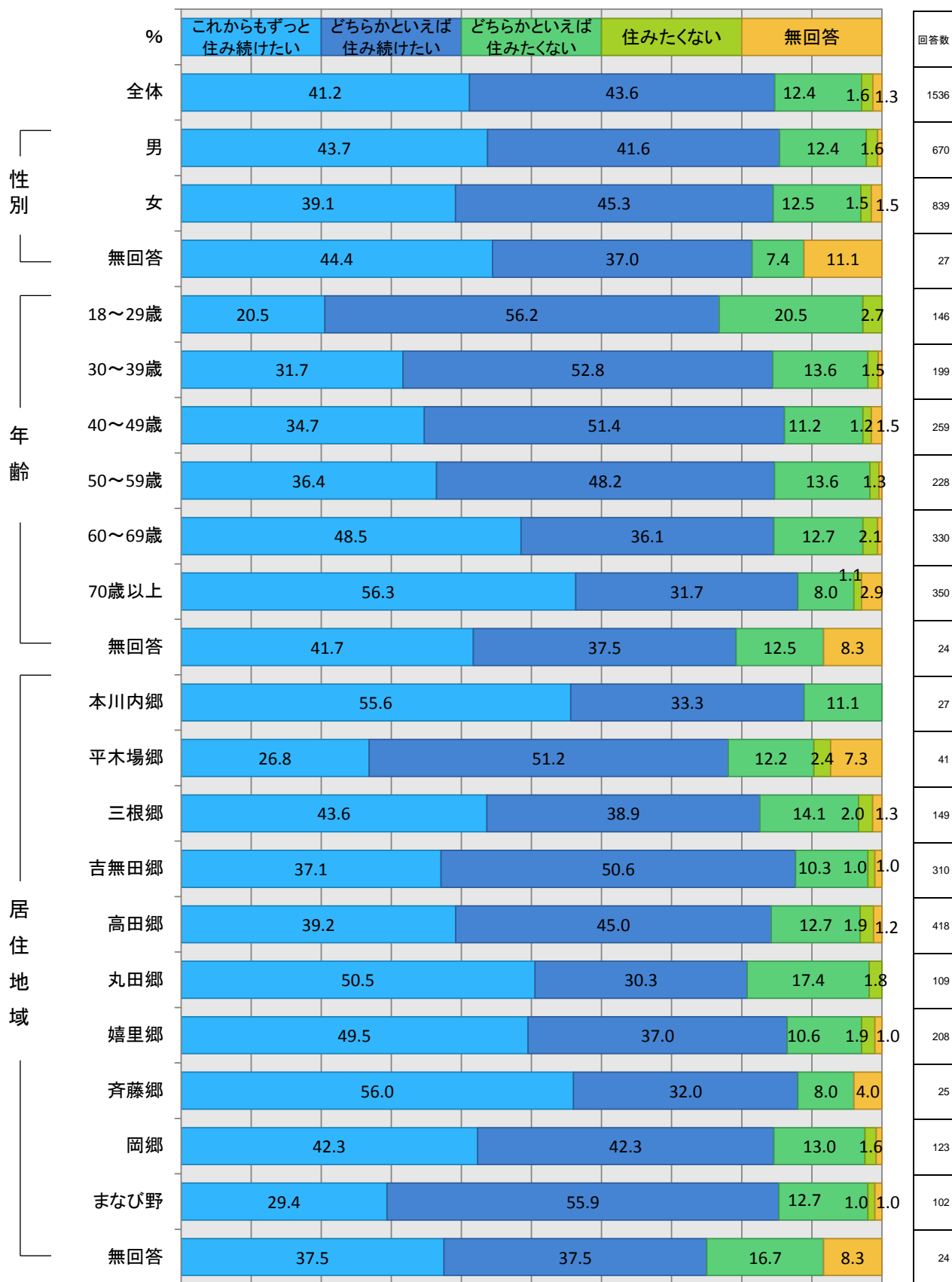
(全体傾向)



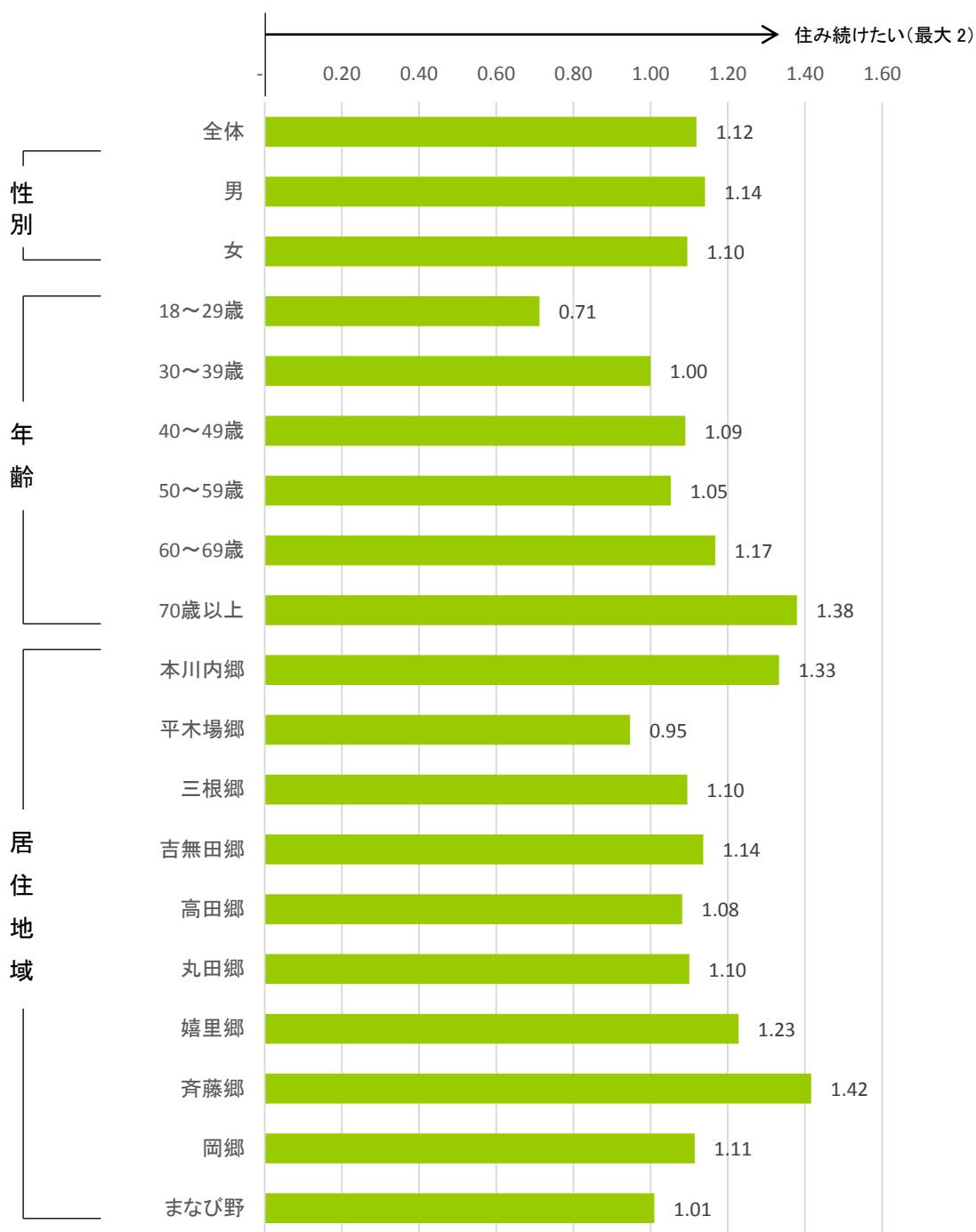
前回調査 (平成 21 年度) との比較



(基本属性クロス)



(定住指数)



《定住指数》 = (「住み続けたい」×2 + 「どちらかといえば住み続けたい」×1 + 「どちらかといえば住み続けたくない」×(-1) + 「住みたくない」×(-2)) / 回答数

問3 (4)あなたが長与町に住みたくないと思う理由は何ですか。(前問付問、2 つまで)

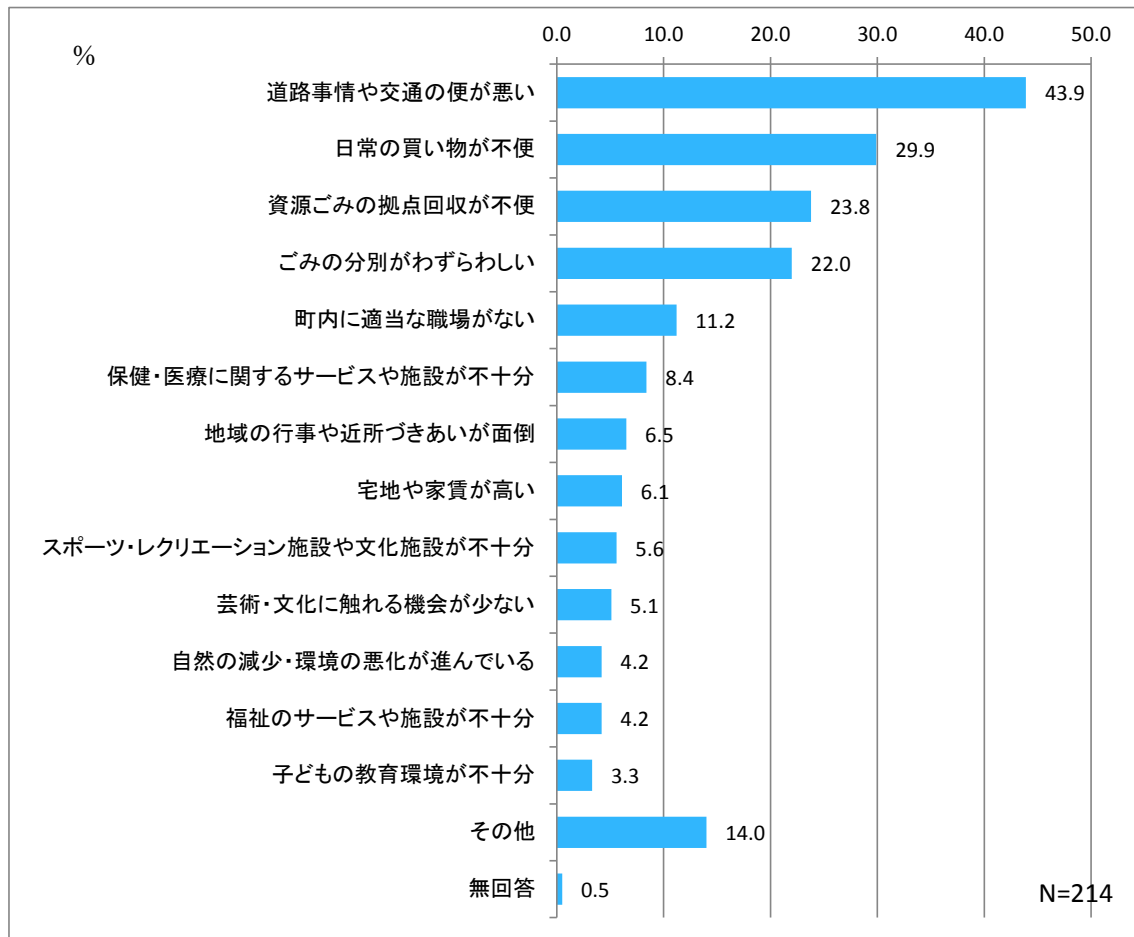
※前問において「住みたくない(どちらかといえば住みたくない)」と回答した 214 名(14.0%)への設問。

交通事情や買い物の利便性などを問題視

全体傾向

「道路事情や交通の便が悪い」が 43.9%で最も高く、「日常の買い物が不便」、「資源ごみの拠点回収が不便」、「ごみの分別がわずらわしい」と続いている。

(全体傾向)

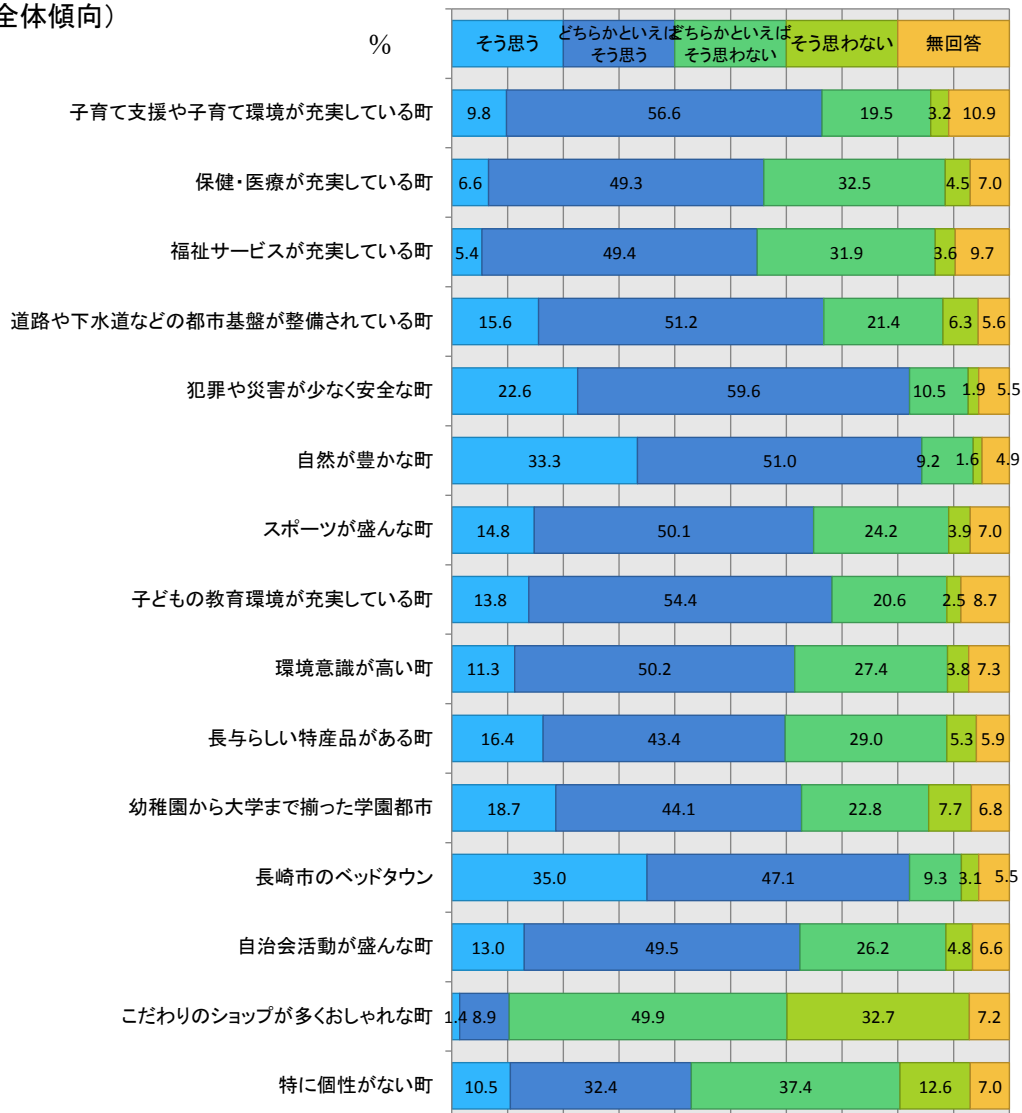


問3 (5)長与町についてどのようなイメージをお持ちですか。(4段階評価で択一)

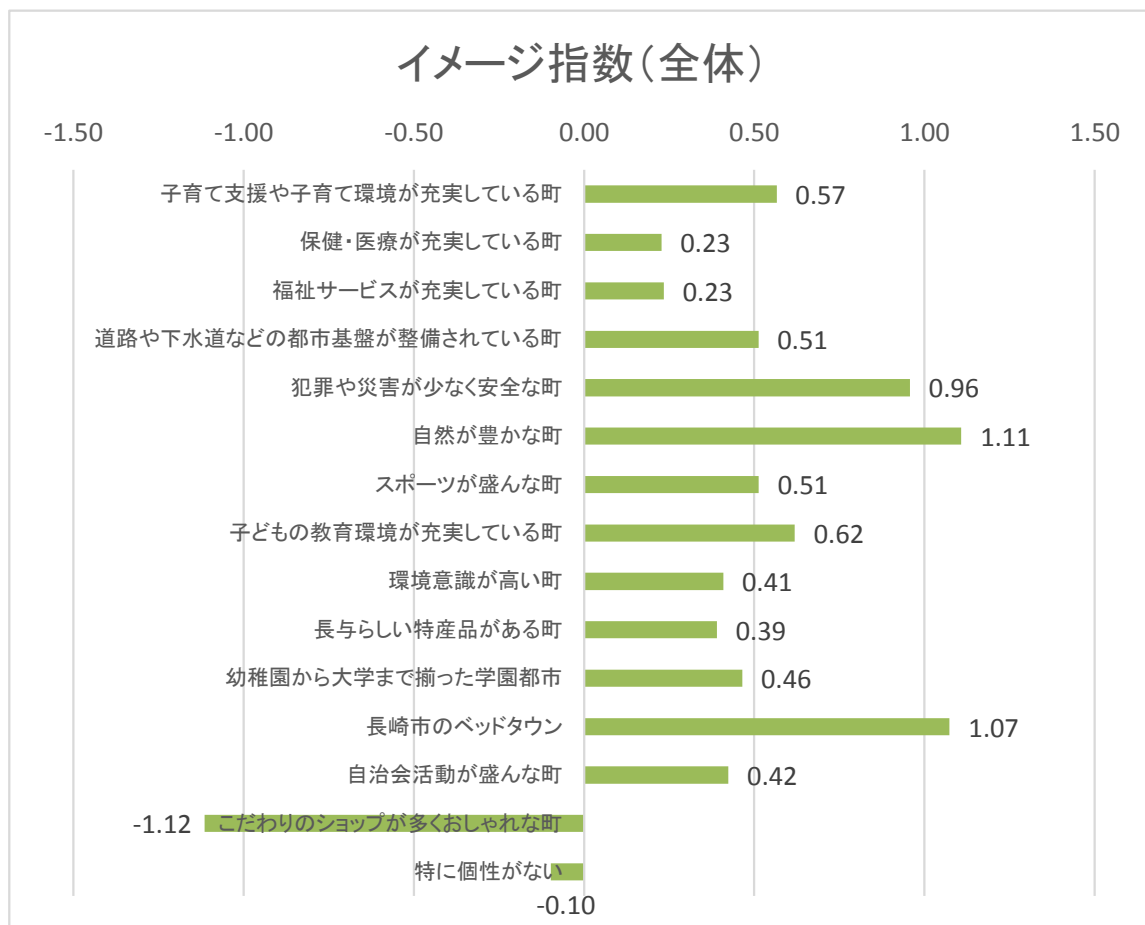
長与町のイメージは「自然が豊かな町」、「長崎市のベッドタウン」、「犯罪や災害が少なく安全な町」など。「こだわりのショップが多くおしゃれな町」のイメージは希薄。

全体傾向	「自然が豊かな町」、「長崎市のベッドタウン」、「犯罪や災害が少なく安全な町」は、「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」の合計が80%を超えており、長与町のイメージとして定着している。一方、「こだわりのショップが多くおしゃれな町」とする回答は極端に少なく、「特に個性がない町」との回答も4割程度にとどまった。	
イメージ指数	年齢別	年齢別での大きな傾向の違いは見られないが、「スポーツが盛んな町」については30歳代以下の年代でイメージが希薄な状況が見える。
	地域別	地域別での大きな傾向の違いは見られないが、「環境意識が高い町」については斉藤郷や本川内郷でイメージが希薄な状況が窺える。

(全体傾向)



(イメージ指数)

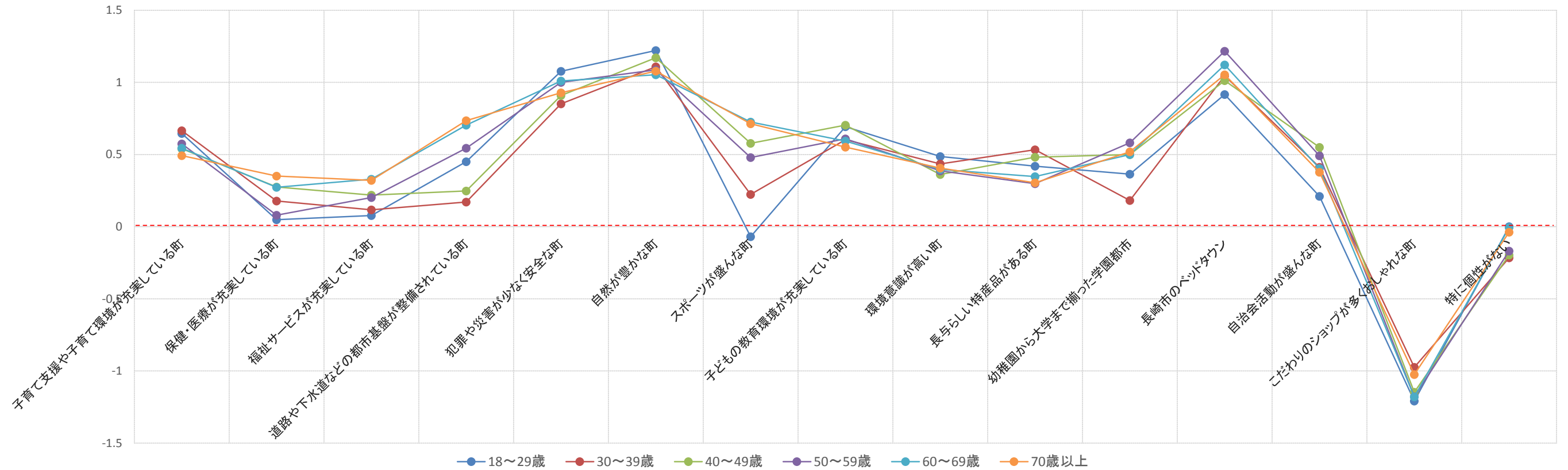


《イメージ指数》

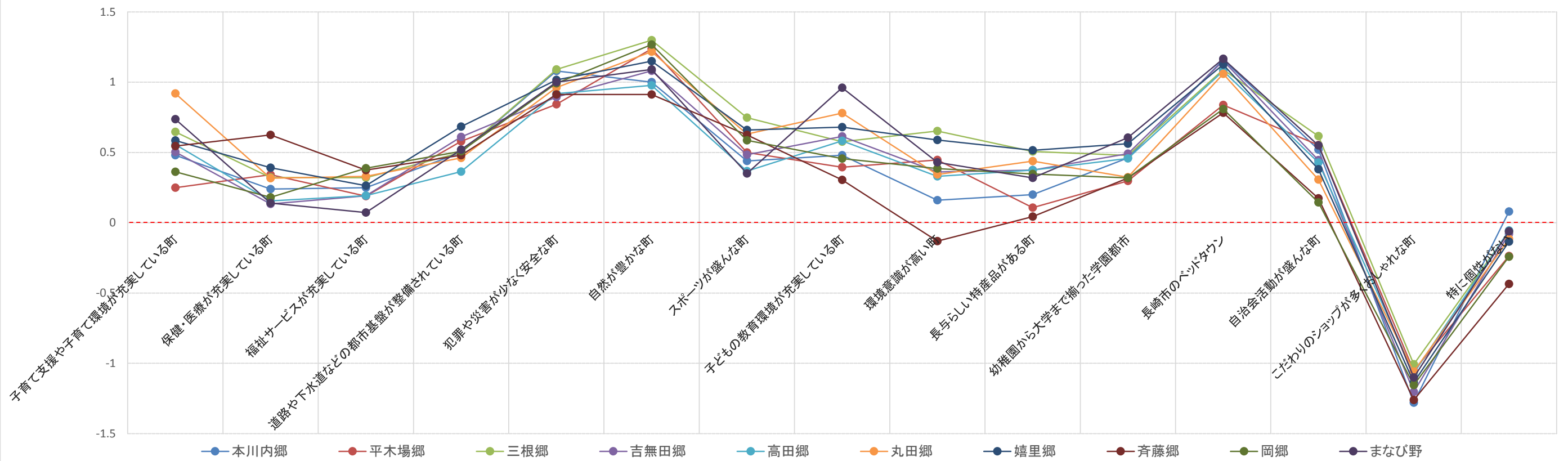
$$= (\text{「そう思う」} \times 2 + \text{「どちらかといえばそう思う」} \times 1 + \text{「どちらかといえば思わない」} \times (-1) + \text{「思わない」} \times (-2)) / \text{回答数}$$

イメージ指数（年齢別、地域別）

イメージ指数（年齢別）



イメージ指数（地域別）

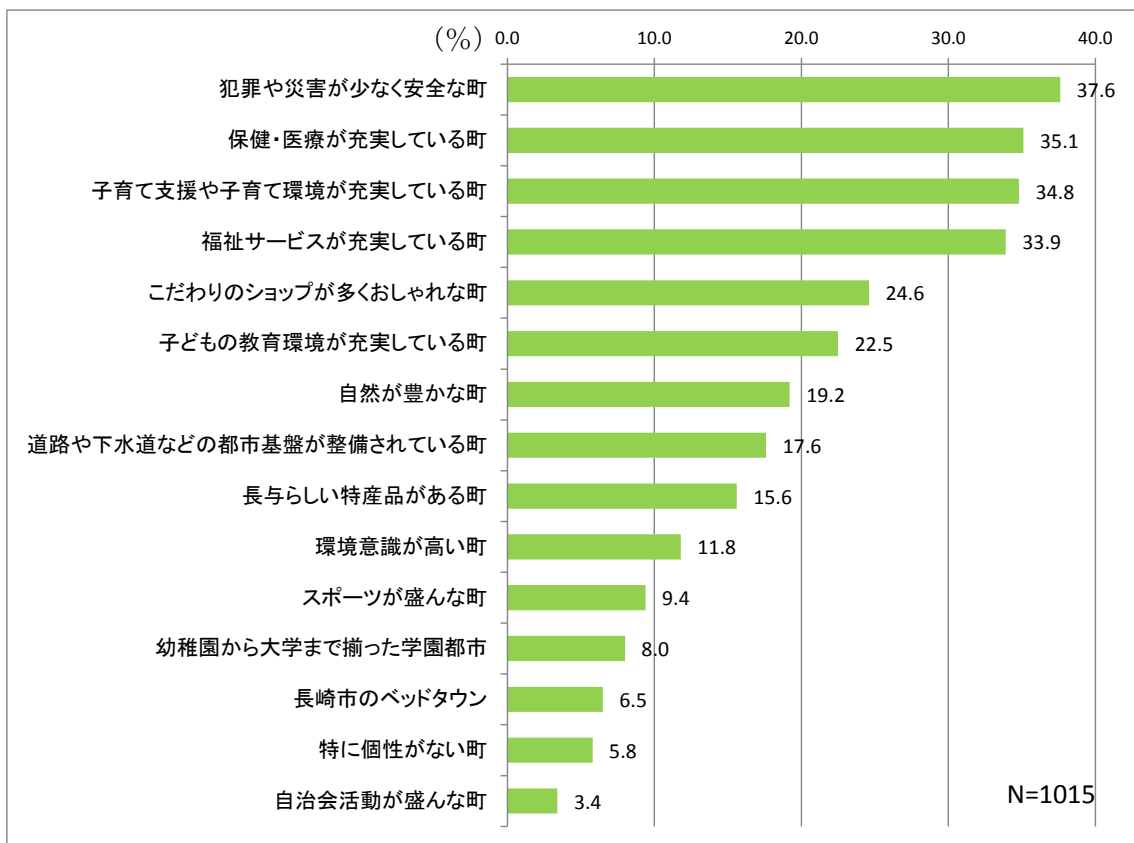


問3 (6)将来の長与町の個性として更に伸ばしていきたいイメージ (3つまで)

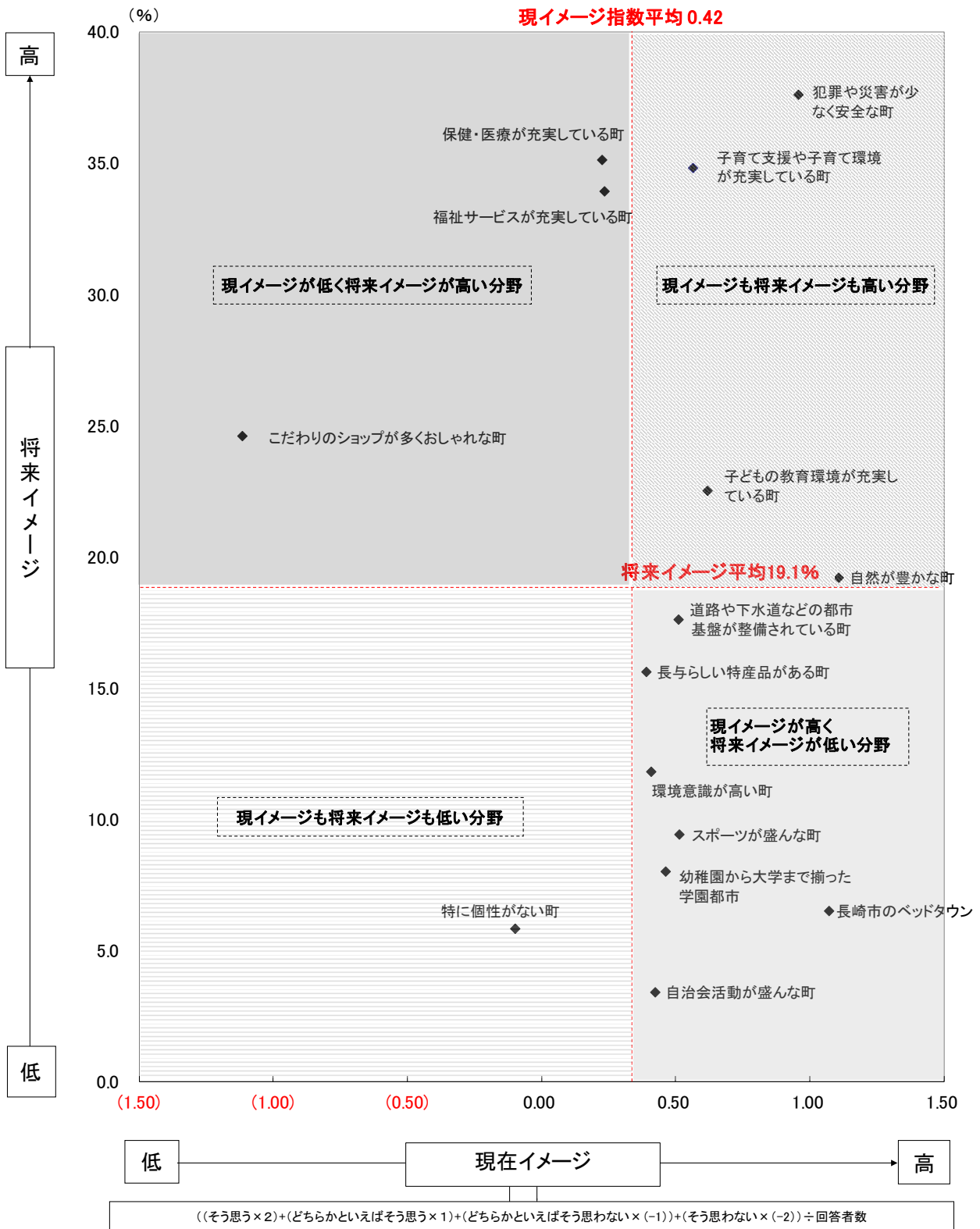
「犯罪や災害が少なく安全な町」、「保健・医療が充実している町」、「子育て支援や子育て環境が充実している町」などを町の個性に。現在はイメージが希薄な「こだわりのショップが多くおしゃれな町」を望む声も多い

全体傾向	<p>「犯罪や災害が少なく安全な町」、「保健・医療が充実している町」、「子育て支援や子育て環境が充実している町」、「福祉サービスが充実している町」が30%を超える高い割合となっている。一方で第5位となった「こだわりのショップが多くおしゃれな町」は現在では最もイメージが希薄であるが、将来イメージとしては伸ばしたいと考える町民が多いことが窺える。</p>
------	--

(全体傾向)



(現イメージと伸ばしたい将来イメージ)

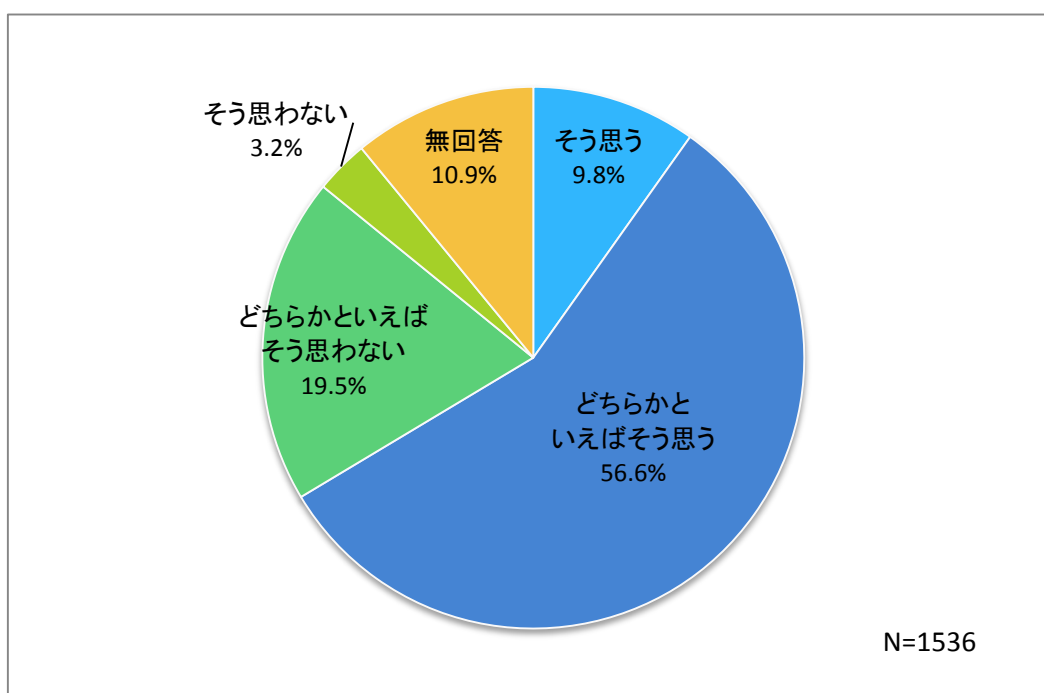


①子育て支援や子育て環境が充実している町

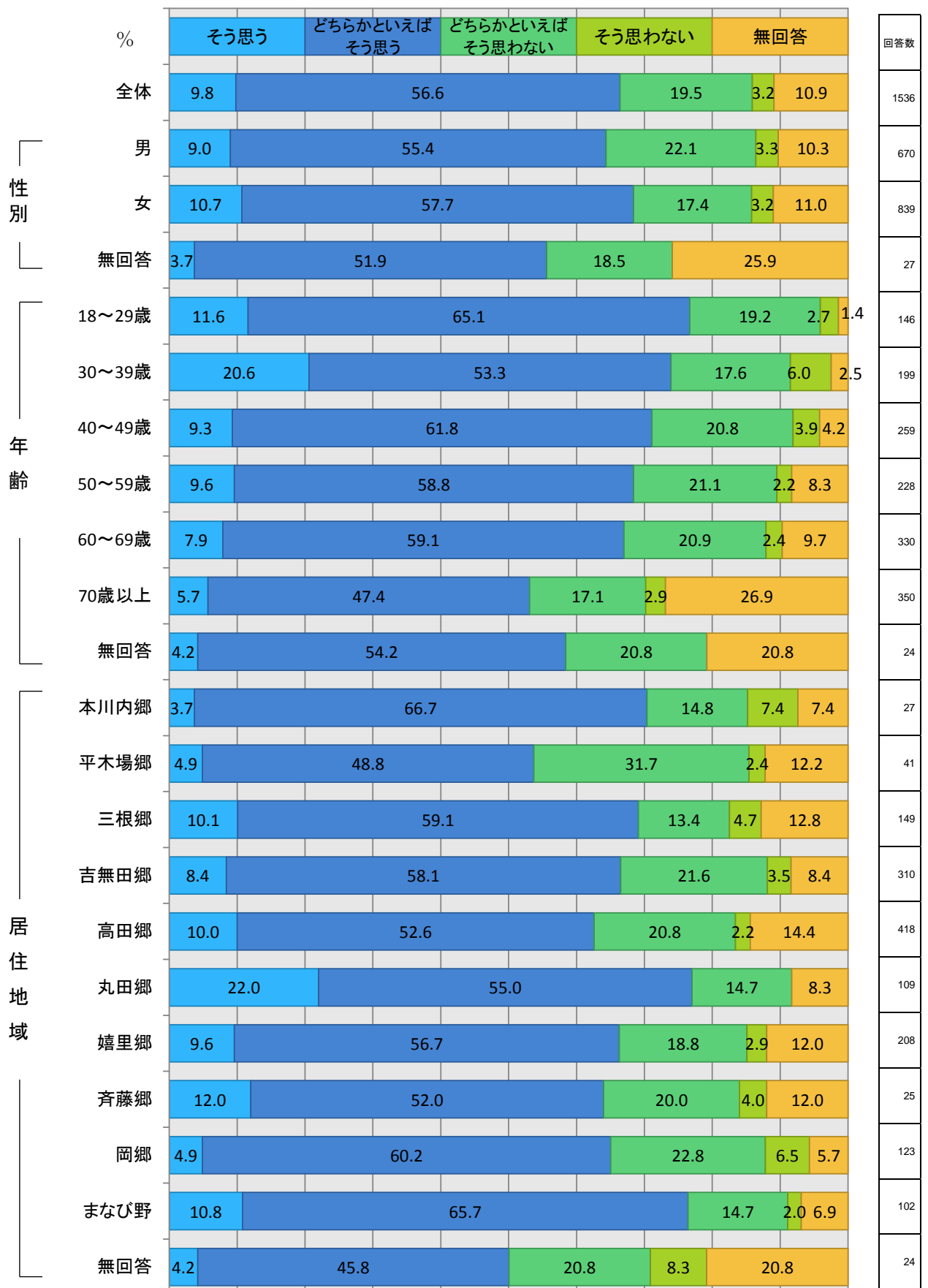
66%が長与町のイメージに合致すると回答

全体傾向	「そう思う（どちらかといえばそう思う）」は66.4%で「そう思わない（どちらかといえば思わない）」を43.7ポイント上回る。	
クロス集計	男女別	男女間での大きな傾向の違いは見られない。
	年齢別	若い世代ほど「そう思う（どちらかといえばそう思う）」の割合が高く、子育ての町としてのイメージが高いことが窺える。
	地域別	全地域で「そう思う（どちらかといえばそう思う）」が「そう思わない（どちらかといえば思わない）」を上回っている。特に丸田郷やまなび野、三根郷で顕著である。

(全体傾向)



(基本属性クロス)

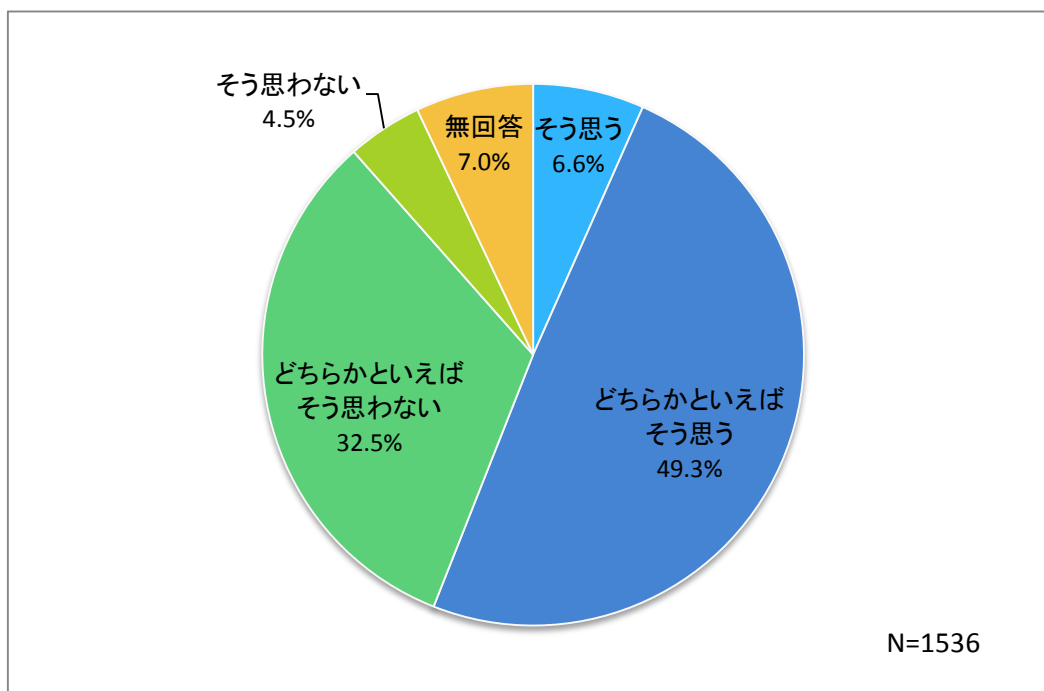


②保健・医療が充実している町

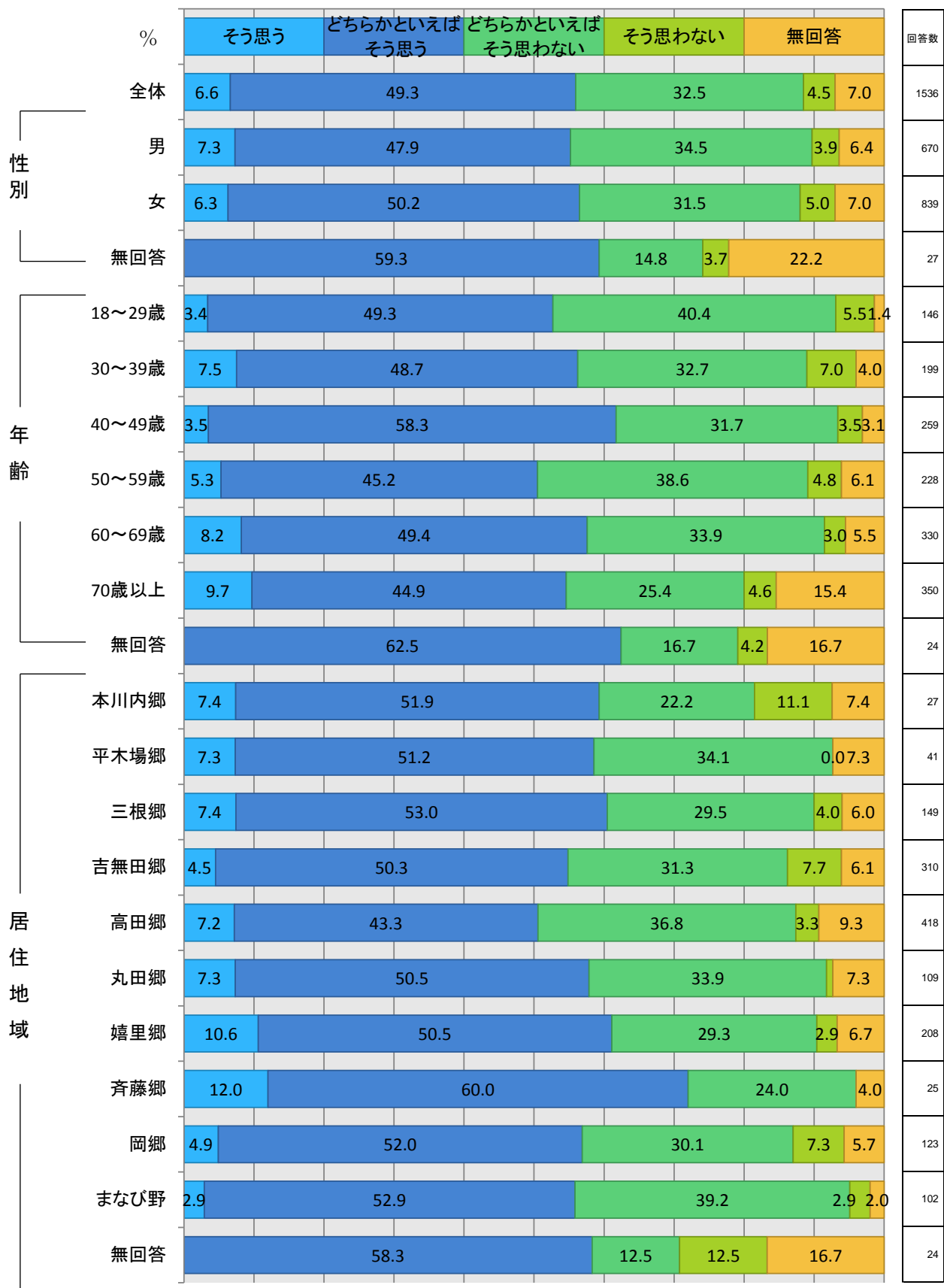
56%が長与町のイメージに合致すると回答

全体傾向	「そう思う（どちらかといえばそう思う）」は 55.9%。「そう思わない（どちらかといえばそう思わない）」を 18.9 ポイント上回る。	
クロス集計	男女別	男女間での大きな傾向の違いは見られない。
	年齢別	40 歳代と 60 歳代以上においてそう思う傾向が強い。
	地域別	全地域で「そう思う（どちらかといえばそう思う）」が「そう思わない（どちらかといえばそう思わない）」を上回っており、特に斉藤郷で顕著である。

(全体傾向)



(基本属性クロス)

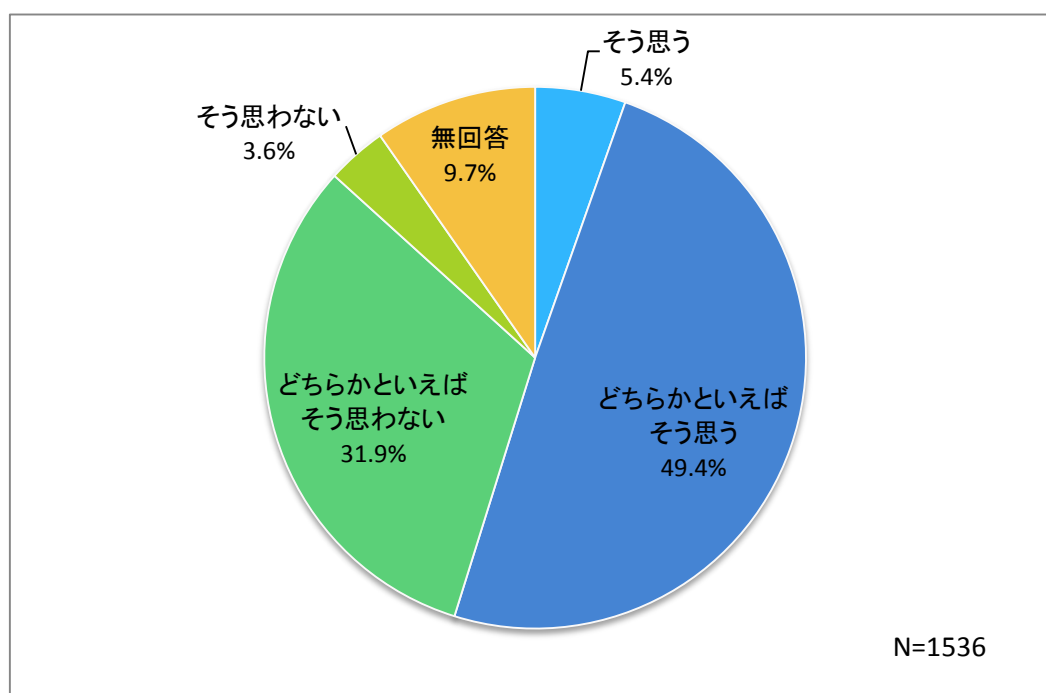


③福祉サービスが充実している町

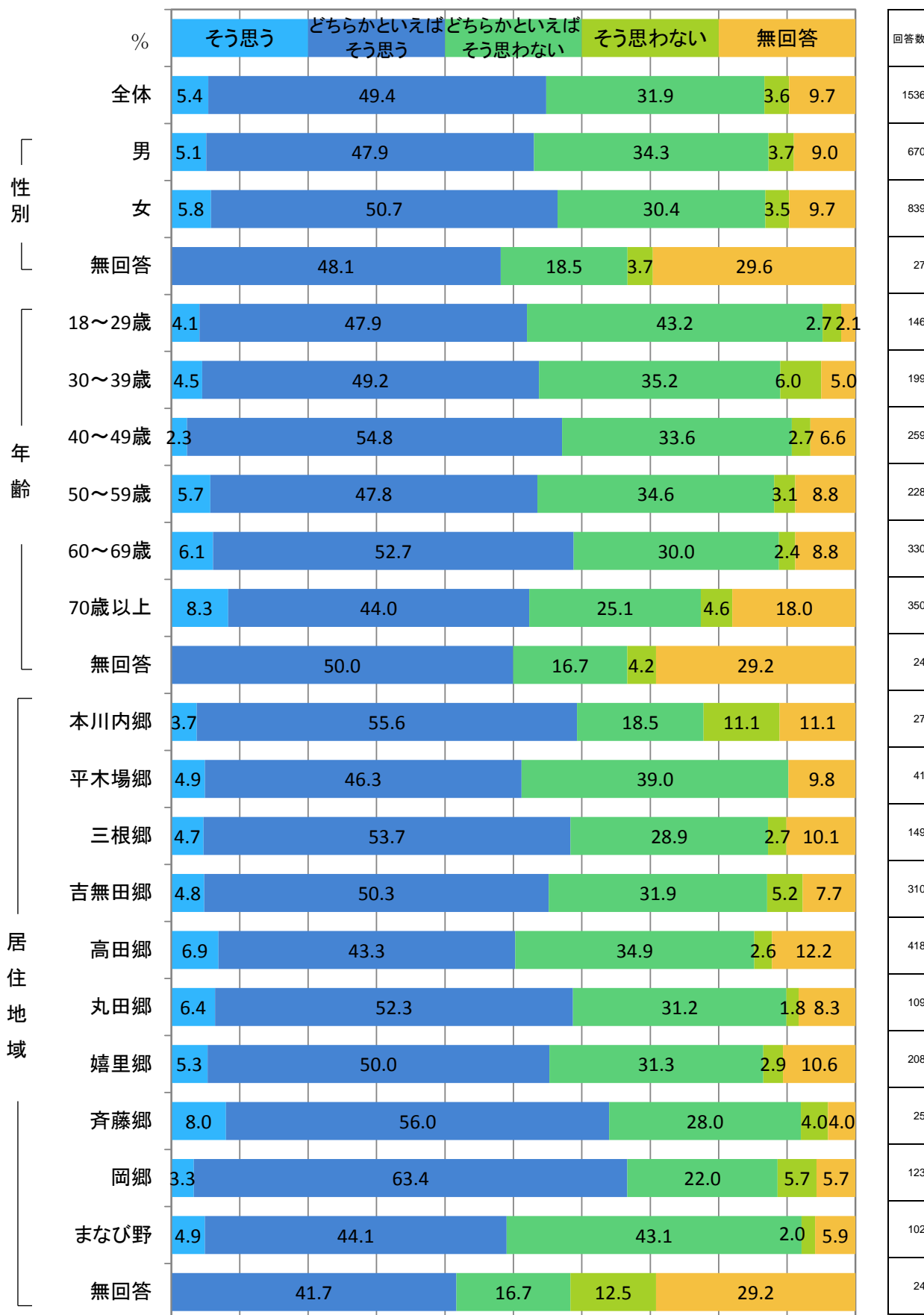
55%が長与町のイメージに合致すると回答

全体傾向	「そう思う（どちらかといえばそう思う）」は 54.8%。「そう思わない（どちらかといえばそう思わない）」を 19.3 ポイント上回る。	
クロス集計	男女別	男女間での大きな傾向の違いは見られない。
	年齢別	年齢別での大きな傾向の違いは見られない。
	地域別	全地域で「そう思う（どちらかといえばそう思う）」が「そう思わない（どちらかといえばそう思わない）」を上回っており、特に岡郷、齊藤郷、本川内郷、丸田郷でそう思う傾向が強い。

(全体傾向)



(基本属性クロス)

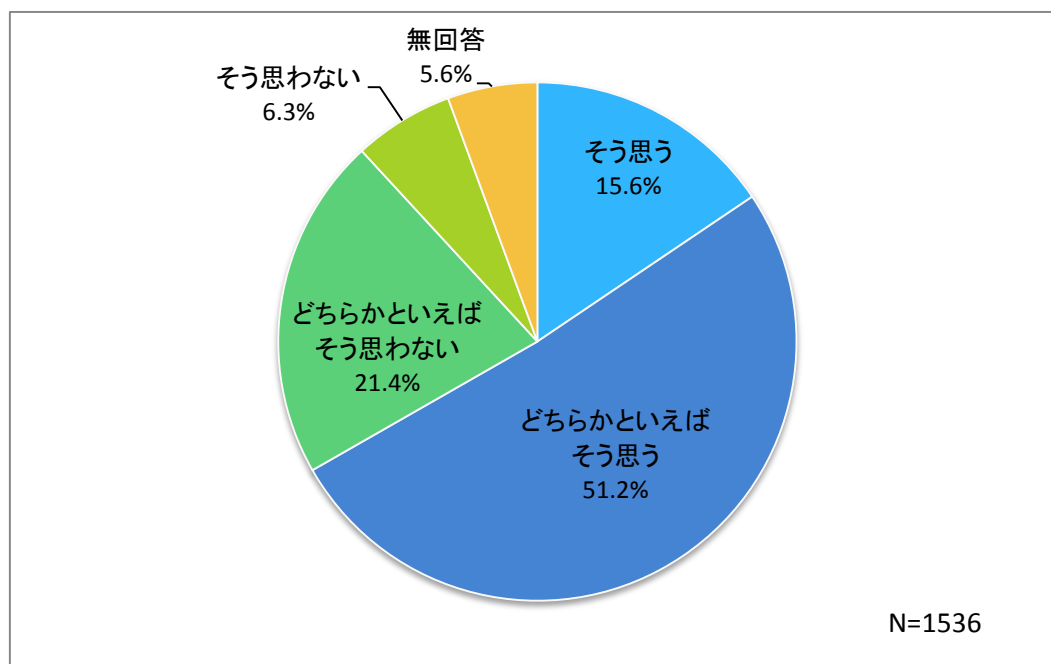


④道路や下水道などの都市基盤が整備されている町

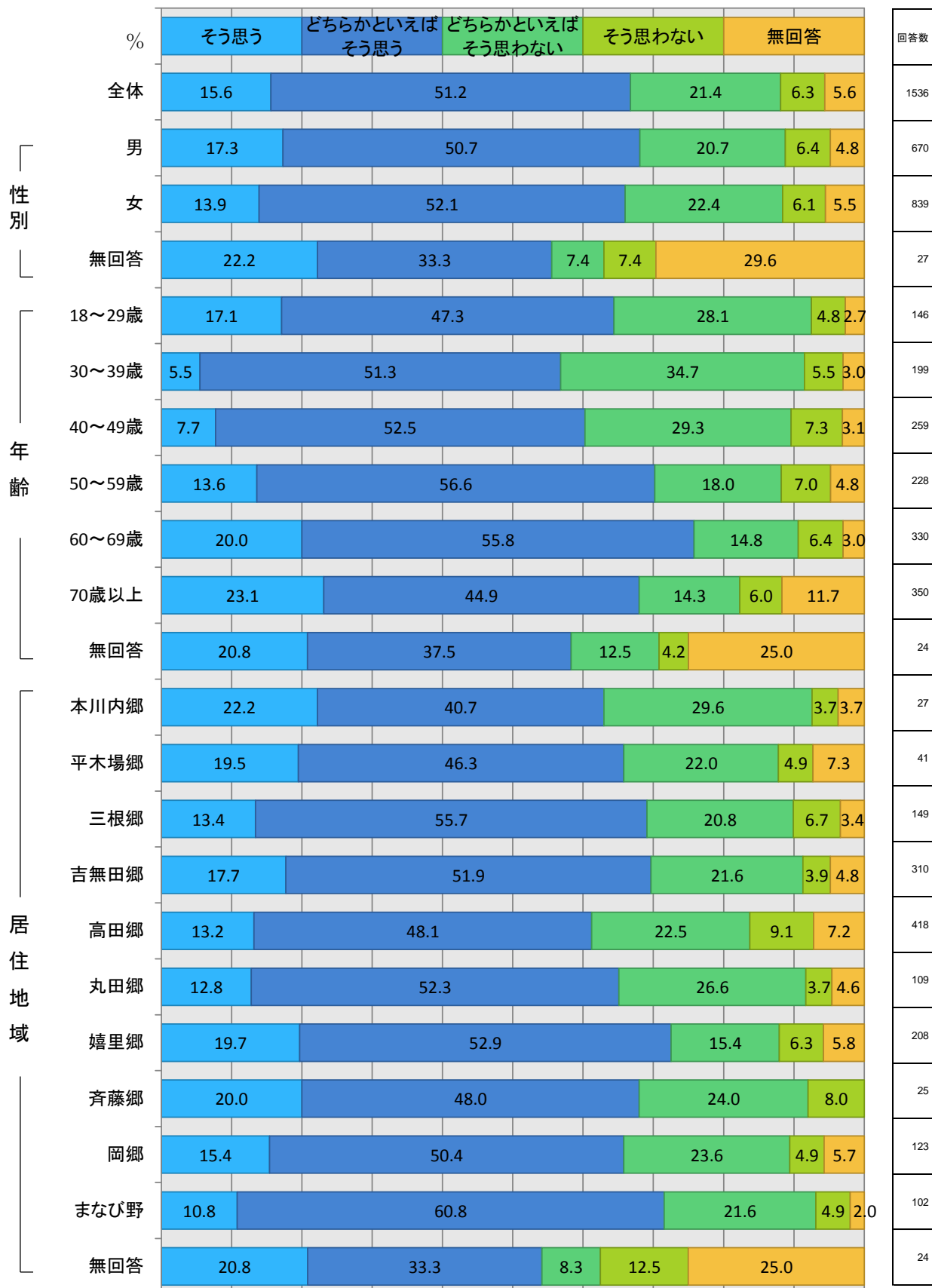
67%が長与町のイメージに合致すると回答

全体傾向	「そう思う（どちらかといえばそう思う）」は 66.8%で、「そう思わない（どちらかといえば思わない）」を 39.1 ポイント上回る。	
クロス集計	男女別	男女間での大きな傾向の違いは見られない。
	年齢別	50 歳代以上では「そう思う（どちらかといえばそう思う）」が 70%前後で高くなっているが、40 歳代までの年齢層では上の年代に比べ「そう思わない（どちらかといえば思わない）」が高い割合を占めている。
	地域別	全地域で「そう思う（どちらかといえばそう思う）」が「そう思わない（どちらかといえばそう思わない）」を上回っており、嬉里郷、まなび野、吉無田郷で、そう思う傾向が強い。

(全体傾向)



(基本属性クロス)

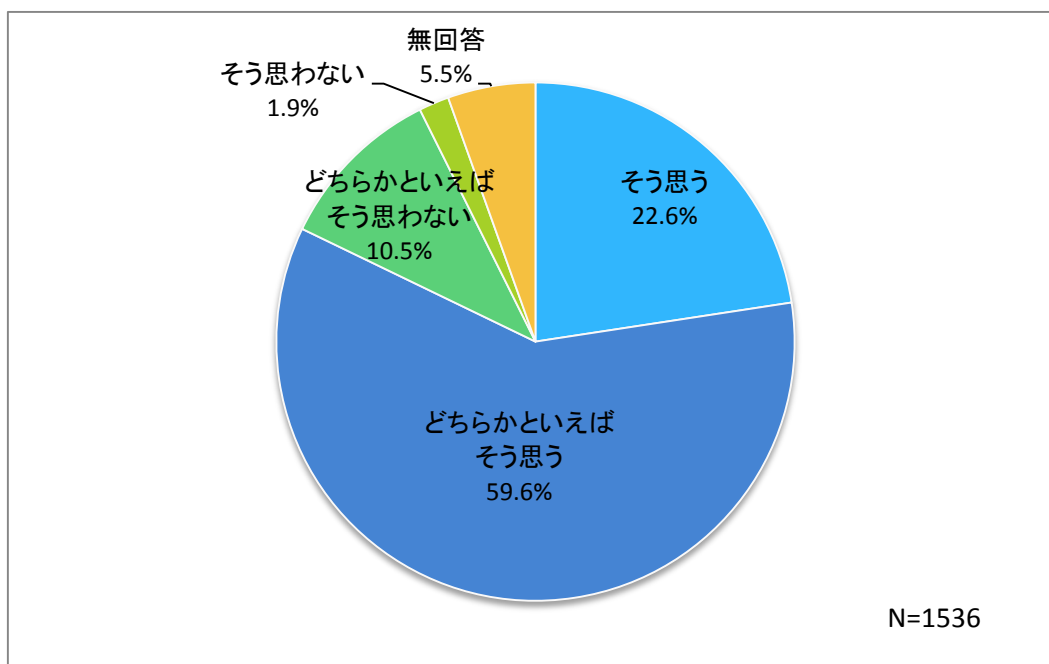


⑤ 犯罪や災害が少なく安全な町

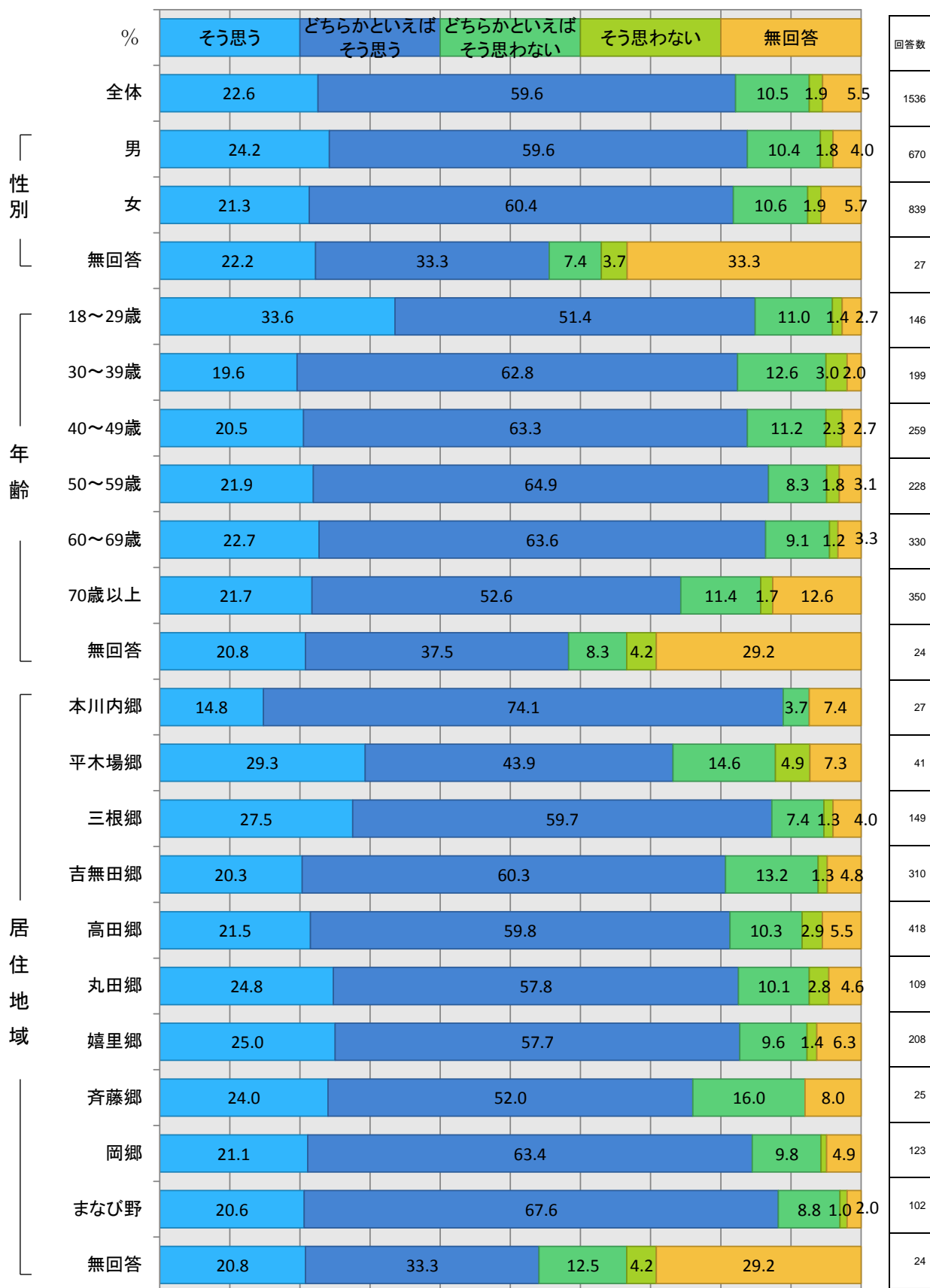
82%が長与町のイメージに合致すると回答

全体傾向	「そう思う（どちらかといえばそう思う）」は 82.2%。「そう思わない（どちらかといえばそう思わない）」を 69.8 ポイント上回る。	
クロス集計	男女別	男女間での大きな傾向の違いは見られない。
	年齢別	特に「18～29歳」、50歳代、60歳代で、そう思う傾向が強い。
	地域別	全地域で「そう思う（どちらかといえばそう思う）」が「そう思わない（どちらかといえばそう思わない）」を上回っている。本川内郷、三根郷、まなび野で、そう思う傾向が強い。

(全体傾向)



(基本属性クロス)

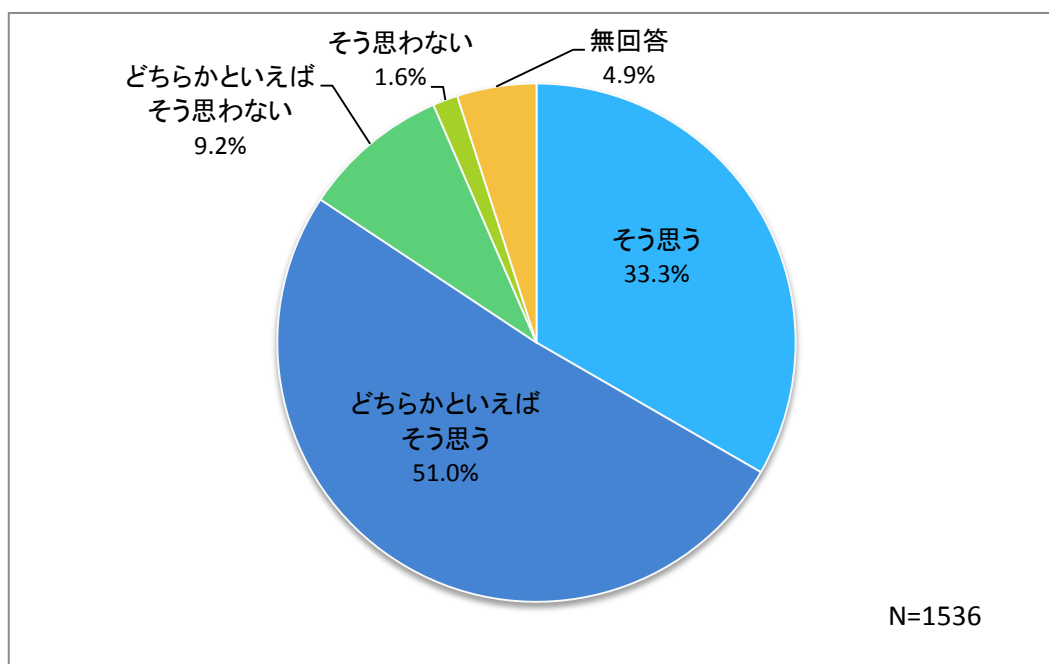


⑥自然が豊かな町

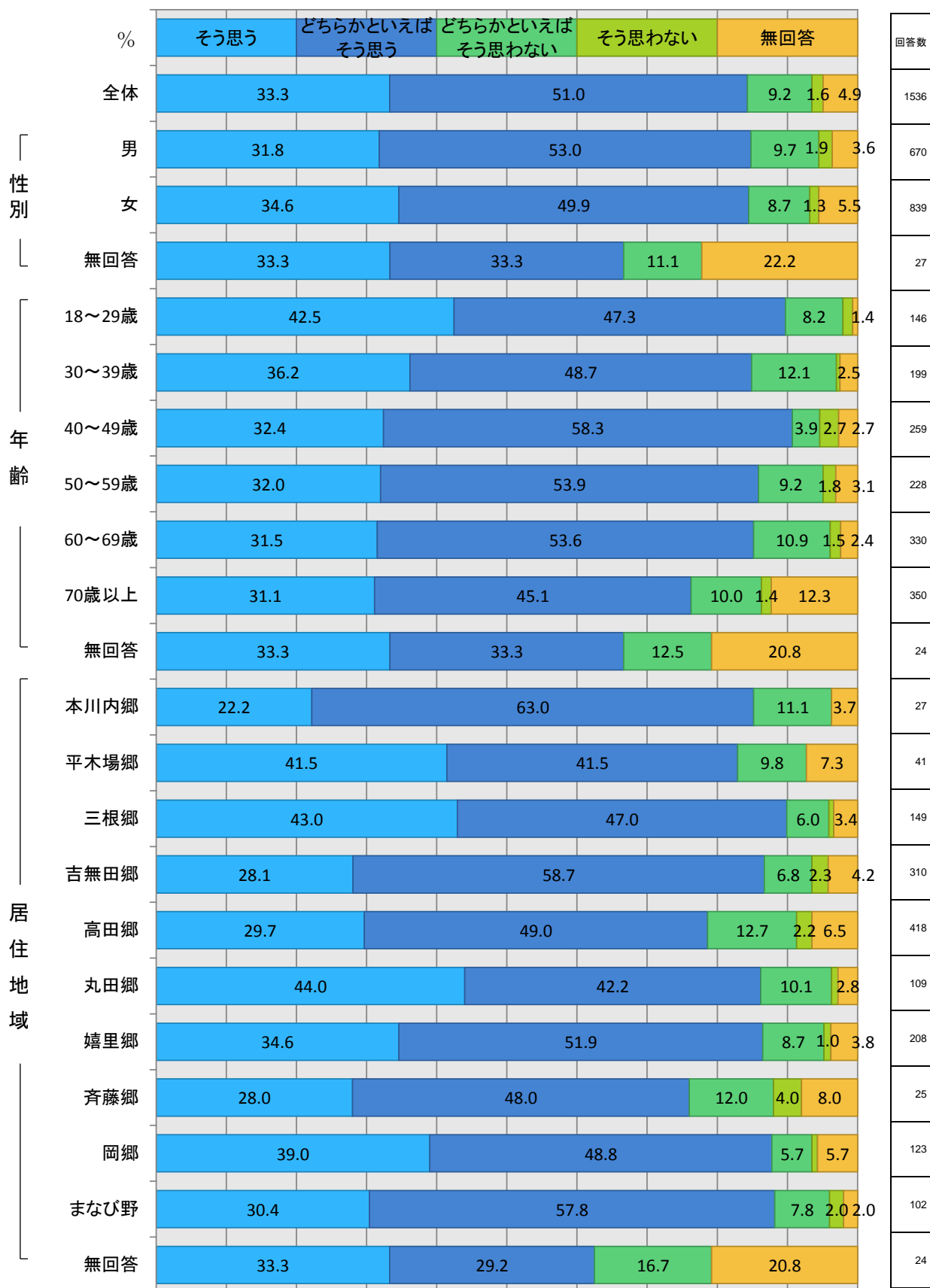
84%が長与町のイメージに合致すると回答

全体傾向	「そう思う（どちらかといえばそう思う）」は 84.3%。「そう思わない（どちらかといえばそう思わない）」を 73.5 ポイント上回る。	
クロス集計	男女別	男女間での大きな傾向の違いは見られない。
	年齢別	特に「18～29 歳」及び 40 歳代で「そう思う（どちらかといえばそう思う）」割合が高く、90%近いが、70 歳以上では他の年代に比べ、そう思う傾向が若干弱い。
	地域別	全地域で一様に自然が豊かであるとの認識が定着しているが、特に三根郷、岡郷、まなび野で、その傾向が強い。

(全体傾向)



(基本属性クロス)

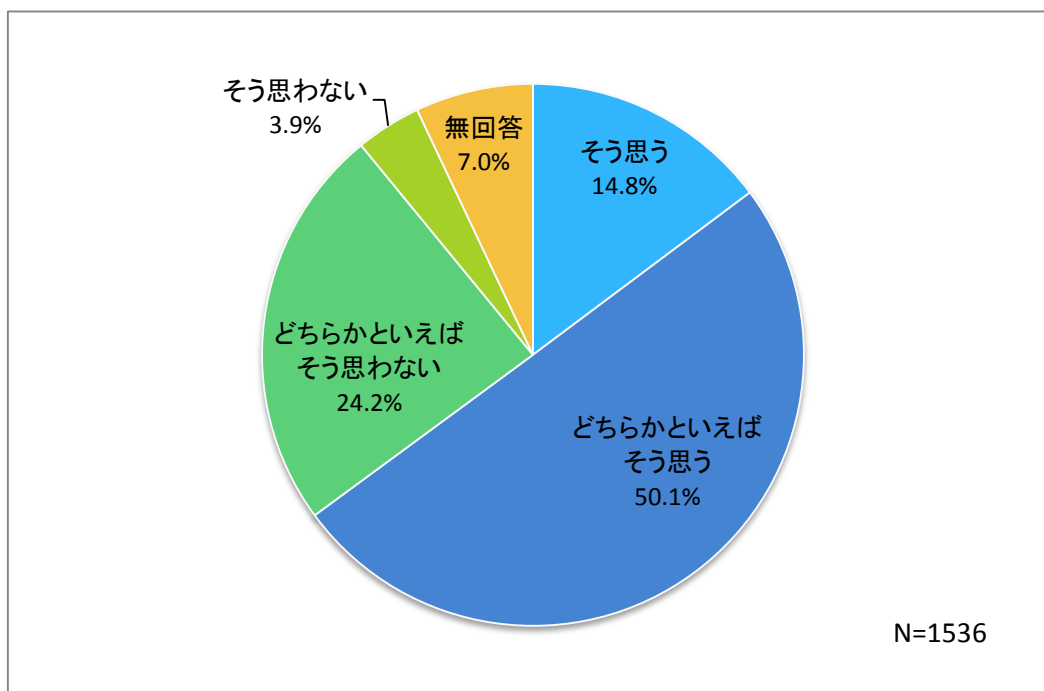


⑦スポーツが盛んな町

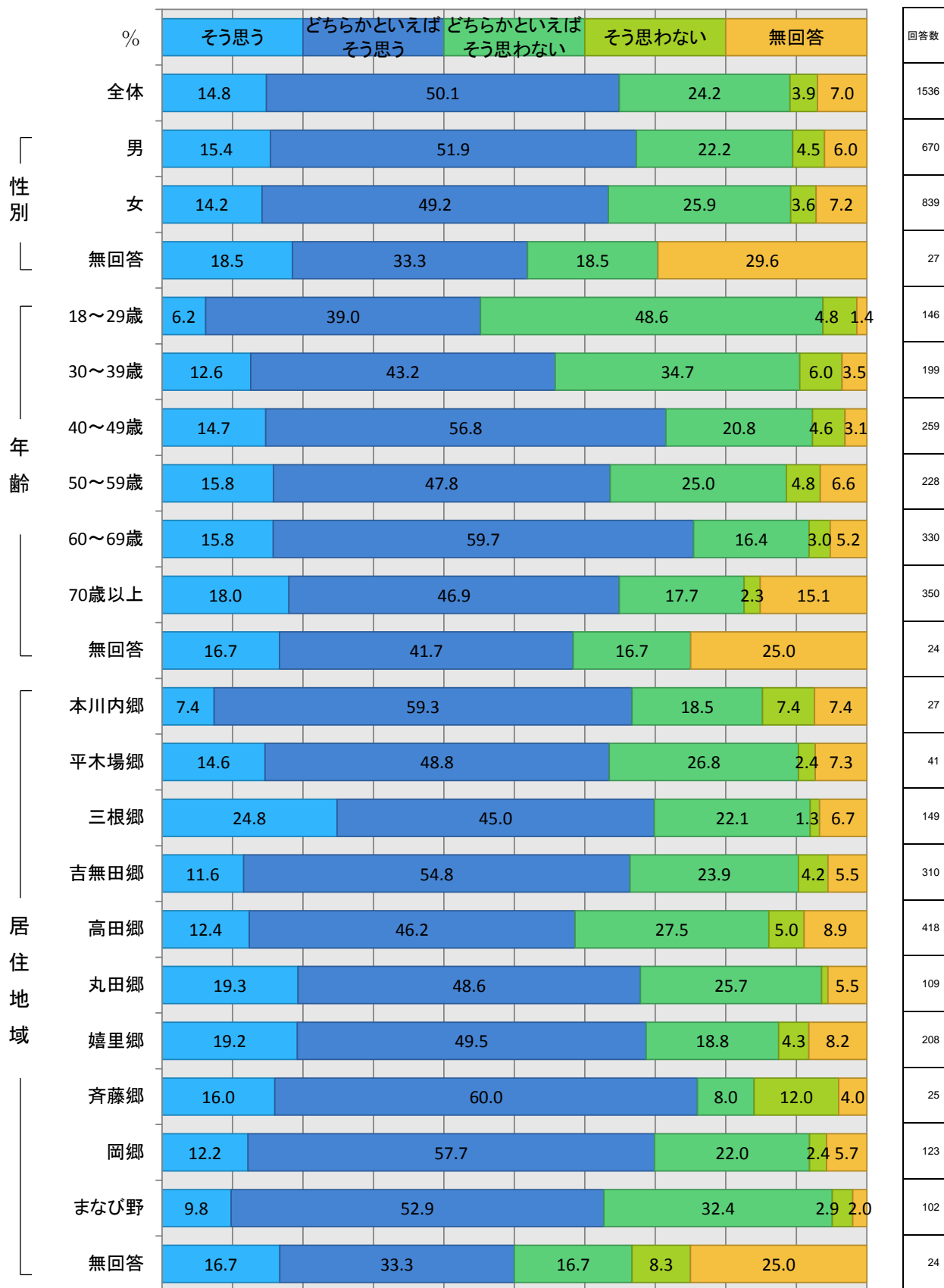
65%が長与町のイメージに合致すると回答

全体傾向	「そう思う（どちらかといえばそう思う）」は 64.9%。「そう思わない（どちらかといえばそう思わない）」を 36.8 ポイント上回る。	
クロス集計	男女別	男女間での大きな傾向の違いは見られない。
	年齢別	若い年齢層で、そう思わない傾向が強く、特に「18歳～29歳」で顕著である。
	地域別	まなび野、高田郷で、そう思わない傾向が強い。

(全体傾向)



(基本属性クロス)

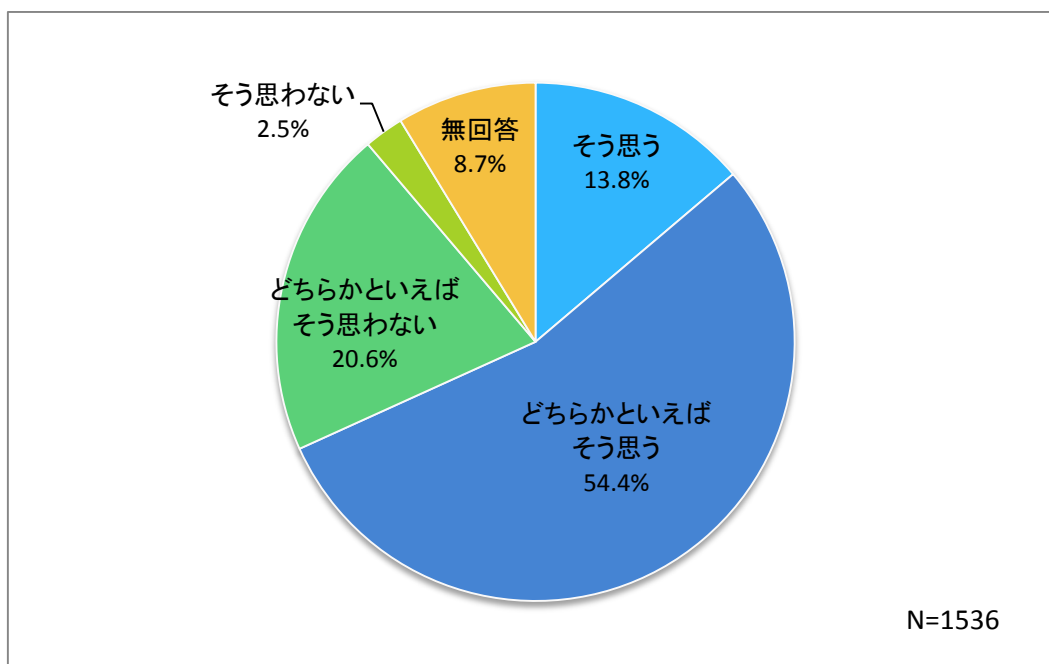


⑧子どもの教育環境が充実している町

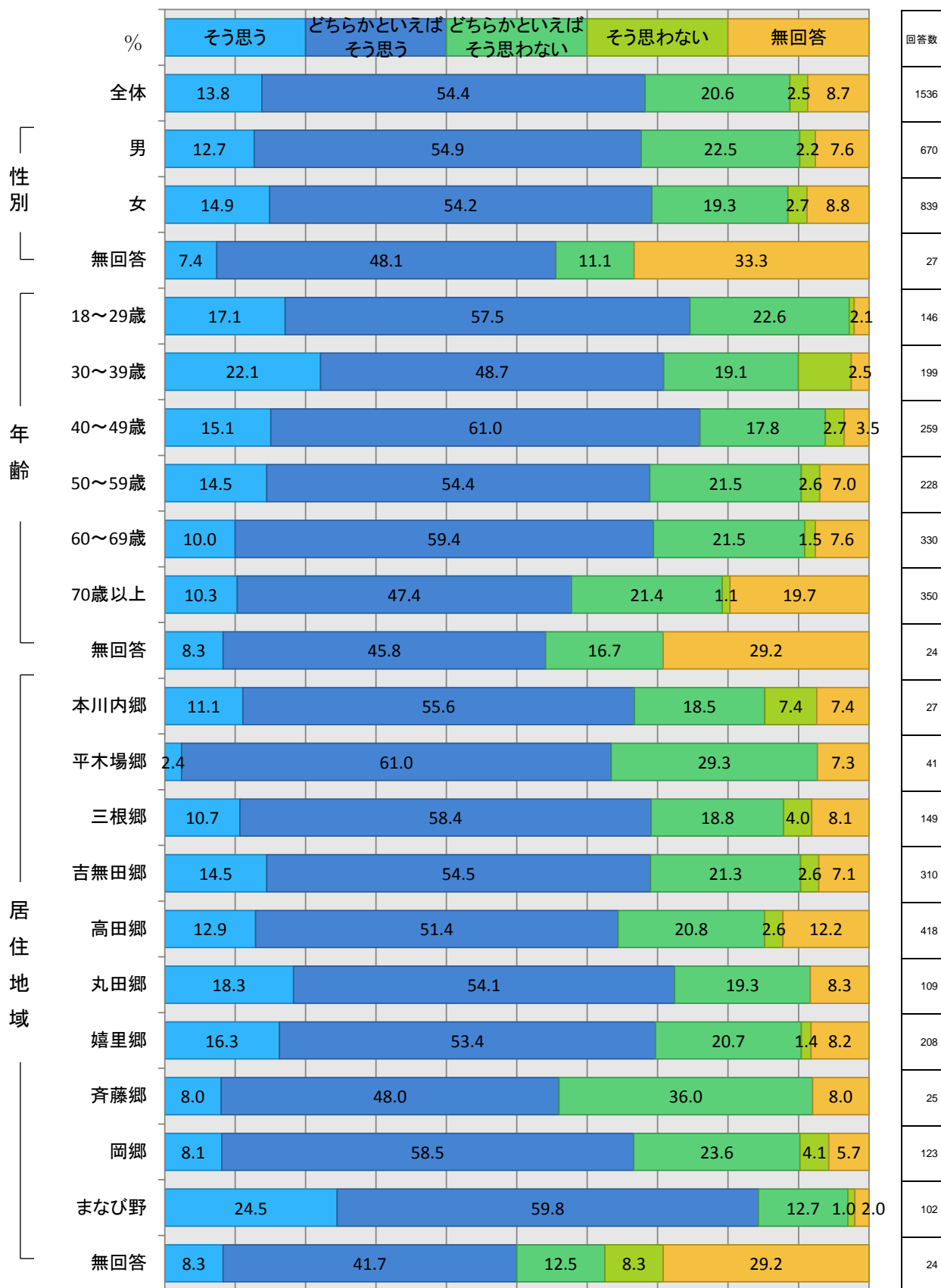
68%が長与町のイメージに合致すると回答

全体傾向	「そう思う（どちらかといえばそう思う）」は 68.3%。「そう思わない（どちらかといえばそう思わない）」を 45.1 ポイント上回る。	
クロス集計	男女別	男女間での大きな傾向の違いは見られない。
	年齢別	70 歳以上を除く幅広い年代で「そう思う（どちらかといえばそう思う）」が 70%前後の高い割合となっている。特に子育て世代である 40 歳代以下の割合が高い。
	地域別	齊藤郷を除く全ての地域で「そう思う（どちらかといえばそう思う）」が 60%を超えている。特にまなび野では 80%を超える高い割合となっている。

(全体傾向)



(基本属性クロス)

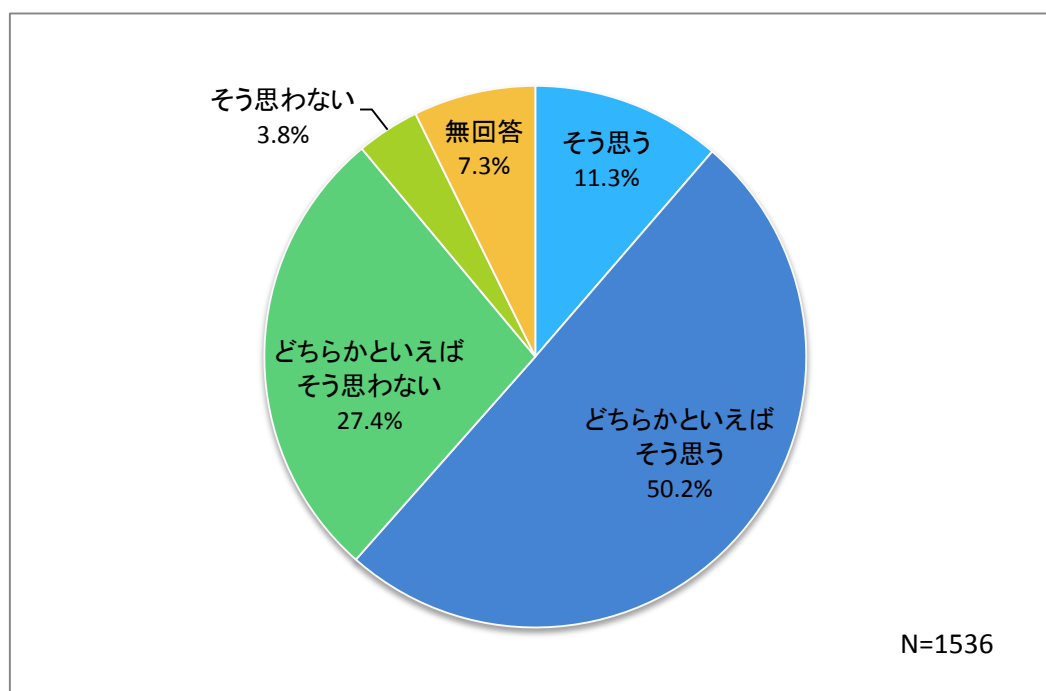


⑨環境意識が高い町

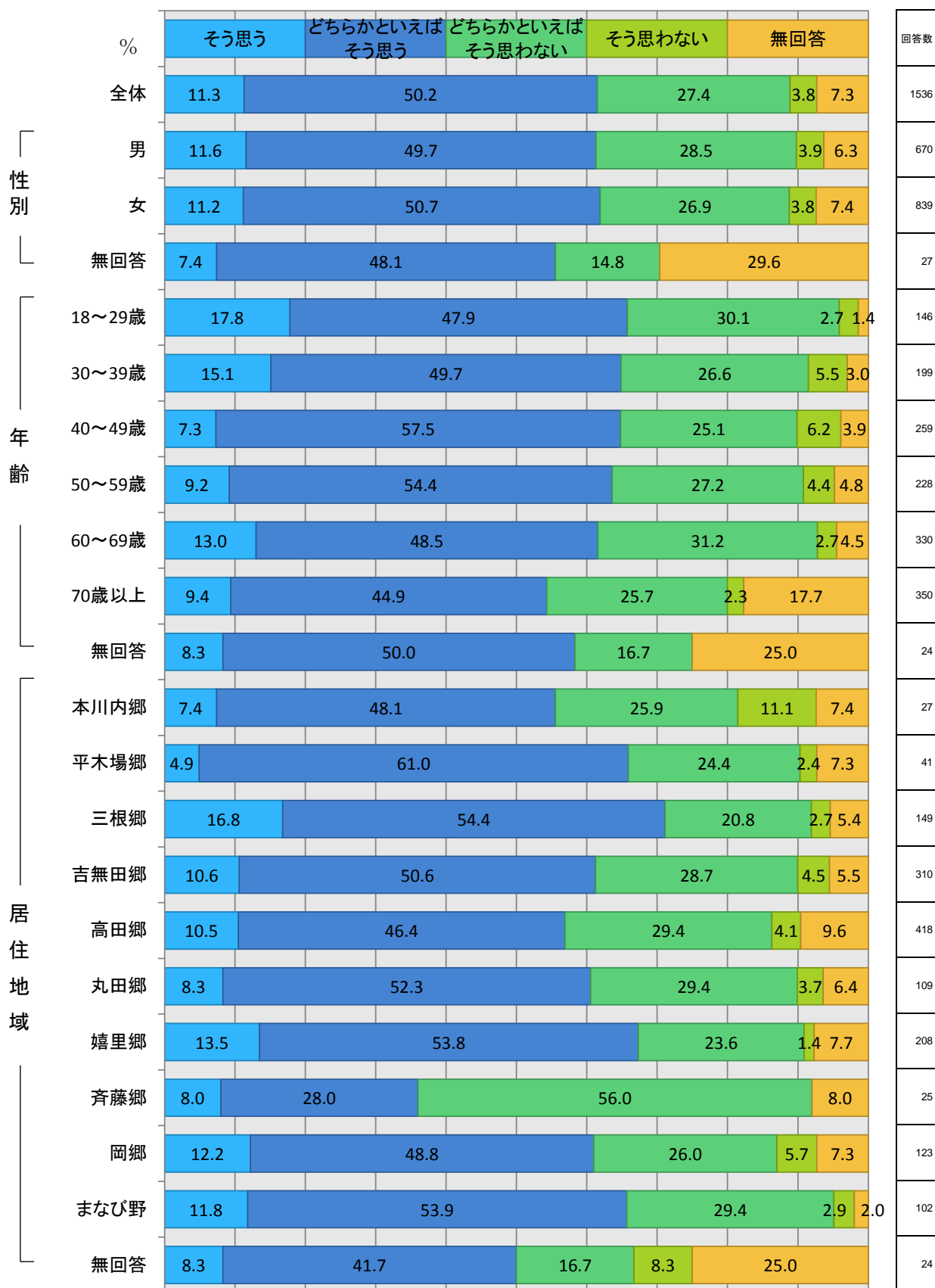
62%が長与町のイメージに合致すると回答

全体傾向	「そう思う（どちらかといえばそう思う）」は 61.5%。「そう思わない（どちらかといえばそう思わない）」を 30.3 ポイント上回る。	
クロス集計	男女別	男女間での大きな傾向の違いは見られない。
	年齢別	70 歳以上を除く幅広い年代で「そう思う（どちらかといえばそう思う）」が 60%を上回っており、若い年齢層ほどその傾向が強い。
	地域別	斉藤郷のみが「そう思わない（どちらかといえばそう思わない）」が過半数を超えている。

(全体傾向)



(基本属性クロス)

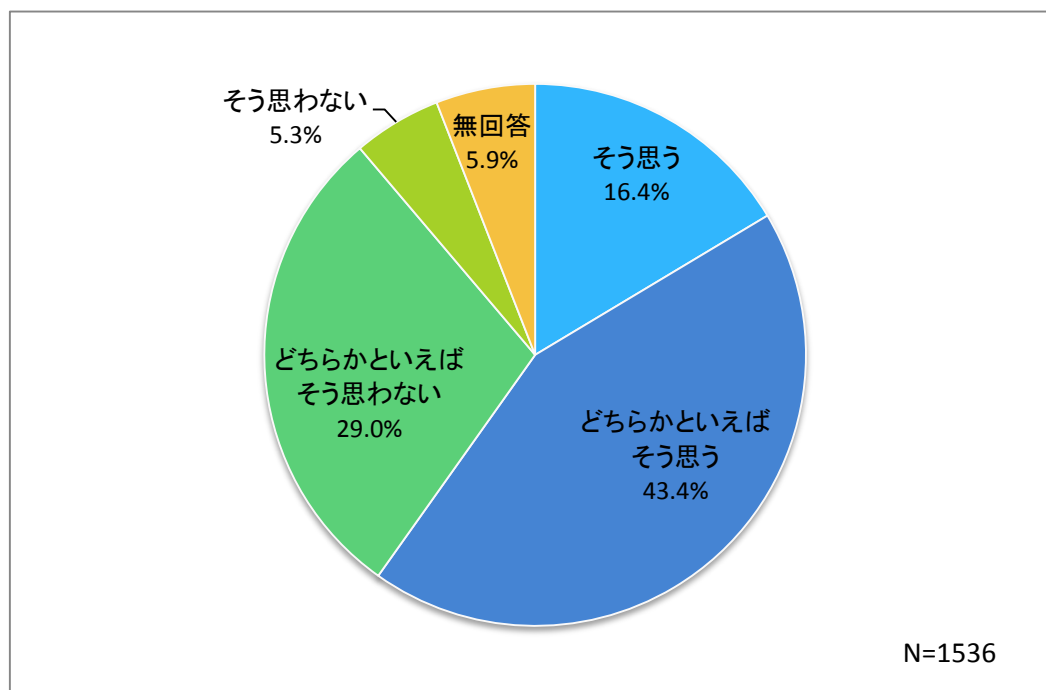


⑩長与らしい特産品がある町

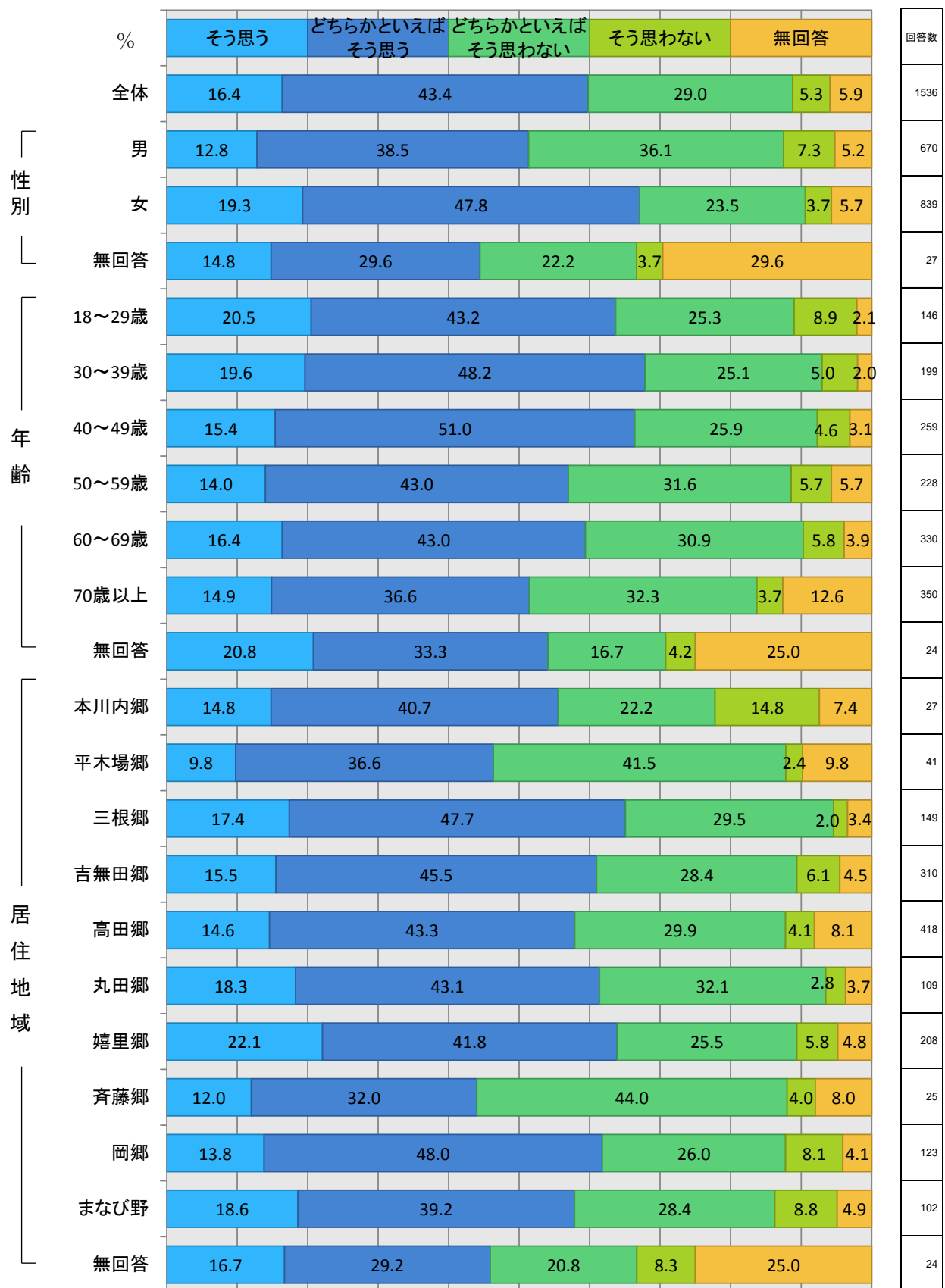
60%が長与町のイメージに合致すると回答

全体傾向	「そう思う（どちらかといえばそう思う）」は59.8%で、「そう思わない（どちらかといえばそう思わない）」を25.5ポイント上回る。	
クロス集計	男女別	「そう思う（どちらかといえばそう思う）」は男性が51.3%であるのに対し、女性は67.1%と15ポイント以上の差がある。男女間での意識の違いが見られる。
	年齢別	「18～29歳」から40歳代にかけては「そう思う（どちらかといえばそう思う）」が60%を超えるが、その他の年代では60%を下回り、70歳以上になると51.5%まで低下する。
	地域別	三根郷、嬉里郷では、特にそう思う傾向が強いが、これとは逆に平木場郷、斉藤郷では、そう思わない傾向が強い。

(全体傾向)



(基本属性クロス)

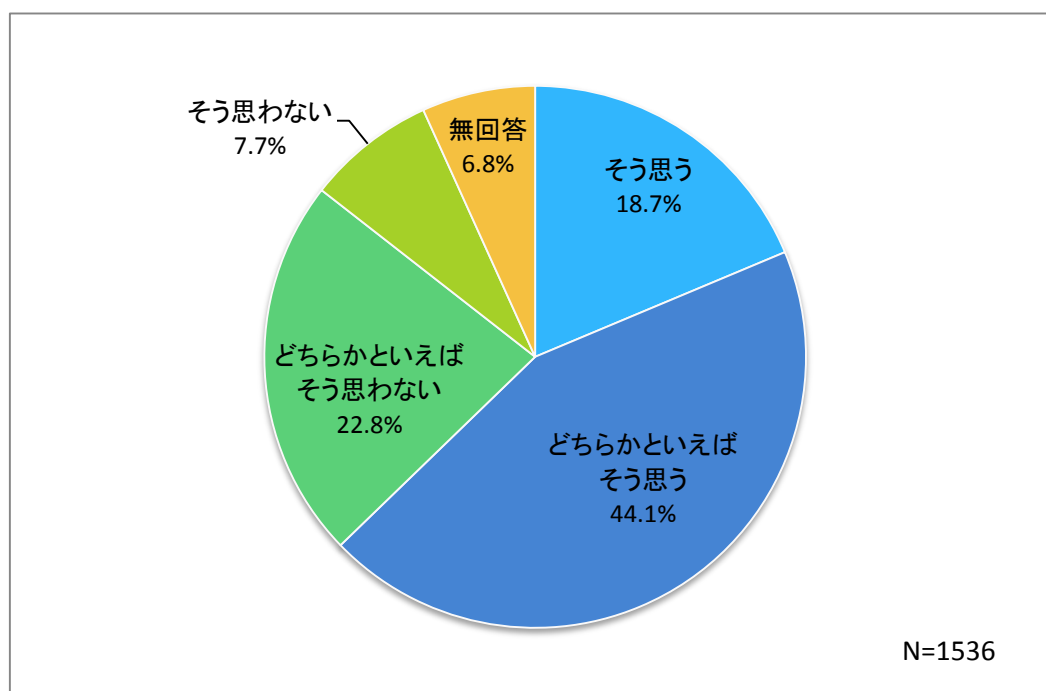


⑪幼稚園から大学まで揃った学園都市

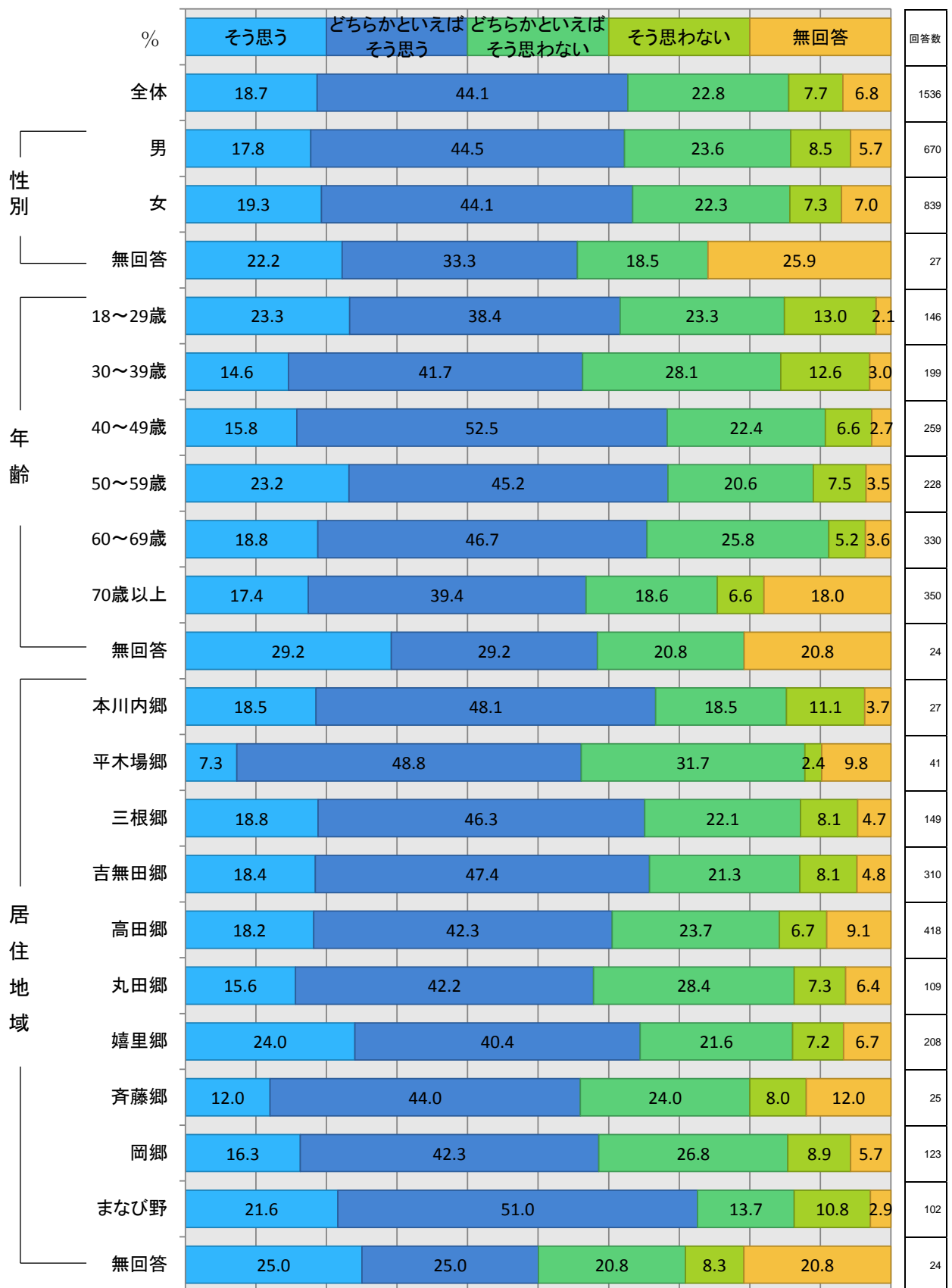
63%が長与町のイメージに合致すると回答

全体傾向	「そう思う（どちらかといえばそう思う）」は62.8%で、「そう思わない（どちらかといえばそう思わない）」を32.3ポイント上回る。	
クロス集計	男女別	男女間での大きな傾向の違いは見られない。
	年齢別	特に40歳代から60歳代においてそう思う傾向が強い。
	地域別	全ての地域で「そう思う（どちらかといえばそう思う）」が50%を超えている。特にまなび野、本川内郷、吉無田郷、嬉里郷において、そう思う傾向が強い。

(全体傾向)



(基本属性クロス)

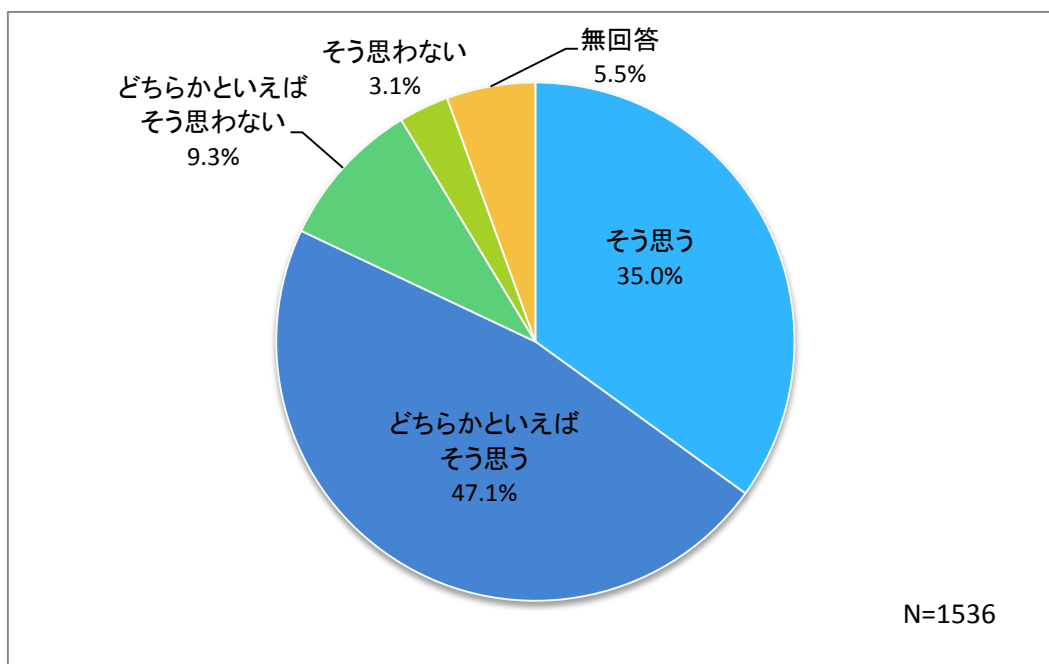


⑫長崎市のベッドタウン

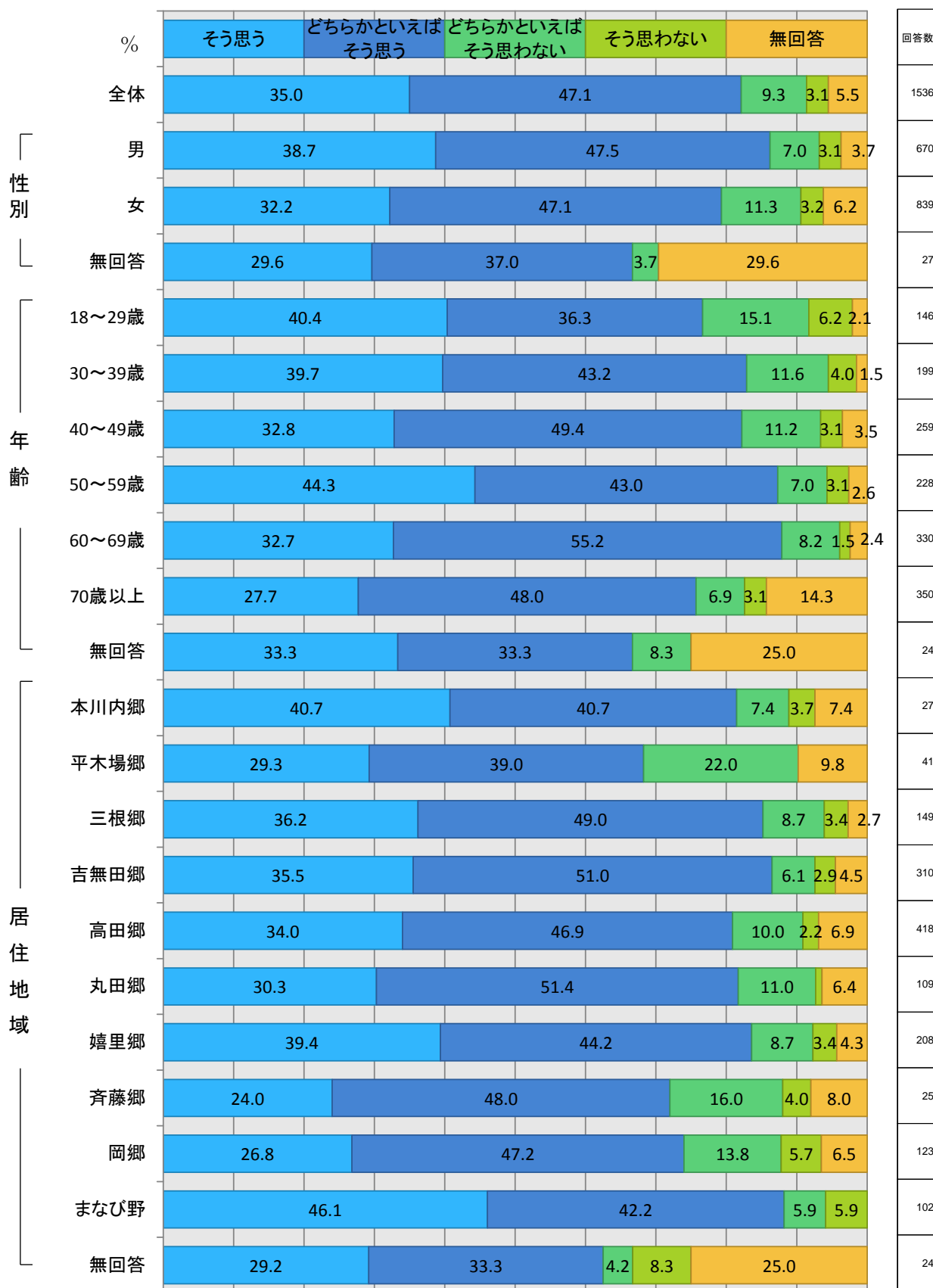
82%が長与町のイメージに合致すると回答

全体傾向	「そう思う（どちらかといえばそう思う）」は82.1%で、「そう思わない（どちらかといえばそう思わない）」を69.7ポイント上回る。	
クロス集計	男女別	女性に比べ男性が「そう思う（どちらかといえばそう思う）」の割合が高い。
	年齢別	全ての年代で「そう思う（どちらかといえばそう思う）」が70%を超えている。特に50歳代から60歳代で、そう思う傾向が強い。
	地域別	平木場郷、斉藤郷、岡郷では、他の地域に比べ、そう思わない傾向が若干強い。

(全体傾向)



(基本属性クロス)

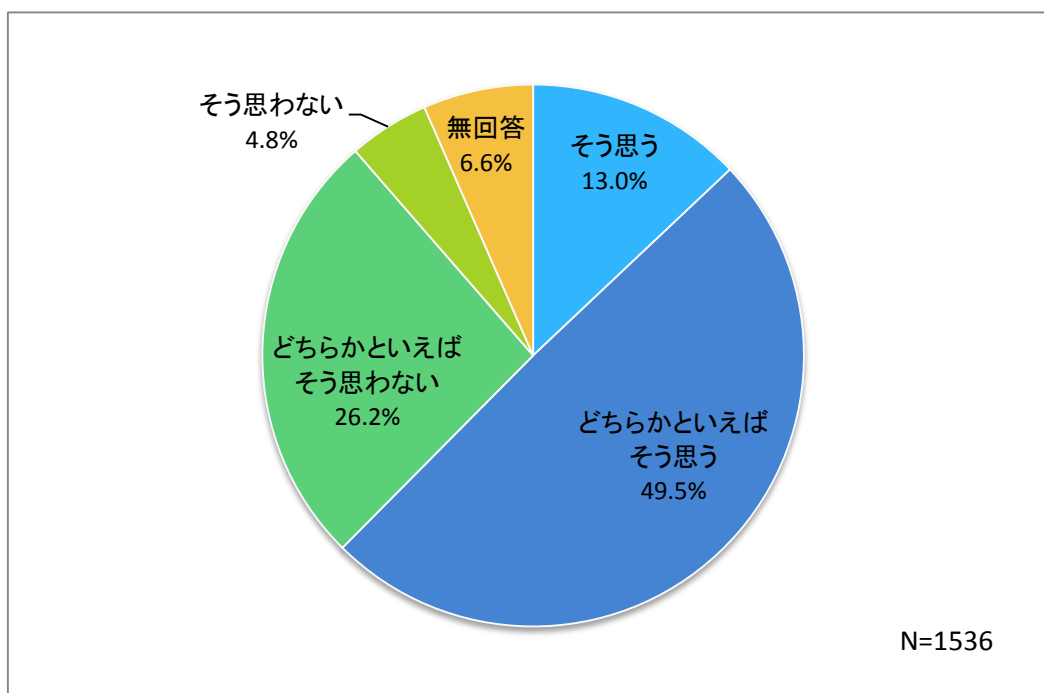


⑬自治会活動が盛んな町

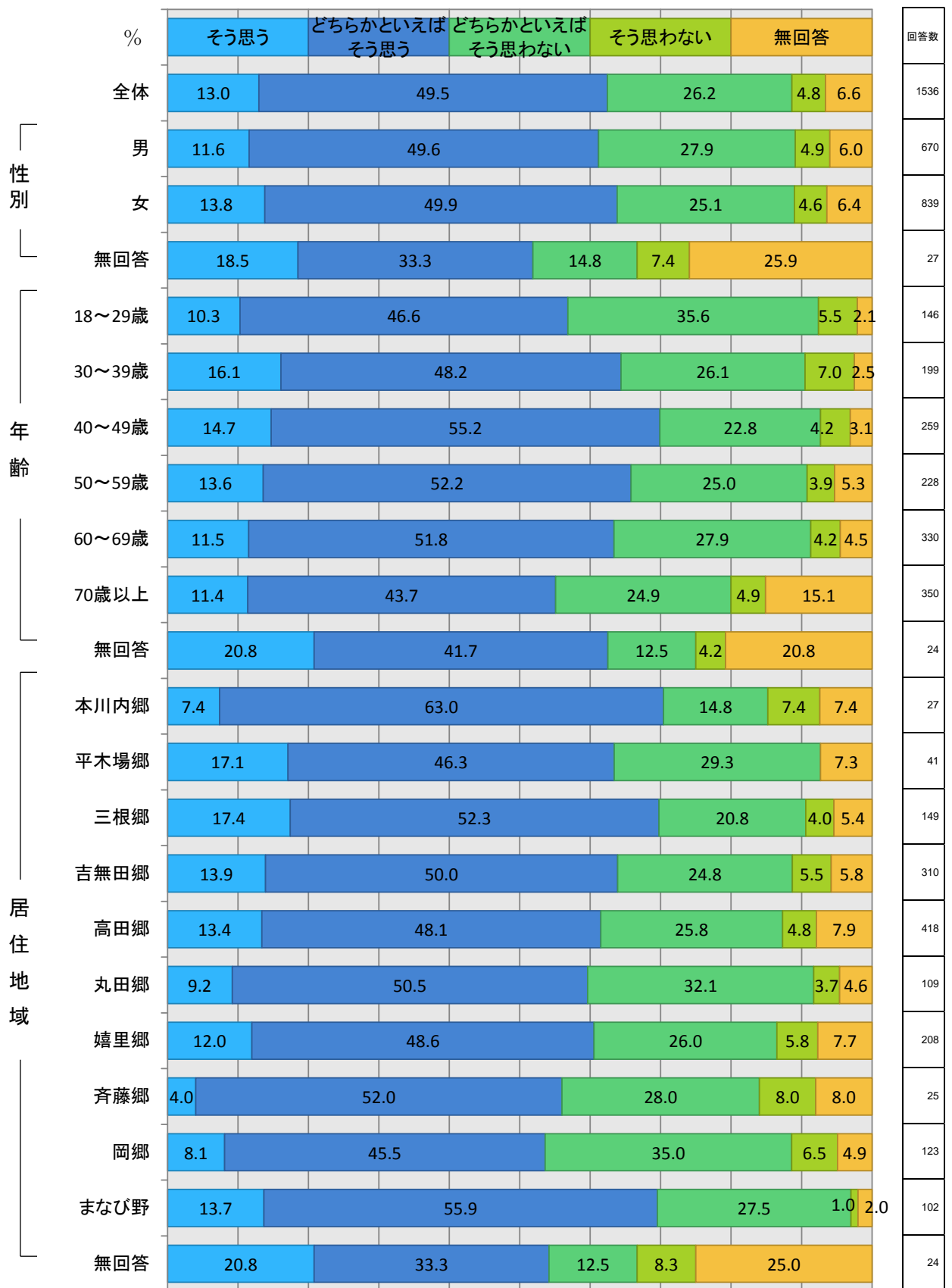
63%が長与町のイメージに合致すると回答

全体傾向	「そう思う（どちらかといえばそう思う）」は62.5%で、「そう思わない（どちらかといえばそう思わない）」を31.5ポイント上回る。	
クロス集計	男女別	男女間での大きな傾向の違いは見られない。
	年齢別	特に40歳代から50歳代に、そう思う傾向が強い反面、「18～29歳」及び70歳以上の世代では、そう思わない傾向が若干強い。
	地域別	本川内郷、三根郷、まなび野ではそう思う傾向が強い。

(全体傾向)



(基本属性クロス)

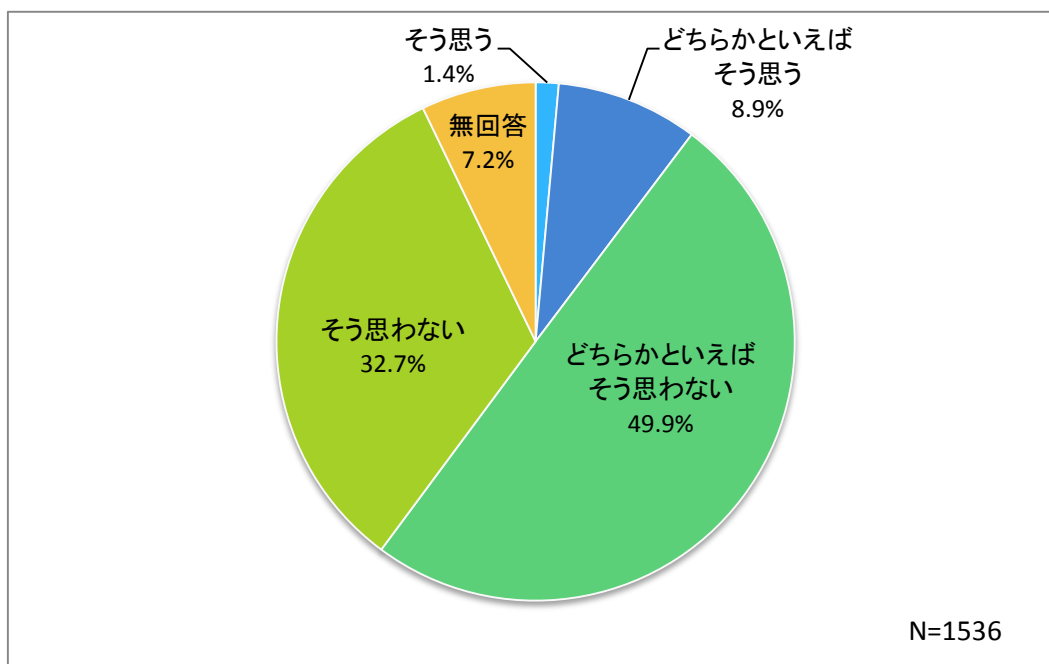


⑭こだわりのショップが多くおしゃれな町

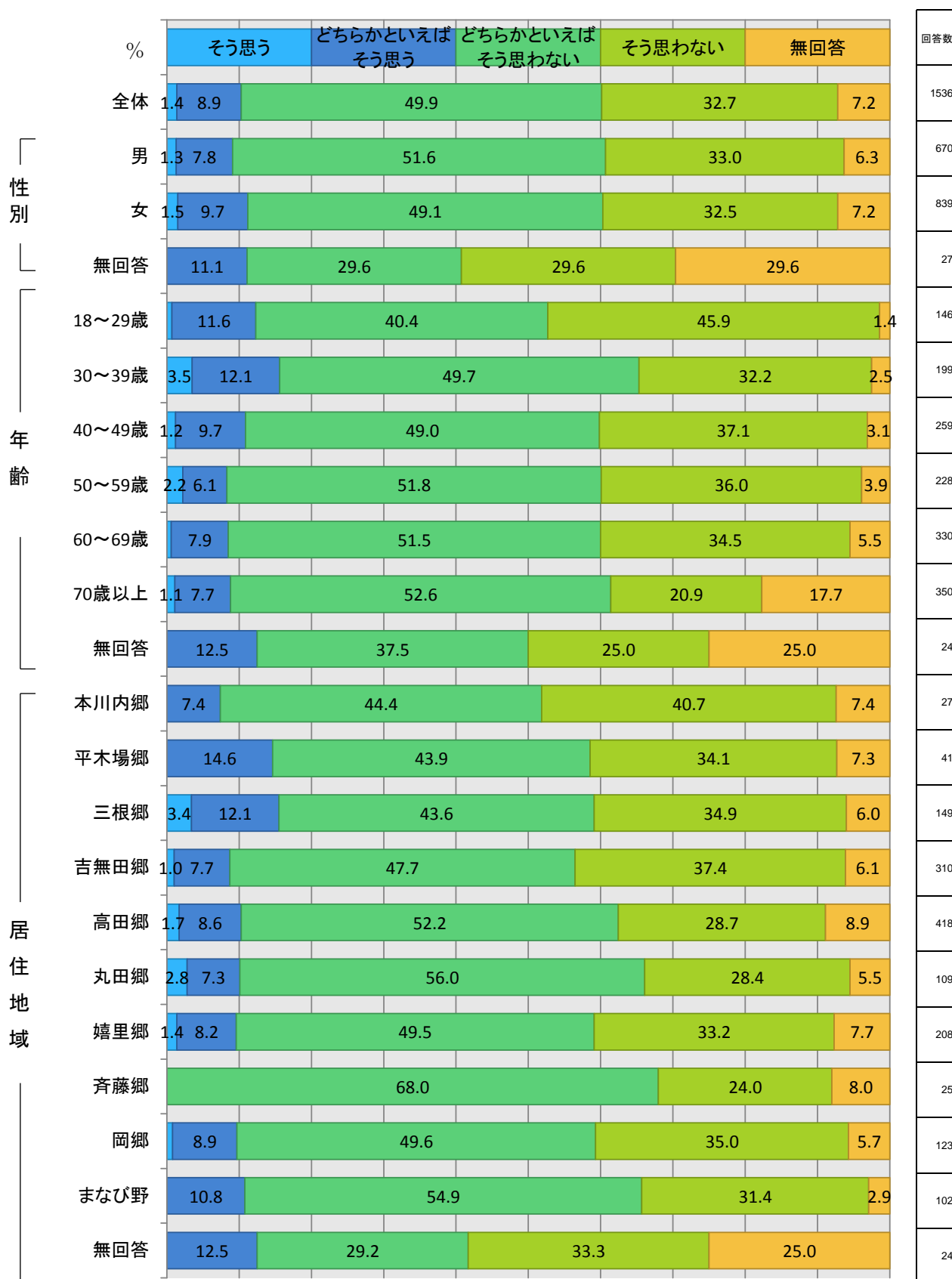
8割以上が「おしゃれ」なイメージがないと回答

全体傾向		「そう思う（どちらかといえばそう思う）」が10.3%であるのに対し「そう思わない（どちらかといえばそう思わない）」が82.6%と大きく上回る。
クロス集計	男女別	男女間での大きな傾向の違いは見られない。
	年齢別	年代別での大きな傾向の違いは見られない。
	地域別	齊藤郷では「そう思う（どちらかといえばそう思う）」との回答がまったく無かった。

(全体傾向)



(基本属性クロス)

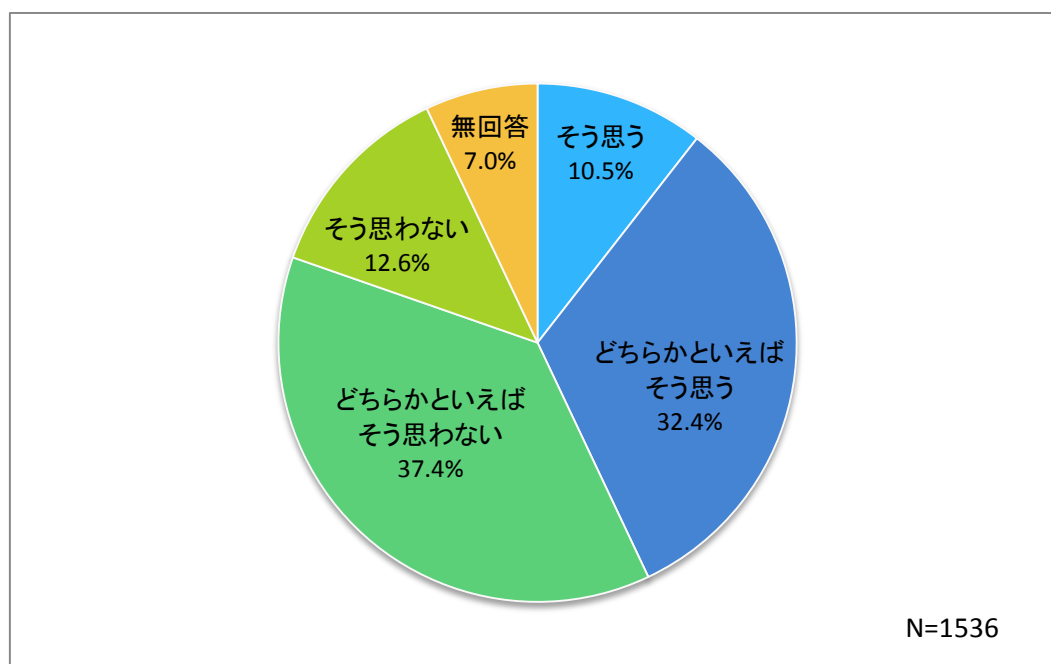


⑮特に個性がない町

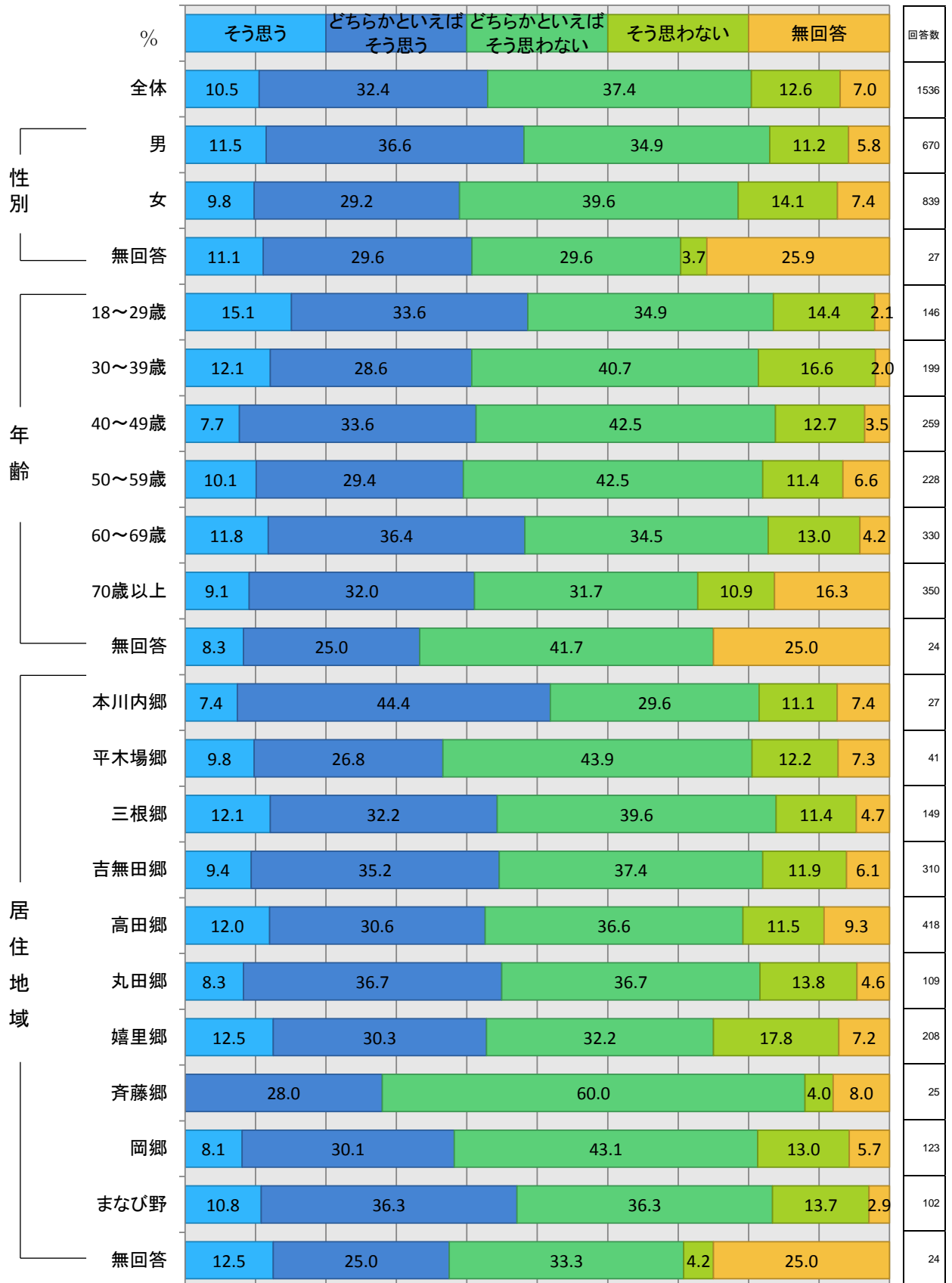
“個性がない町”とは思っていない

全体傾向	「そう思う（どちらかといえばそう思う）」が42.9%であるのに対し「そう思わない（どちらかといえばそう思わない）」は50.0%であった。回答者の半数は長与町を個性がない町とは思っていない。	
クロス集計	男女別	「そう思う（どちらかといえばそう思う）」は女性39.0%に対し男性48.1%と男性の方が「特に個性がない」とする割合が高い。
	年齢別	「18～29歳」及び60歳代で「そう思う（どちらかといえばそう思う）」割合が高い。
	地域別	本川内郷は、そう思う傾向が強く、これとは逆に齊藤郷は、そう思わない傾向が強い。

(全体傾向)



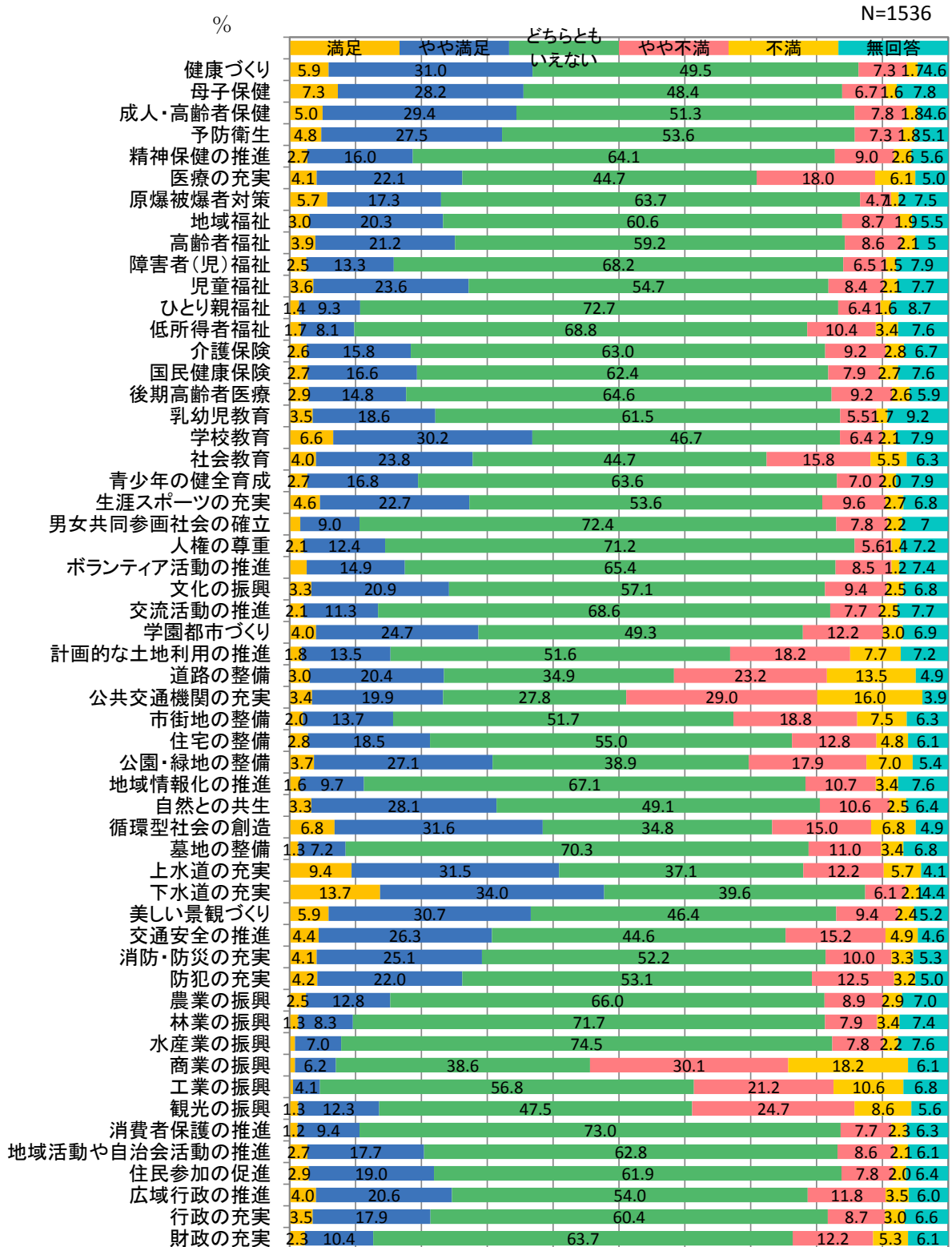
(基本属性クロス)



3. まちづくり施策の満足度・重要度

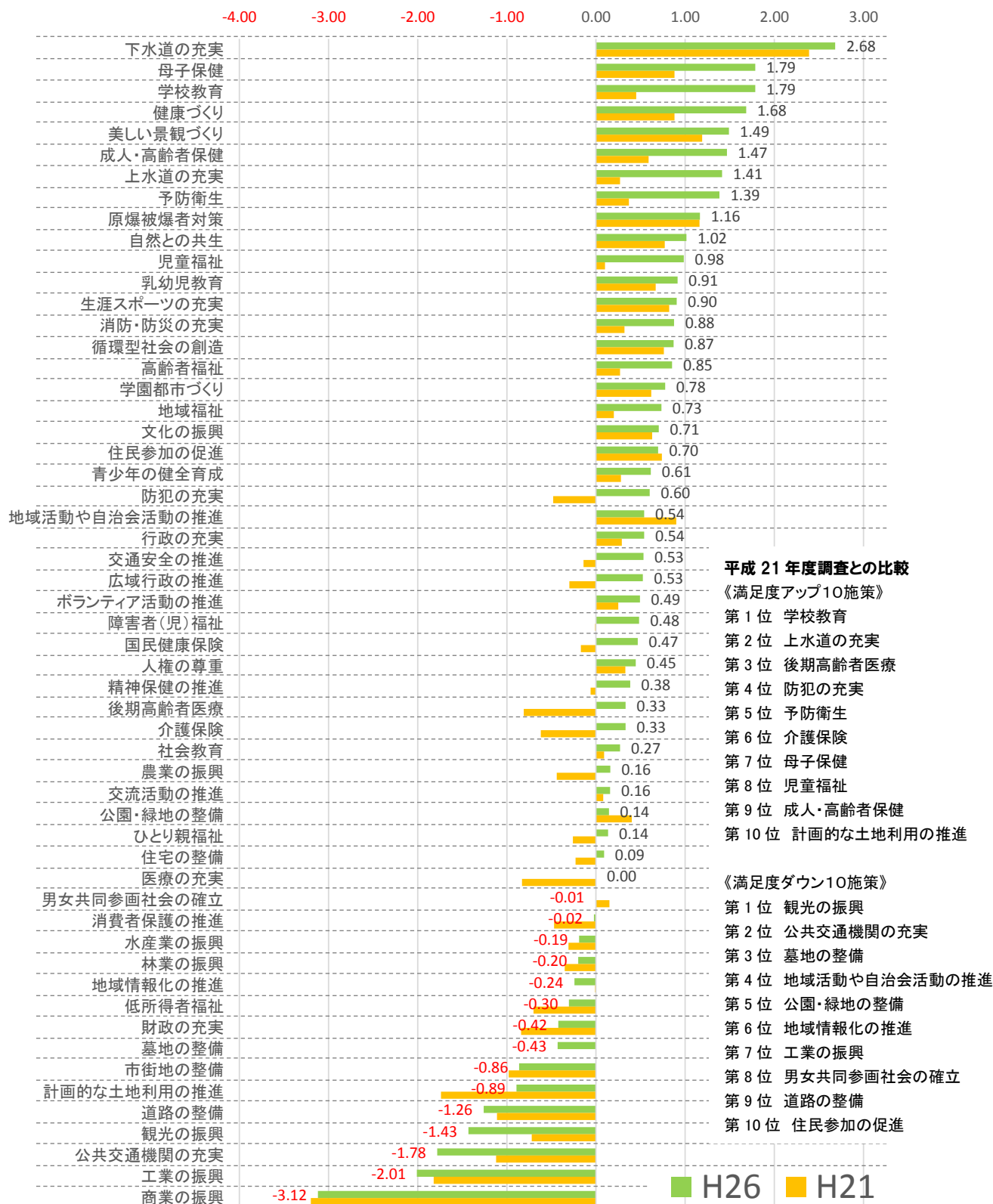
問4 (1)長与町のまちづくり施策の満足度 (5段階評価で択一)

長与町が実施している施策の満足度を尋ねたところ、満足度（満足+やや満足）が最も高いのは「下水道の充実」であり、以下「上水道の充実」、「循環型社会の形成」、「健康づくり」、「学校教育」の順で続いている。一方、不満度（不満+やや不満）は「商業の振興」が最も高く、以下、「公共交通機関の充実」、「道路の整備」、「観光の振興」、「工業の振興」の順で続いている。



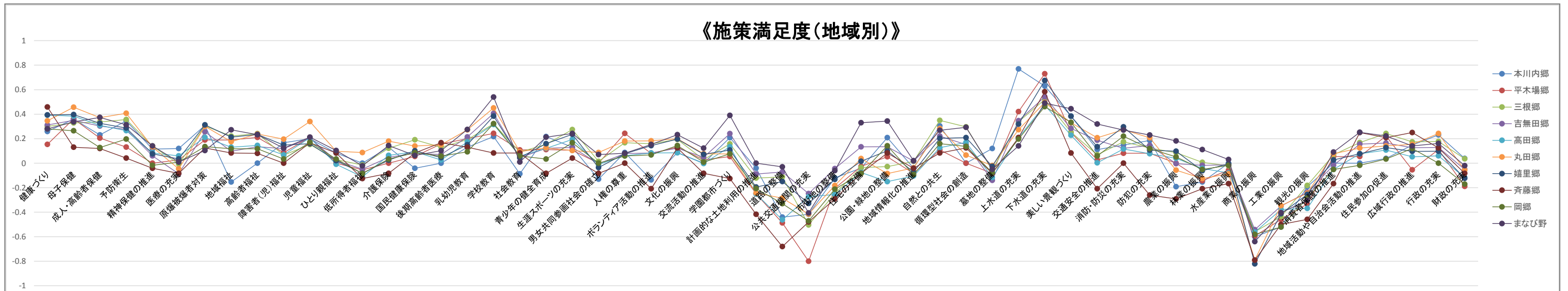
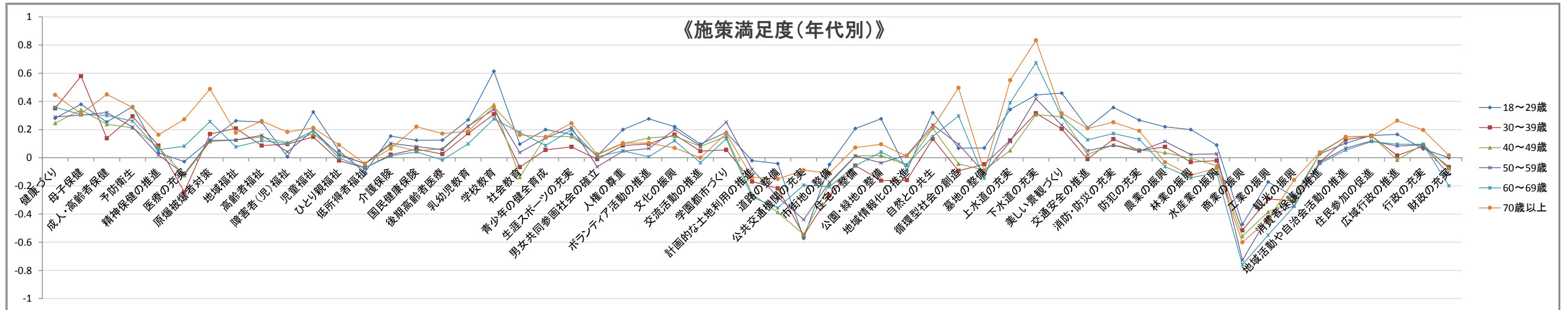
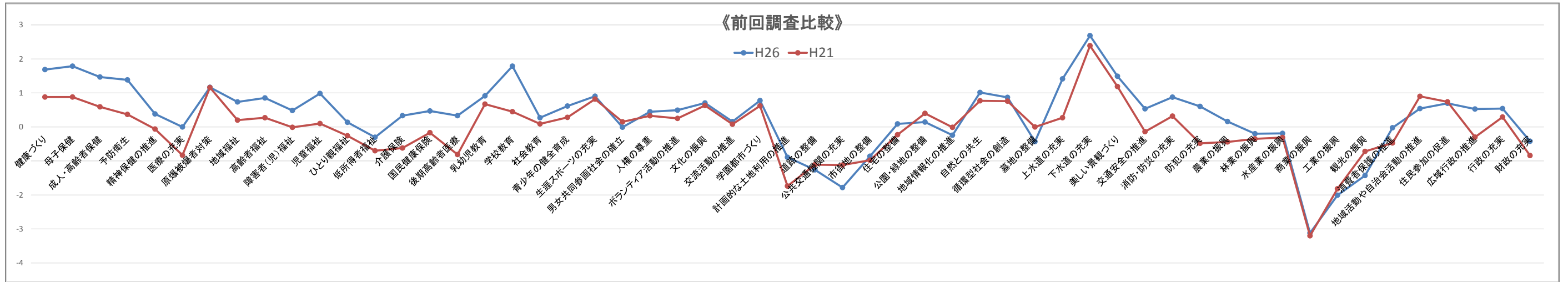
(満足度指数)

各施策について、満足・不満両方の観点から回答数を指数化したところ、満足度が高い順に「下水道の充実」、「母子保健」、「学校教育」、「健康づくり」となった。また、前回調査（平成21年）との比較では、55施策中、45施策の満足度が向上しており、その度合いは、上位から「学校教育」、「上水道の充実」、「後期高齢者医療」という結果となった。



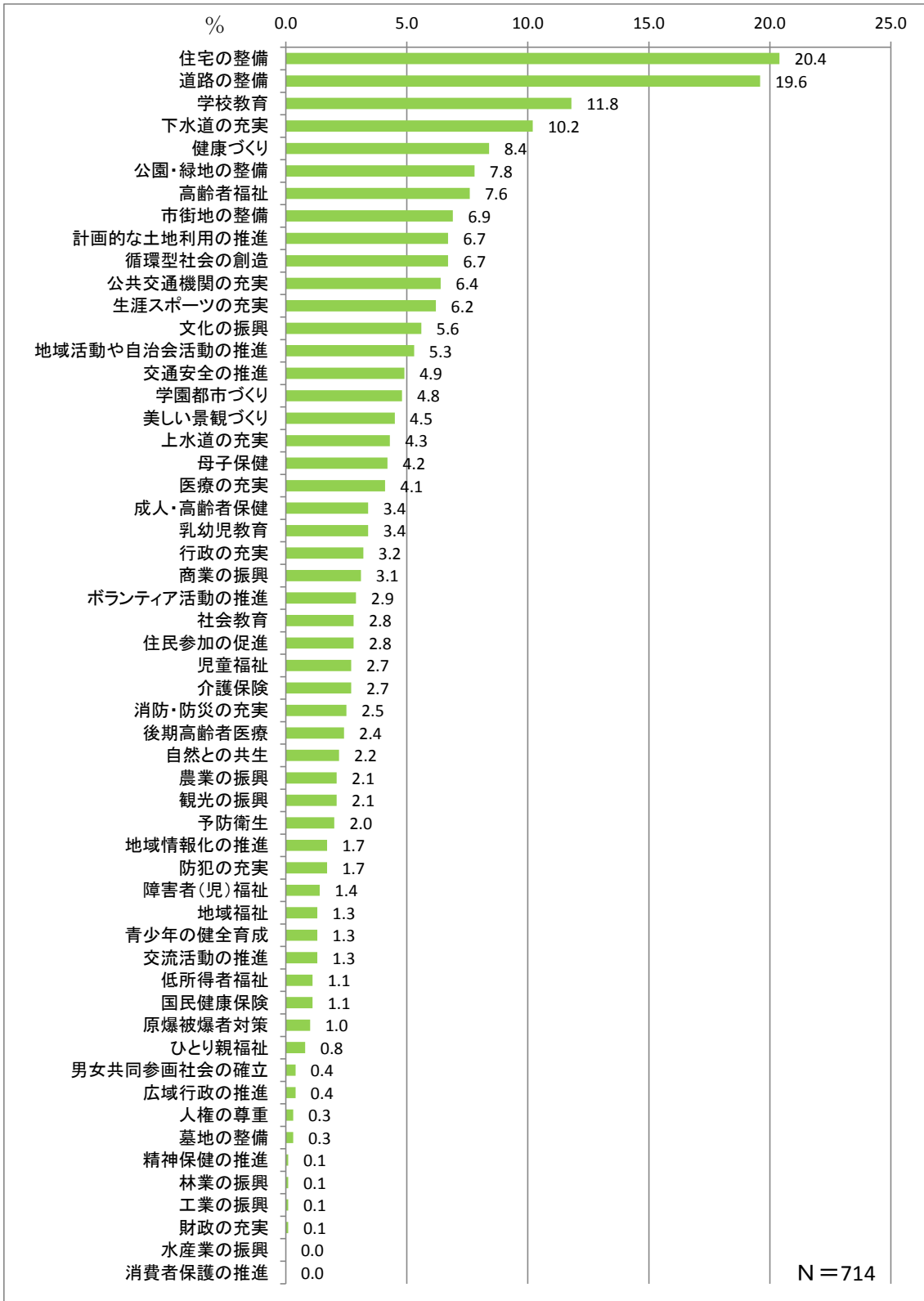
《満足度指数》=(「満足」×10+「やや満足」×5+「どちらともいえない」×0+「やや不満」×(-5)+「不満」×(-10))/回答数
 ※前回調査と同様の算定方式とした

満足度分析



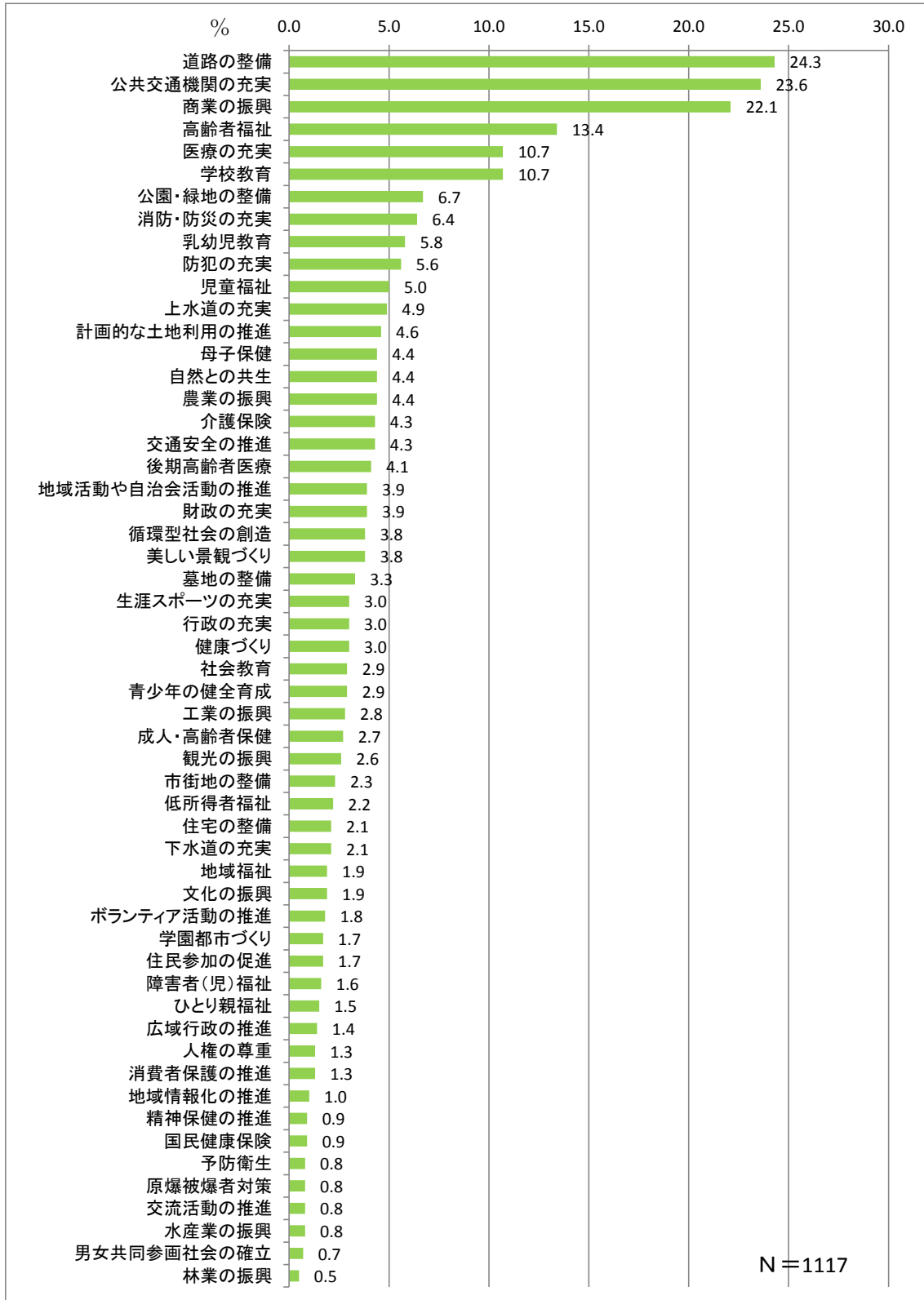
問4 (2) この5年で“進んだ”と思う施策 (3つまで)

この5年間で進んだ施策を尋ねたところ、「住宅の整備」と「道路の整備」が20%前後の高い割合であった。これは民間開発による宅地開発や一部区間の道路整備が進んだことが背景にあると想定される。



問4 (3) 今後“特に重要”と思う施策 (3つまで)

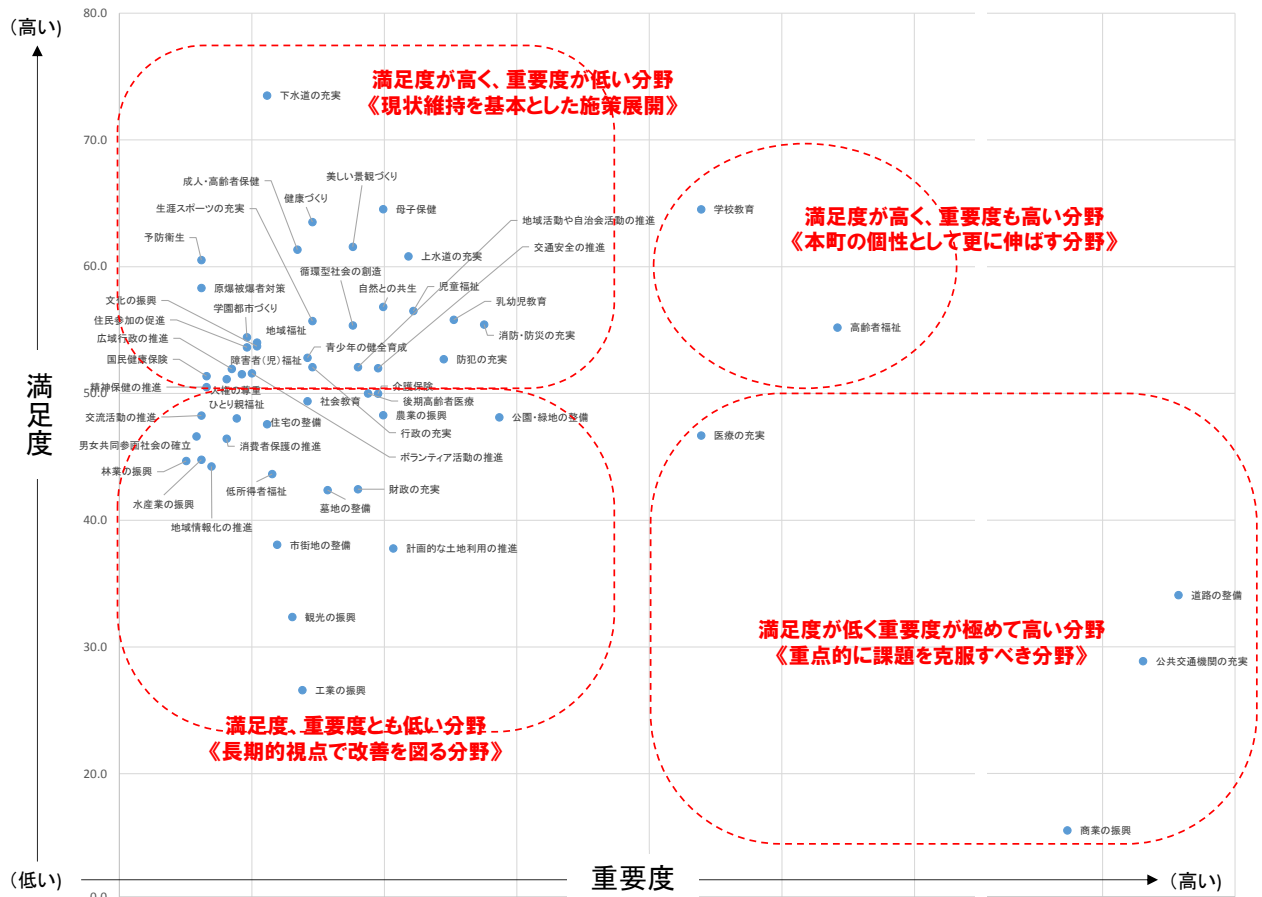
今後特に重要な施策を尋ねたところ、「道路の整備」、「公共交通機関の充実」、「商業の充実」が20%以上と高い割合となっている。特に交通関連のニーズが高く重点的な取り組みが求められる。



《満足度×重要度から浮かび上がる政策課題》

満足度・重要度指数をもとにした偏差値散布図より今後の重点施策を分析したところ、満足度が低く重要度が高い最重要施策には「道路の整備」、「公共交通機関の充実」、「商業の振興」が挙げられる。また、現在、満足度は高いものの今後も重要な施策としては「学校教育」、「高齢者福祉」が挙げられる。

(満足度・重要度偏差値散布図)



※前述した満足度・重要度指数より満足度偏差値・重要度偏差値を算出。この偏差値をもとに散布図を作成

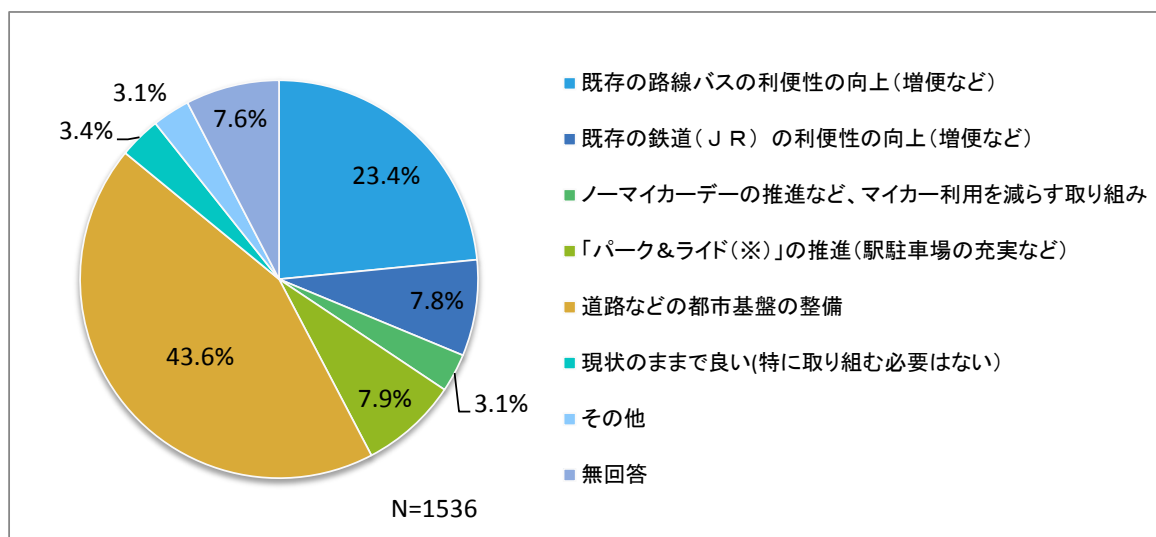
4. 個別のまちづくり課題への取り組みの方向性

問5 長崎市、時津町方面へ向かう道路の交通渋滞問題について、今後どのような取組が必要だと思いますか。(択一)

道路など都市基盤の整備、既存の路線バスの利便性の向上(増便など)が重要

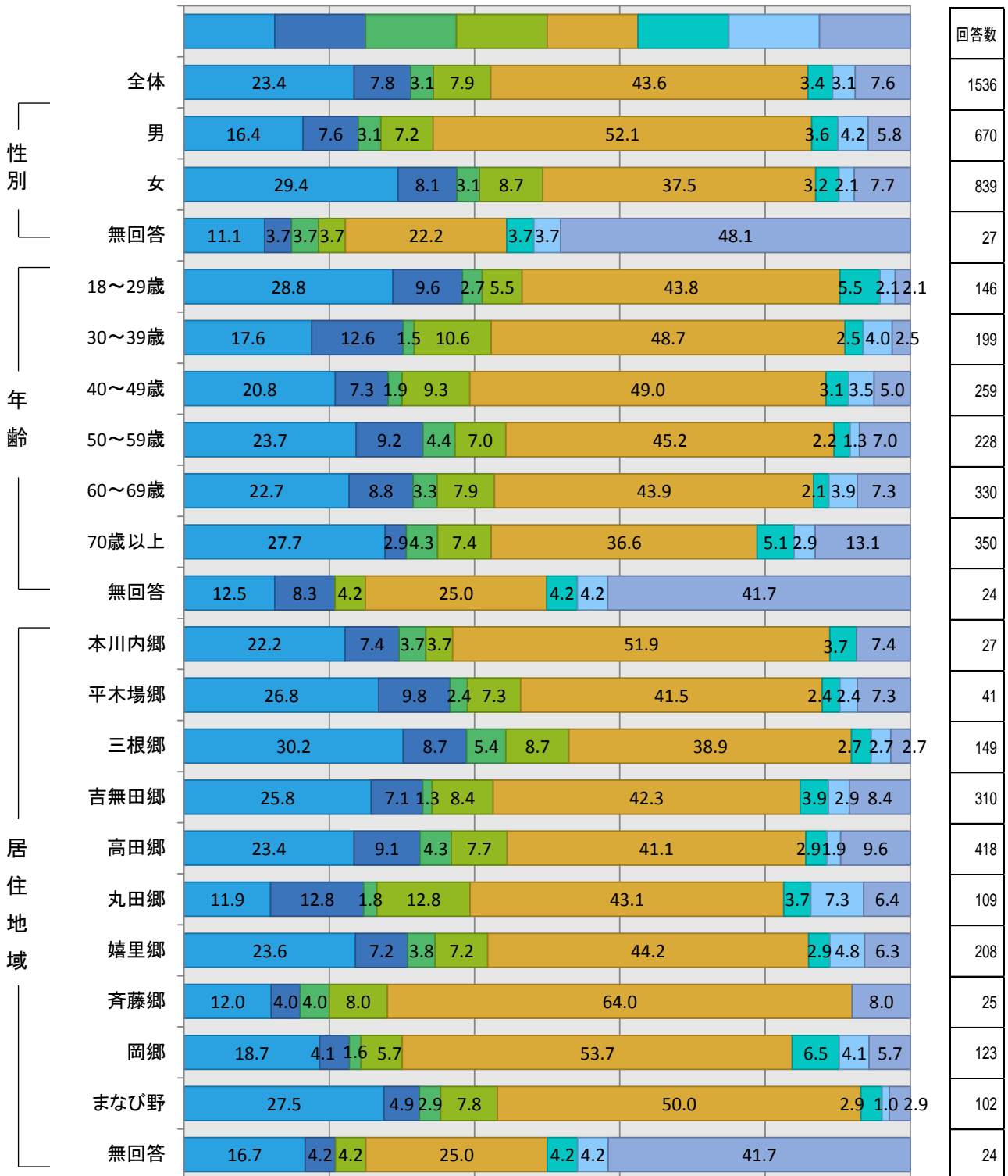
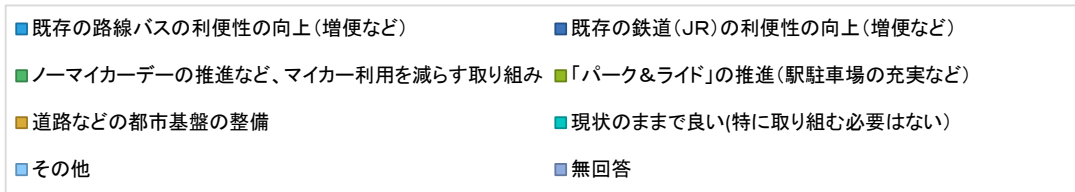
全体傾向	「道路などの都市基盤の整備」が43.6%と最も高く、「既存の路線バスの利便性の向上」、「パーク&ライドの推進(駅駐車場の充実など)」が続いている。	
クロス集計	男女別	男性は女性に比べ「道路などの都市基盤の整備」が14.6ポイント高く、これとは逆に「既存の路線バスの利便性向上(増便など)」では女性が男性を13.0ポイント上回っている。
	年齢別	「既存の路線バスの利便性向上(増便など)」において、「18~29歳」の割合が最も高く、その他の年代では、年齢が増すにつれ、その割合が高くなる傾向にある。
	地域別	斉藤郷では、「道路などの都市基盤の整備」が特に高い割合を占めている。「既存の路線バスの利便性向上(増便など)」は、地域差が大きく、最高の三根郷(30.2%)と最低の丸田郷(11.9%)では、18.3ポイントの開きがある。

(全体傾向)



※交通渋滞の緩和のため、自動車・原付・軽車両を公共交通機関乗降所(鉄道駅やバス停留所など)に設けた駐車場に停車させ、そこから鉄道や路線バスなどの公共交通機関に乗り換えて目的地に行く方法

(基本属性クロス)

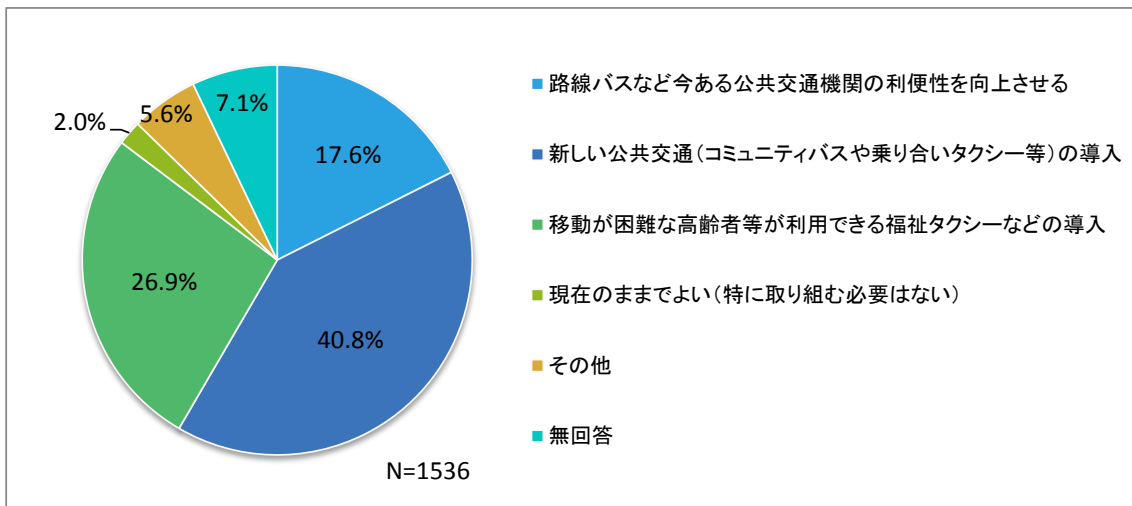


問6 今後、長与町においても高齢化が進み、買い物困難者など交通弱者が増加していくことについて、今後どのような取組が必要だと思いますか。(択一)

新しい公共交通の導入が望まれている

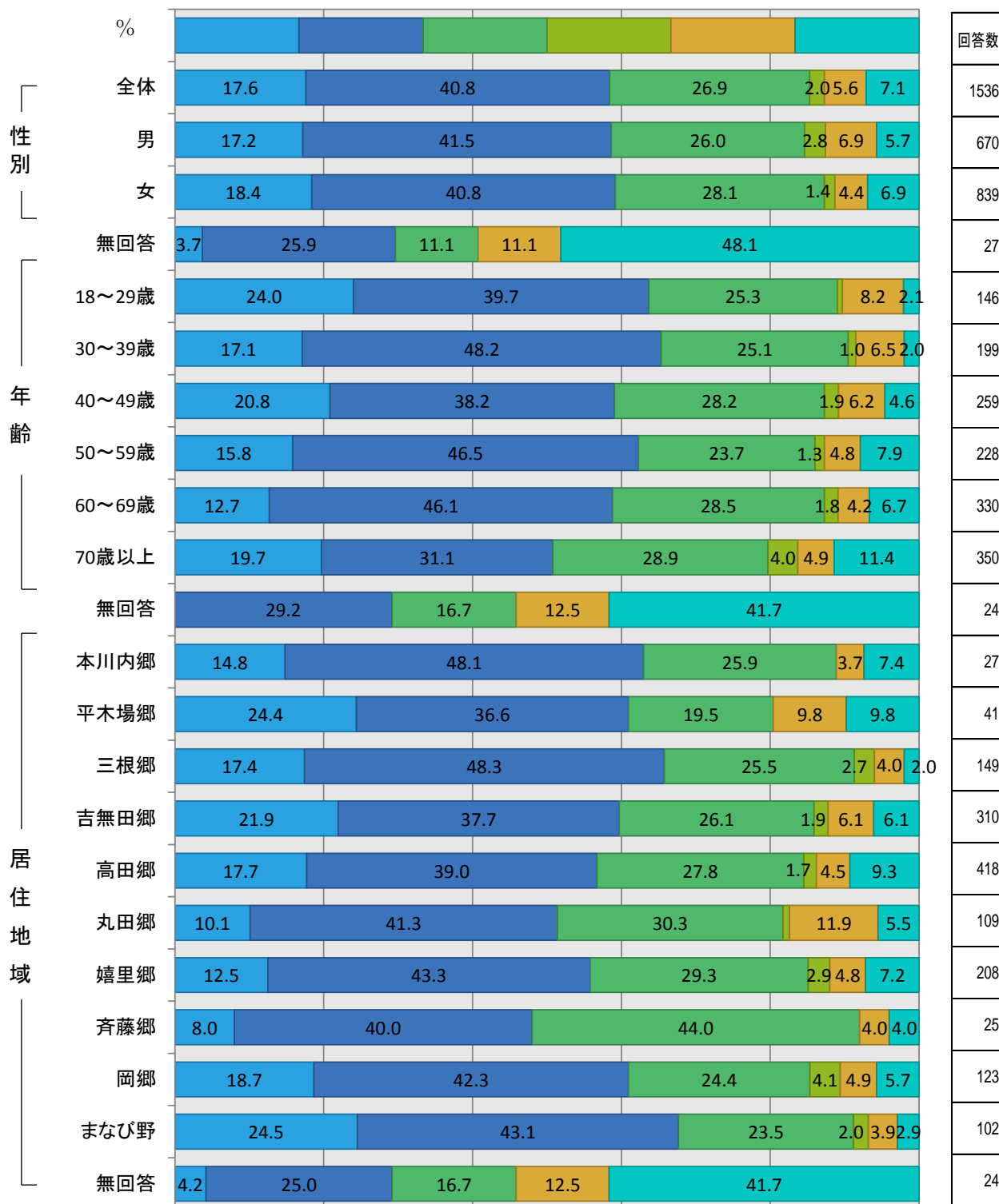
全体傾向	「新しい公共交通（コミュニティバスや乗り合いタクシー等）の導入」が40.8%と最も高く、「移動が困難な高齢者等が利用できる福祉タクシーなどの導入」、「路線バスなど今ある公共交通機関の利便性を向上させる」が続いており、新しい公共交通を望む割合が高い。	
クロス集計	男女別	男女間での大きな傾向の違いは見られない。
	年齢別	「新しい公共交通（コミュニティバスや乗り合いタクシー等）」は、現役世代を含む幅広い世代で支持されているが、唯一70歳以上においては、その傾向が弱い。
	地域別	「路線バスなど今ある公共交通機関の利便性を向上させる」において地域差が示されており、最高のまなび野、平木場郷と最低の斉藤郷では、16ポイント以上の開きがある。

(全体傾向)



(基本属性クロス)

- 路線バスなど今ある公共交通機関の利便性を向上させる
- 新しい公共交通(コミュニティバスや乗り合いタクシー等)の導入
- 移動が困難な高齢者等が利用できる福祉タクシーなどの導入
- 現在のままでよい(特に取り組む必要はない)
- その他
- 無回答

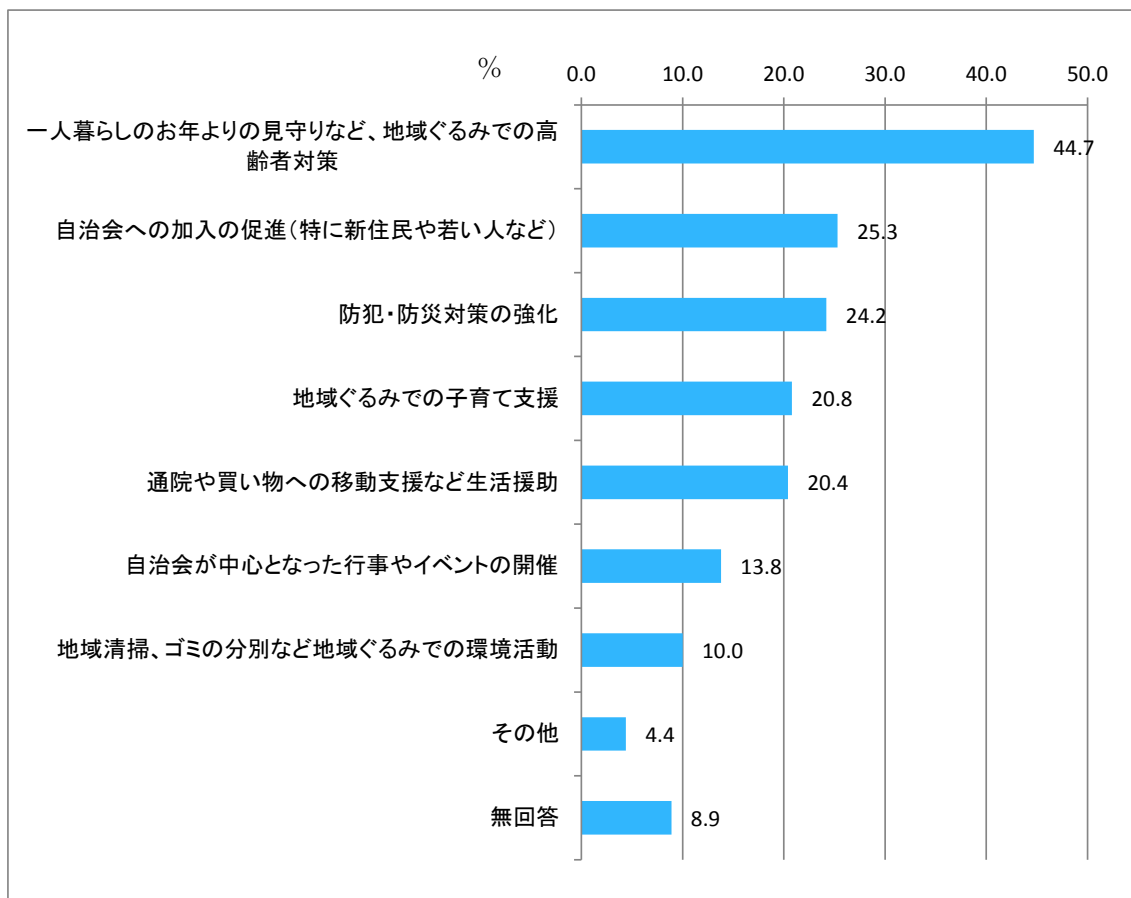


問7 今後、地域のコミュニティを維持し、暮らしやすいまちづくりを進めるためには何が必要だと思いますか。(2つまで)

「地域ぐるみの高齢者対策」が求められている

全体傾向	「一人暮らしのお年よりの見守りなど、地域ぐるみでの高齢者対策」が44.7%で突出しており、「自治会への加入促進（特に新住民や若い人など）」「防犯・防災対策の強化」がほぼ同率で続いている。
クロス集計 年齢別	「一人暮らしのお年よりの見守りなど、地域ぐるみでの高齢者対策」では、30歳代が、「自治会への加入の促進（特に新住民や若い人など）」においては、「18～29歳」が、それぞれ低い結果となった。「防犯・防災対策の強化」では、「18～29歳」が若干高い値を示している。
クロス集計 地域別	3項目それぞれ地域による特徴が示されているが、特に「自治会への加入促進（特に新住民や若い人など）」及び「防犯・防災対策の強化」において顕著である。

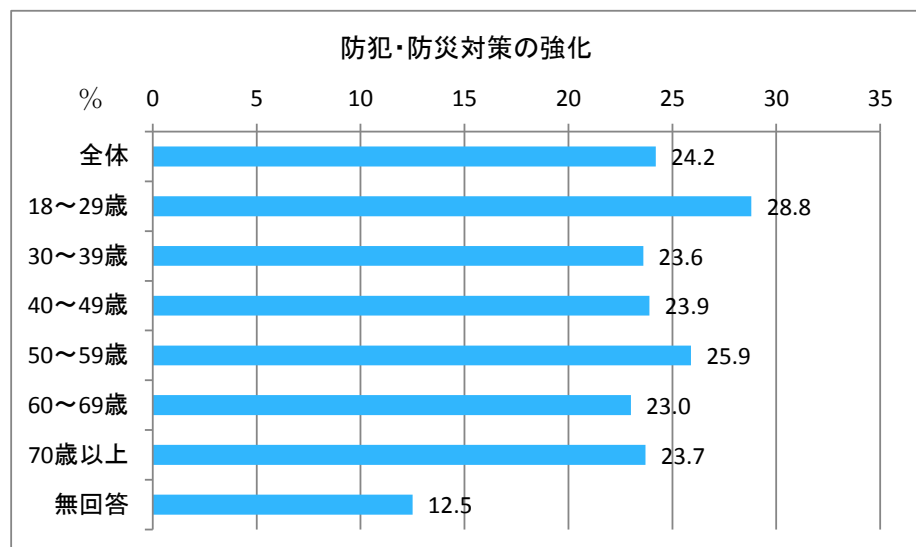
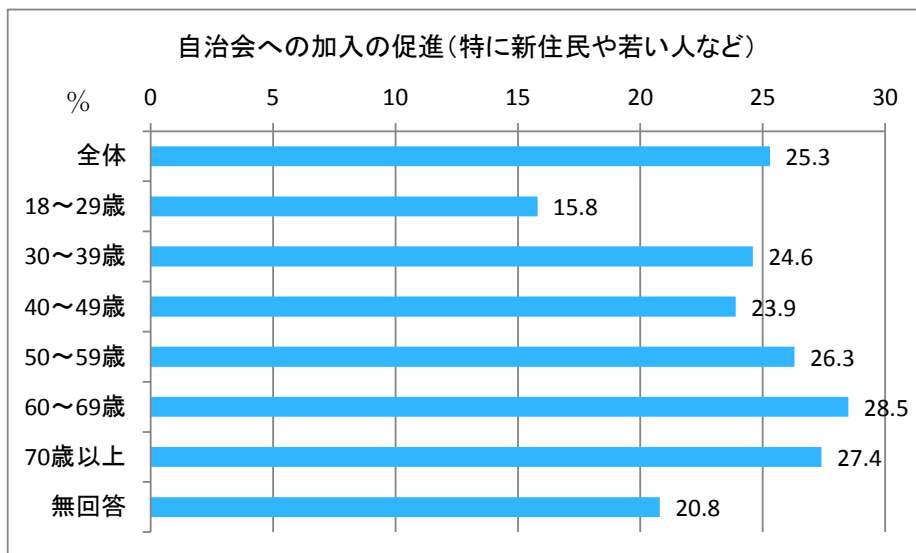
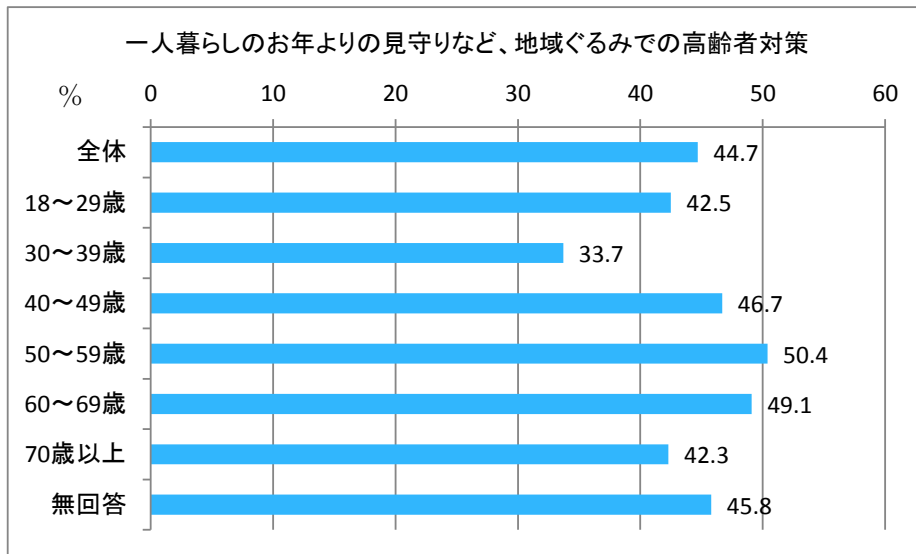
(全体傾向)



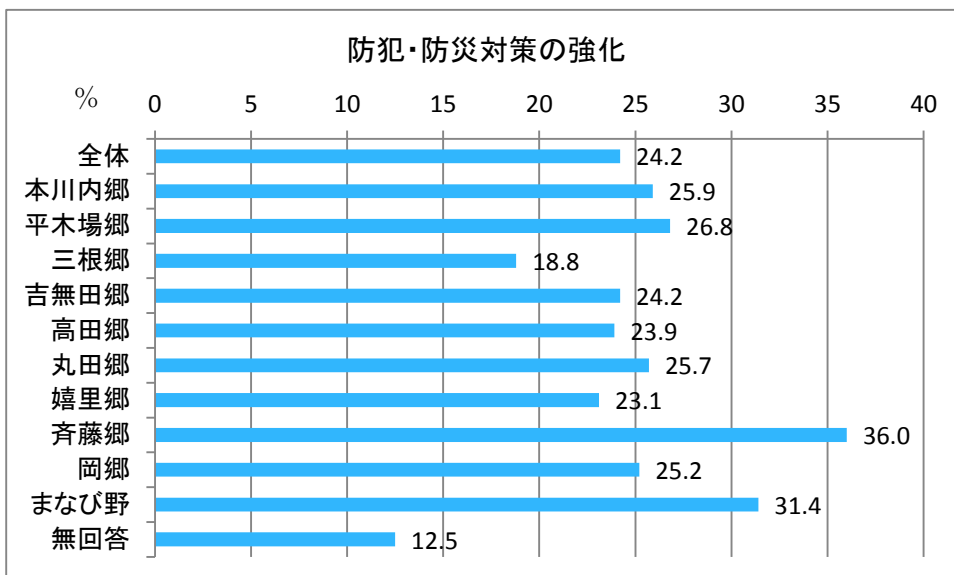
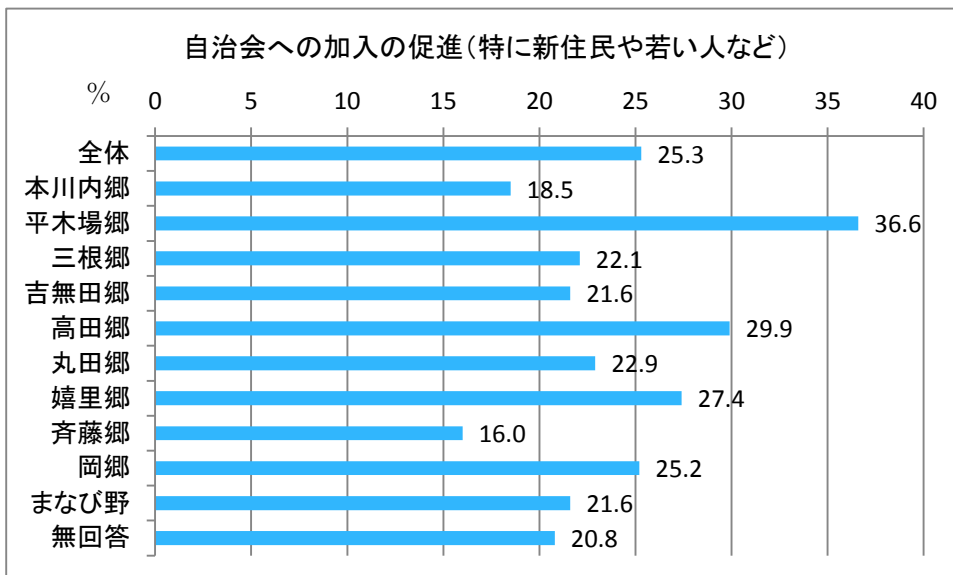
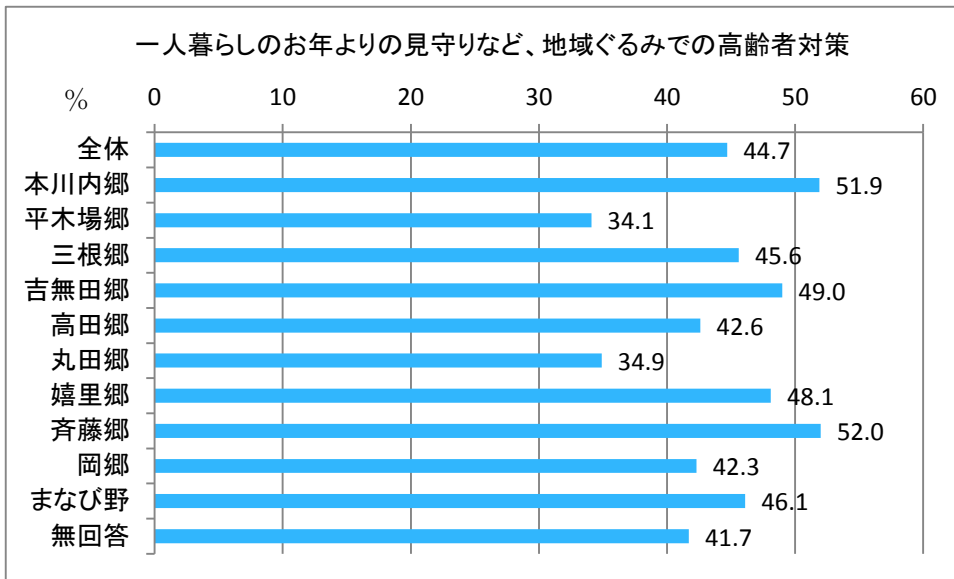
N=1536

※上位3項目のクロス集計

(年代別)



(地域別)

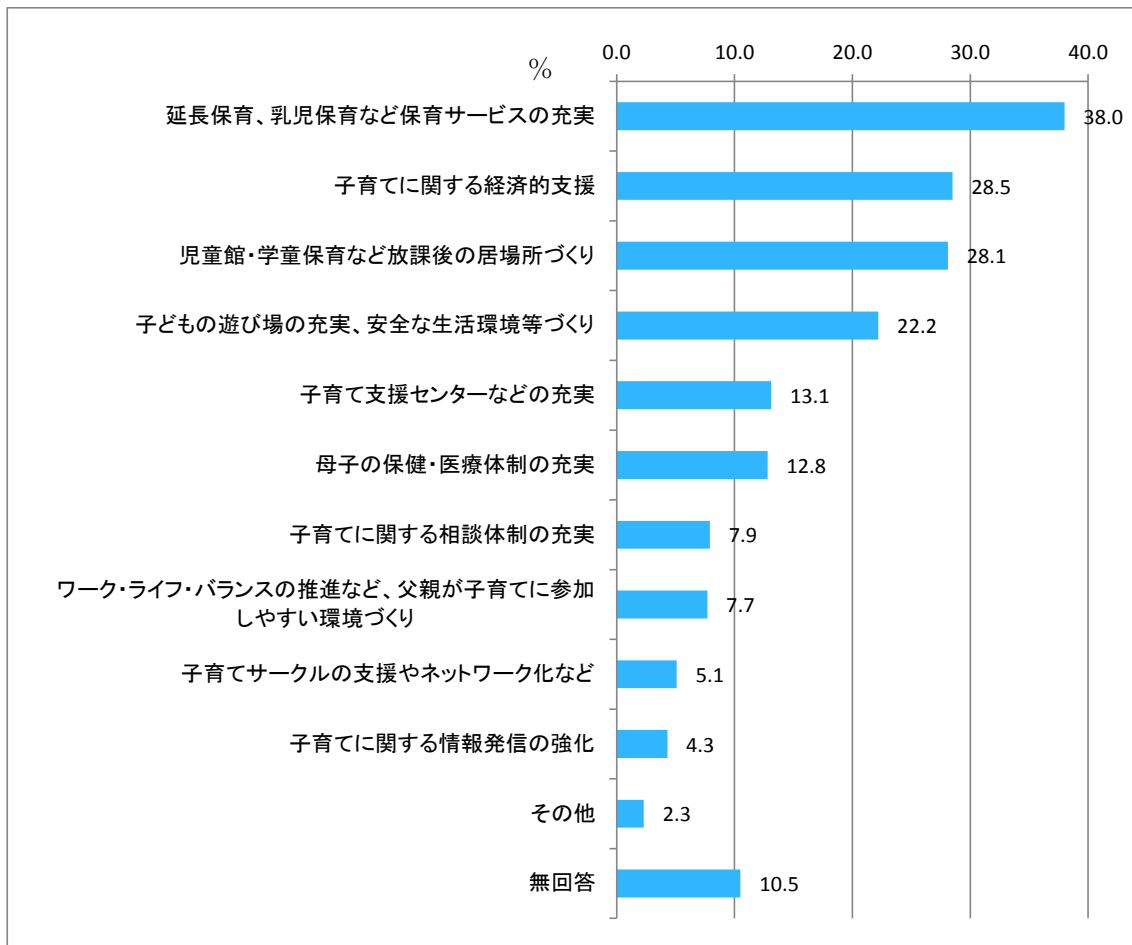


問 8 子育て支援を充実させるためには、今後どのような取組が必要だと思いますか。(2つまで)

保育サービスの充実、経済的支援、放課後の居場所づくりのニーズが高い

全体傾向	「延長保育、乳児保育など保育サービスの充実」が突出しており、「子育てに関する経済的な支援」「児童館・学童保育など放課後の居場所づくり」が、ほぼ同率で続いている。	
クロス集計	年齢別	子育て世代である「18～29歳」及び30歳代においては、「児童館・学童保育など放課後の居場所づくり」よりも「子育てに関する経済的な支援」を強く支持している点が、他の世代と異なっている。
	地域別	3項目それぞれ、地域による特徴が示されており、特に「児童館・学童保育など放課後の居場所づくり」において顕著である。

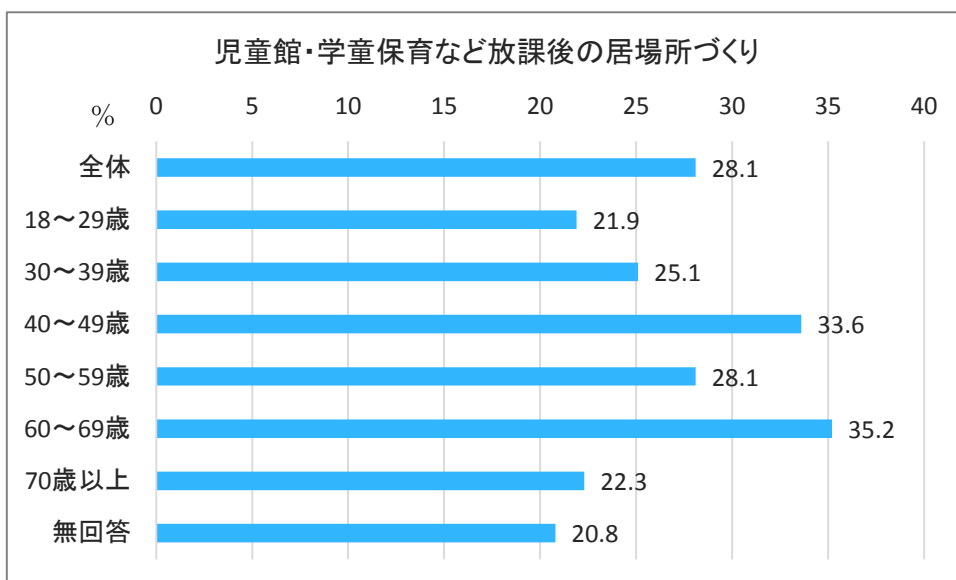
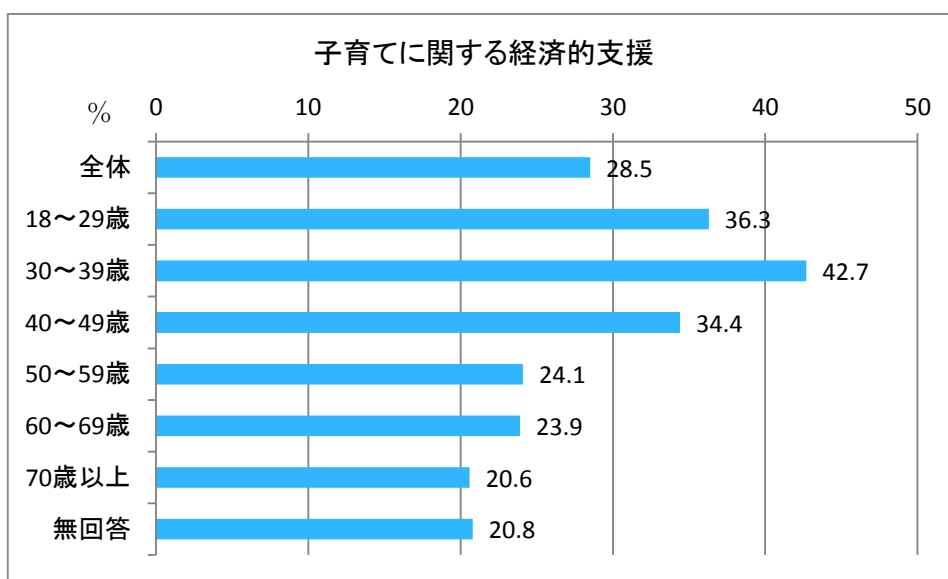
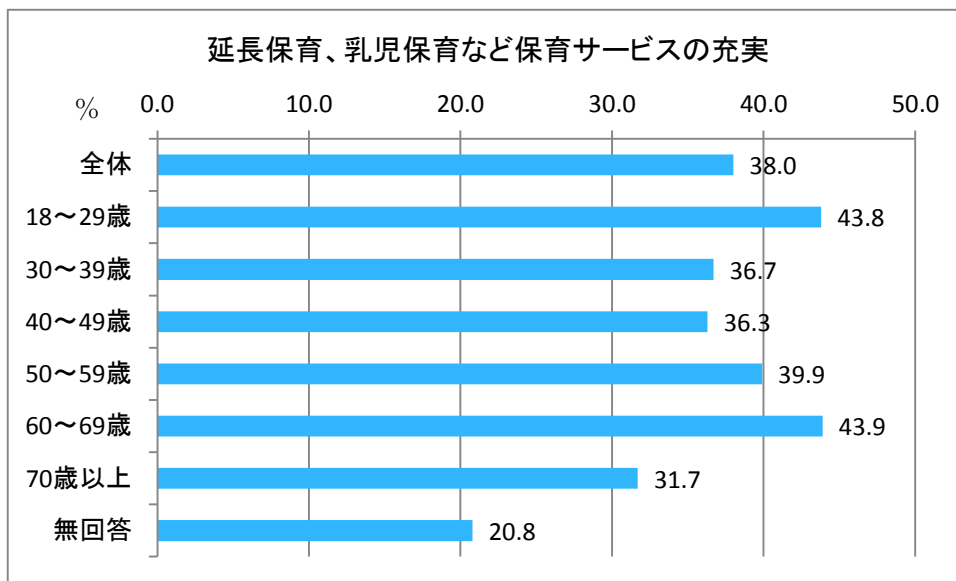
(全体傾向)



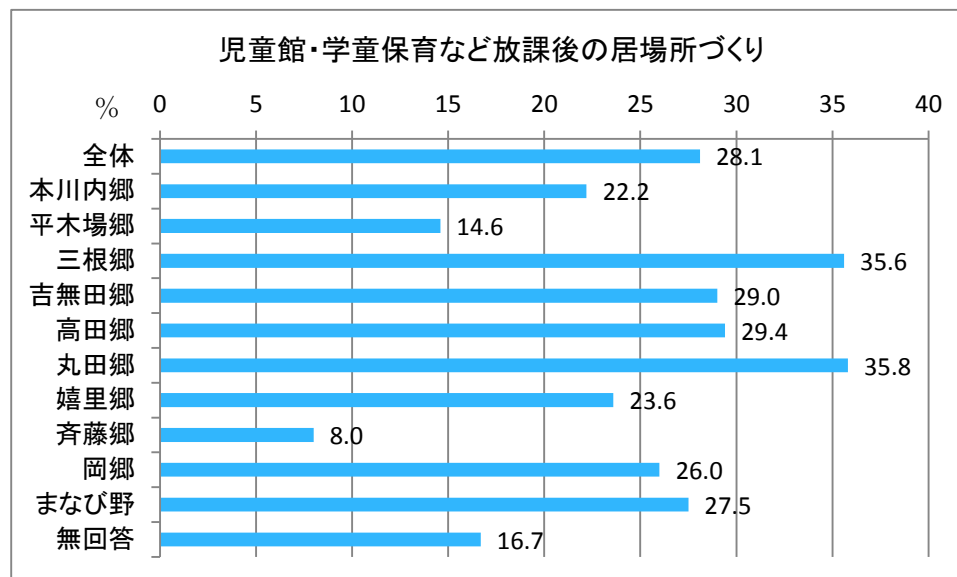
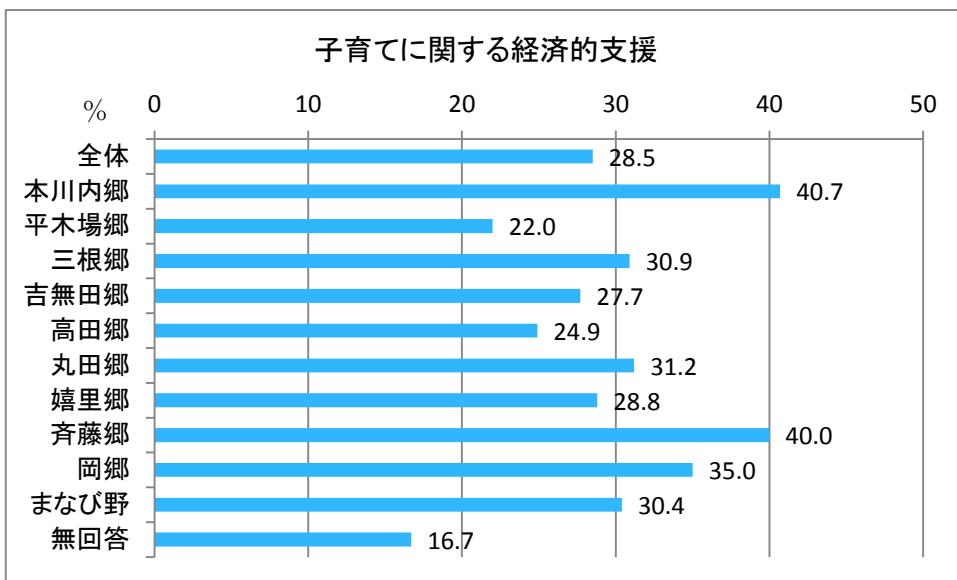
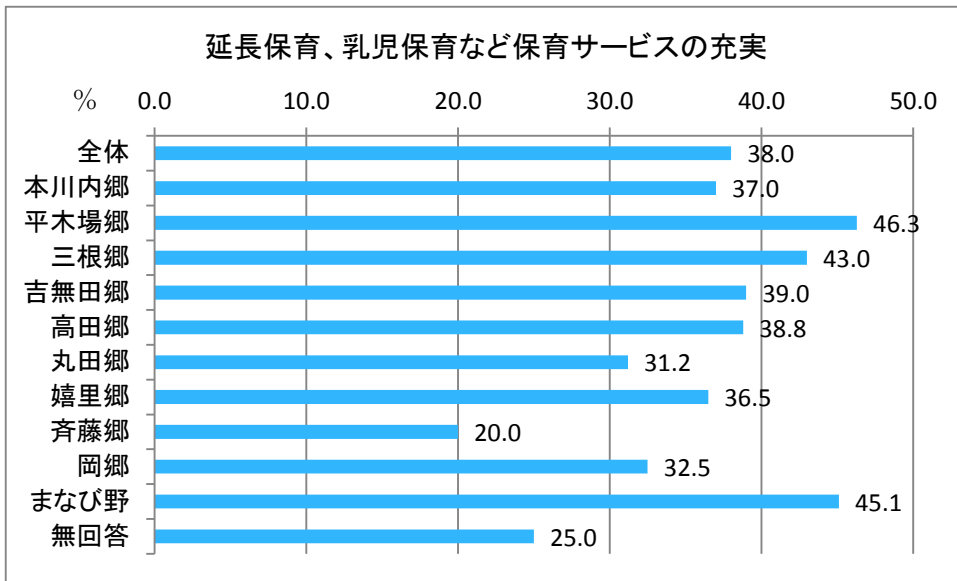
N=1536

※上位3項目のクロス集計

(年代別)



(地域別)

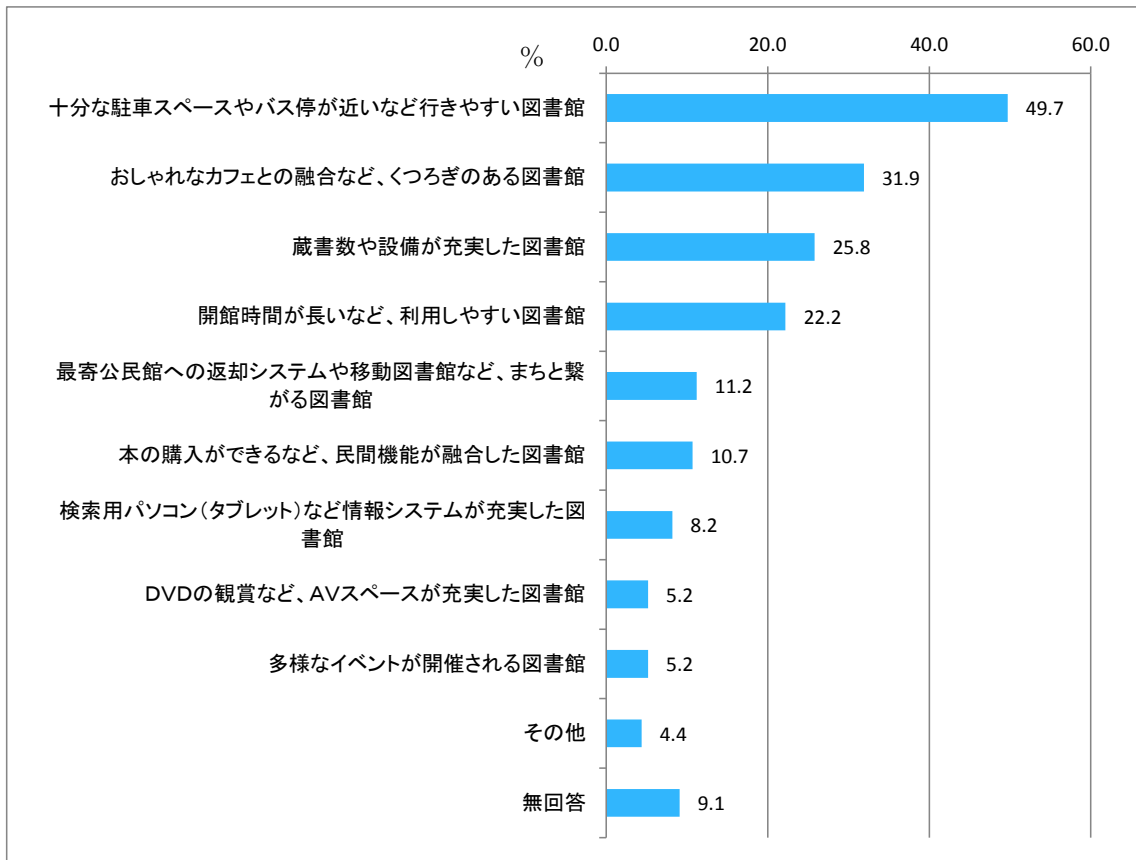


問9 新しい町立図書館に望むことは何ですか。(2つまで)

“利便性”、“くつろぎ”、“蔵書数”などがキーワードに

全体傾向	「十分な駐車スペースやバス停が近いなど行きやすい図書館」を望む割合が最も高く、「おしゃれなカフェとの融合など、くつろぎのある図書館」、「蔵書数や設備が充実した図書館」の順となっている。	
クロス集計	年齢別	「おしゃれなカフェとの融合など、くつろぎのある図書館」は、年齢層が若いほど支持される傾向が見える。
	地域別	3項目それぞれに地域による特徴が示されているが、特に「おしゃれなカフェとの融合など、くつろぎのある図書館」及び「蔵書数や設備が充実した図書館」においては、回答割合に2倍、もしくはそれ以上の開きが見られる。

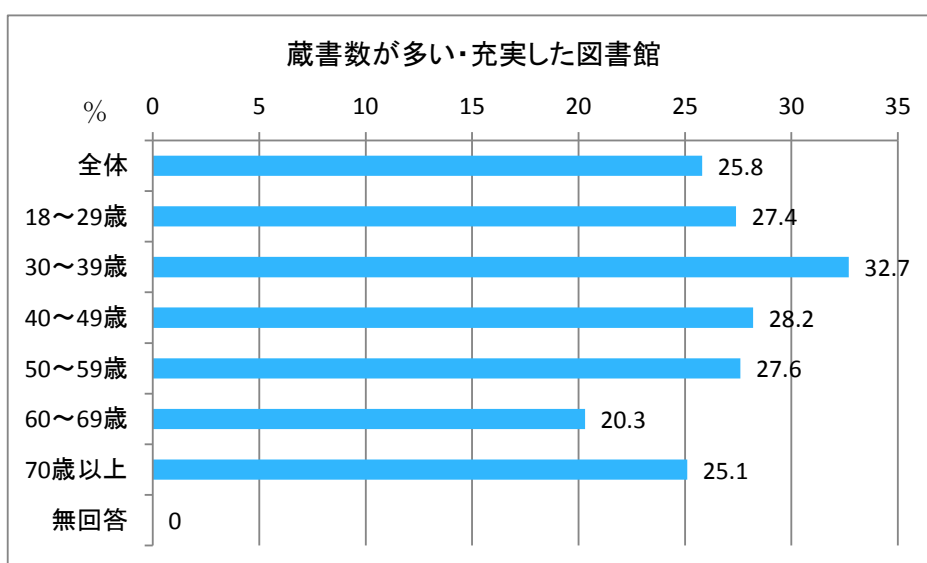
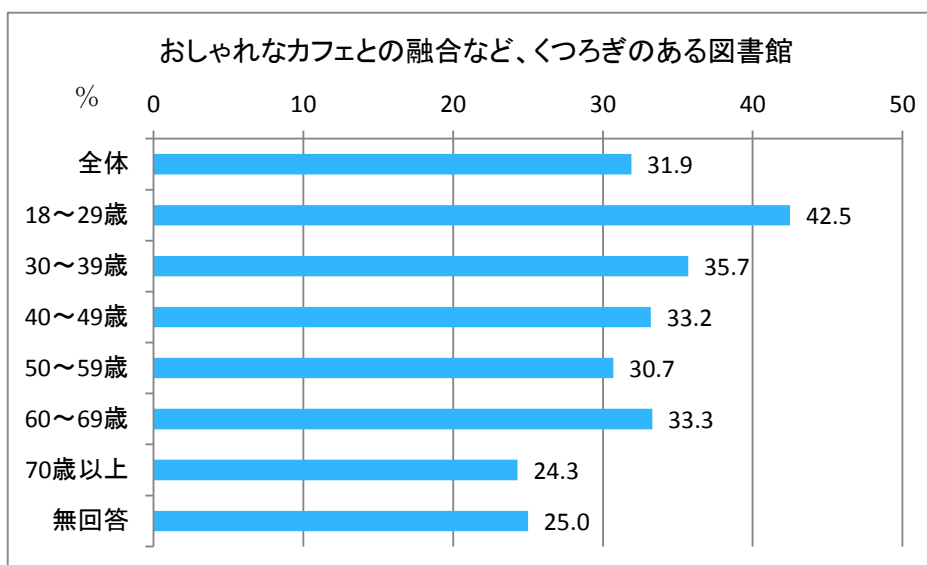
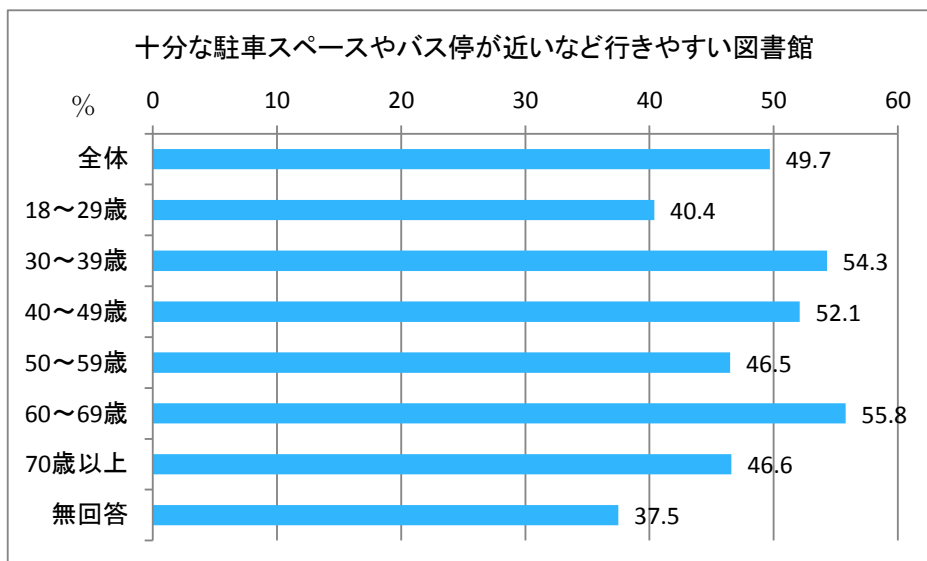
(全体傾向)



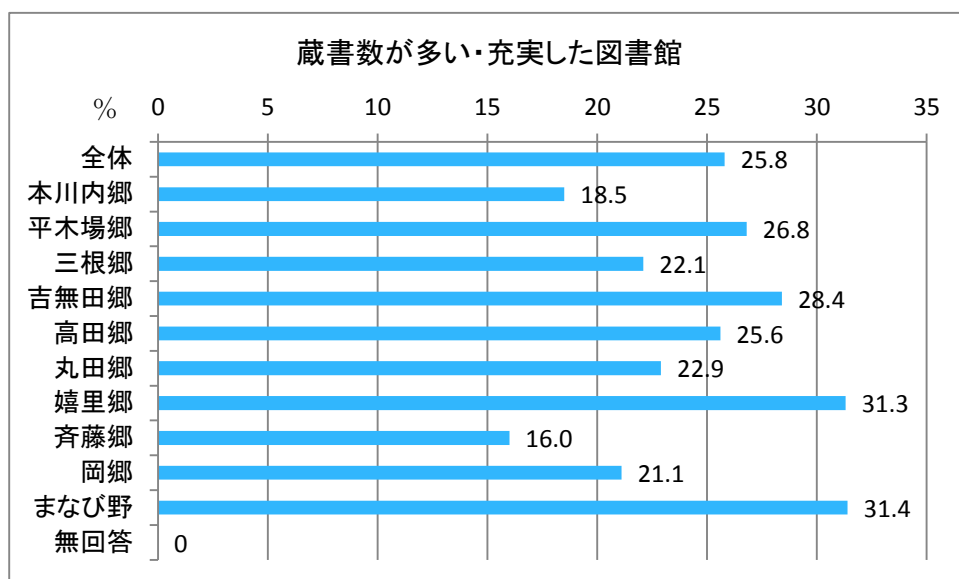
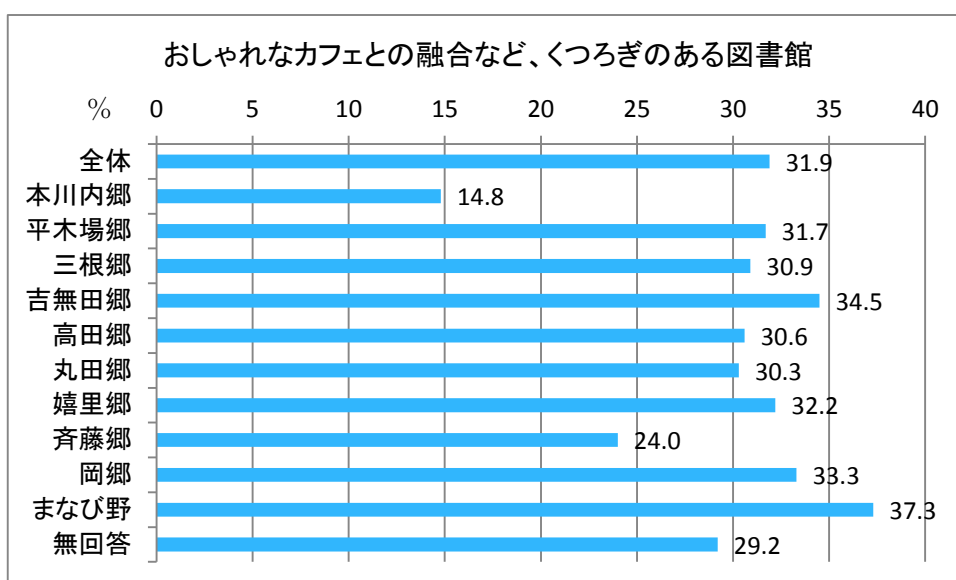
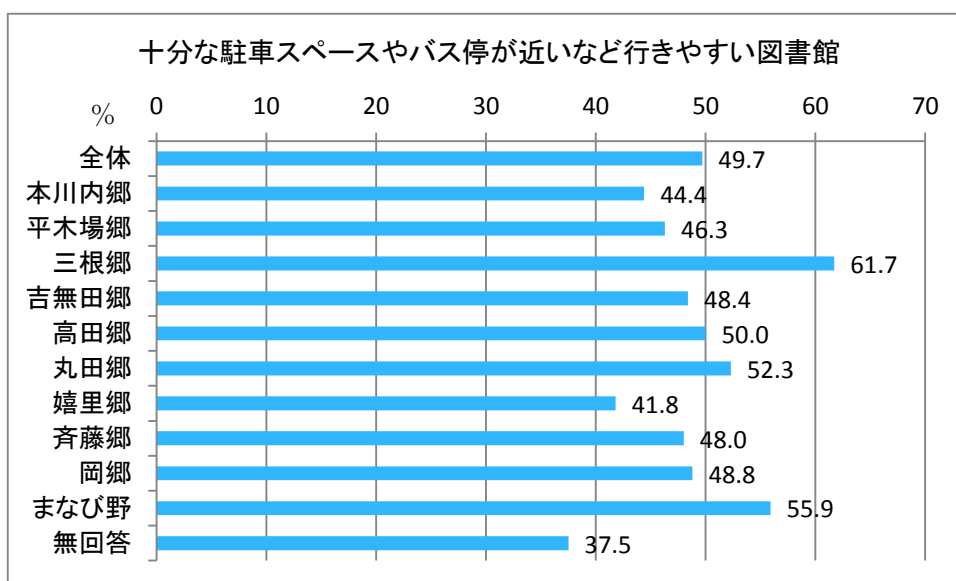
N=1536

※上位3項目のクロス集計

(年代別)



(地域別)

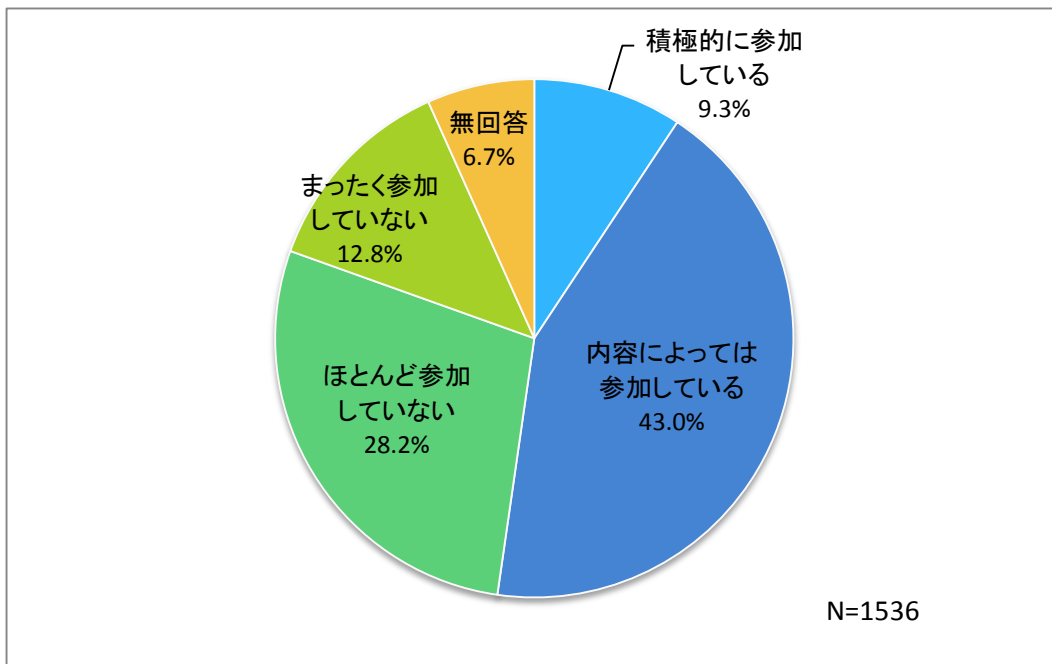


問10 地域活動にどの程度参加していますか。(択一)

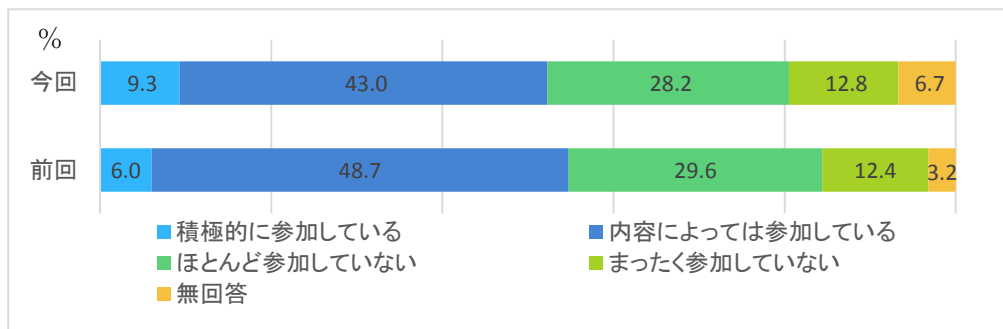
50%以上が地域活動に参加

全体傾向	「積極的に参加している」、「内容によっては参加している」割合は「ほとんど参加していない」、「まったく参加していない」割合より 11.3 ポイント高い。なお、今回の調査結果は前回調査（平成 21 年）とほぼ同様の結果であった。	
クロス集計	男女別	男女間による大きな傾向の違いは見られない。
	年齢別	60 歳代までは、年代が上がるほど参加する割合が高まる傾向にある。
	地域別	参加割合が高い順に、平木場郷、丸田郷、三根郷、本川内郷という結果となった。

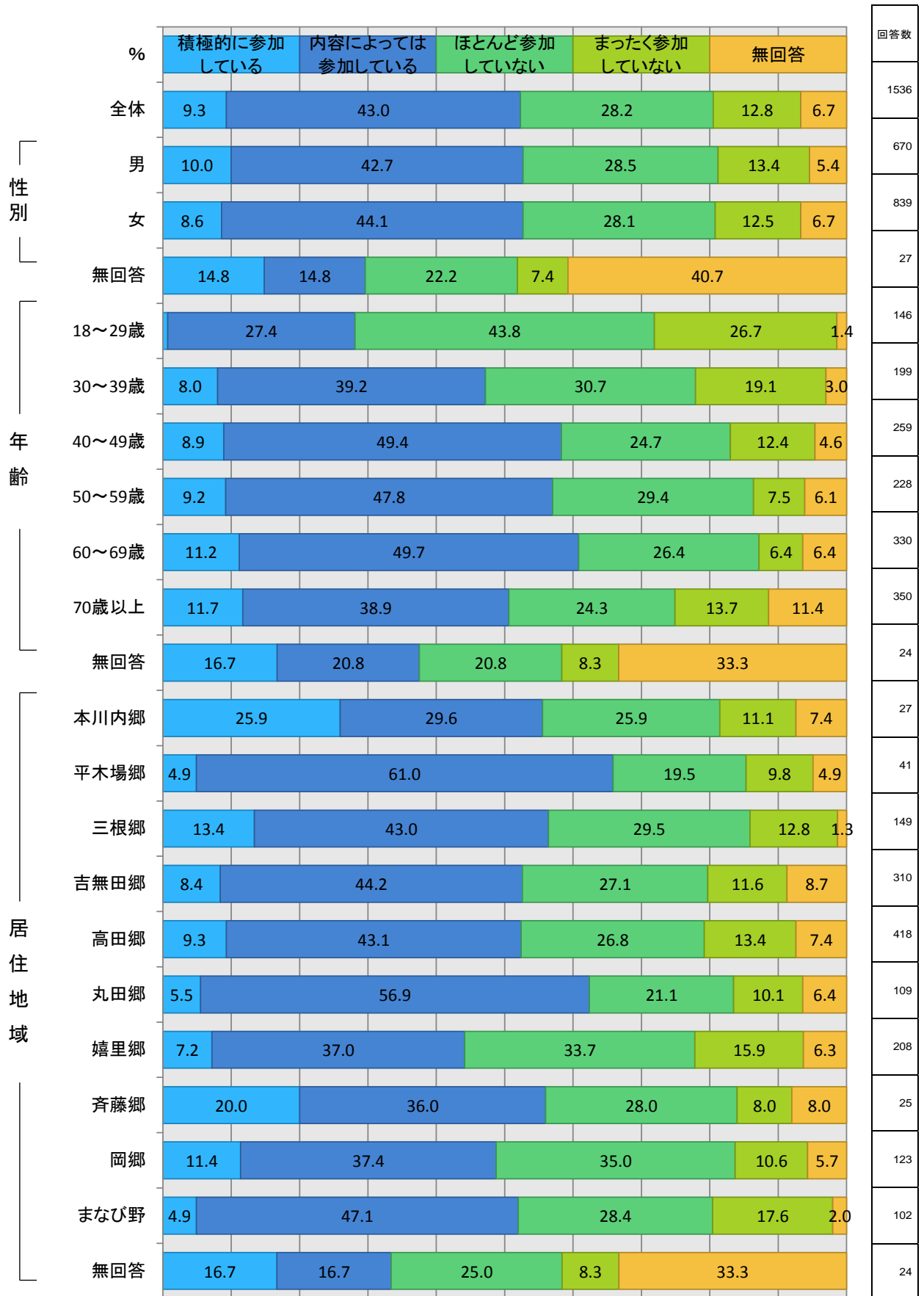
(全体傾向)



前回調査（平成 21 年度）との比較



(基本属性クロス)

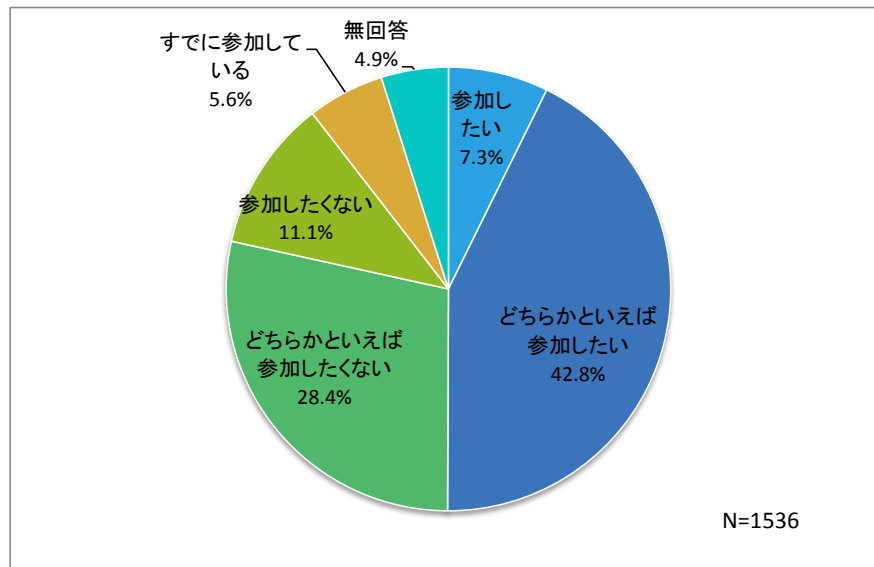


問11 ボランティア活動に参加したいと思いますか。(択一)

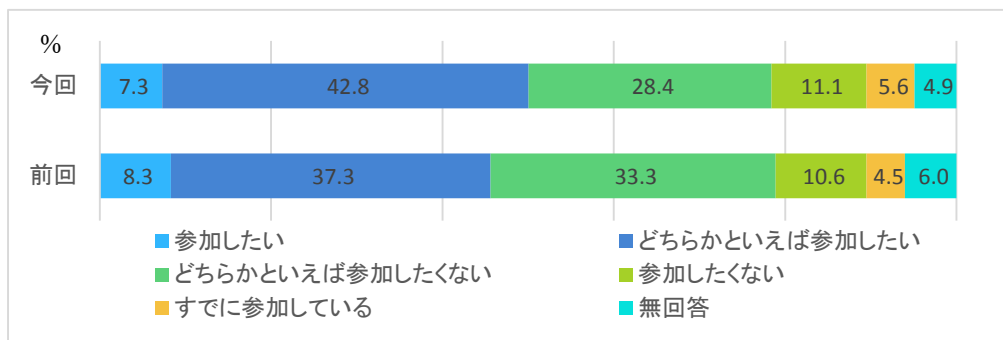
半数が参加希望者

全体傾向	「参加したい」、「どちらかといえば参加したい」割合は、ほぼ 5 割で「参加したくない」、「どちらかといえば参加したくない」割合より 10.6 ポイント高い。なお、今回調査結果は前回調査（平成 21 年）より 4.5 ポイント参加意向が高くなっている。	
クロス集計	男女別	男女間による大きな傾向の違いは見られない。
	年齢別	参加したいとする傾向は、「18～29 歳」に最も強く示されている。また、「すでに参加している」人は、50 歳以上の年代に多い。
	地域別	「すでに参加している」割合に、地域の特徴が見られる。

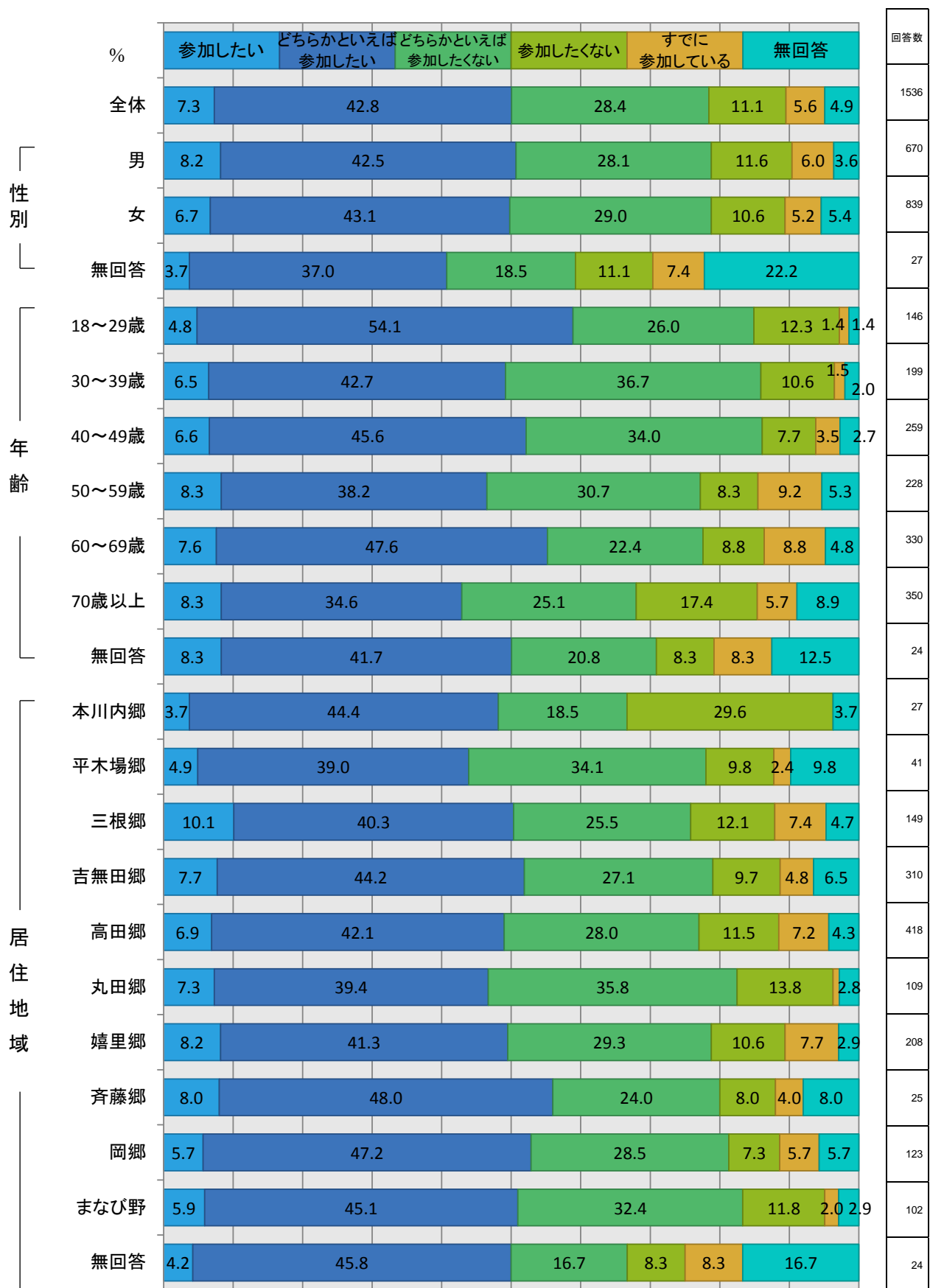
(全体傾向)



前回調査(平成 21 年度)との比較



(基本属性クロス)

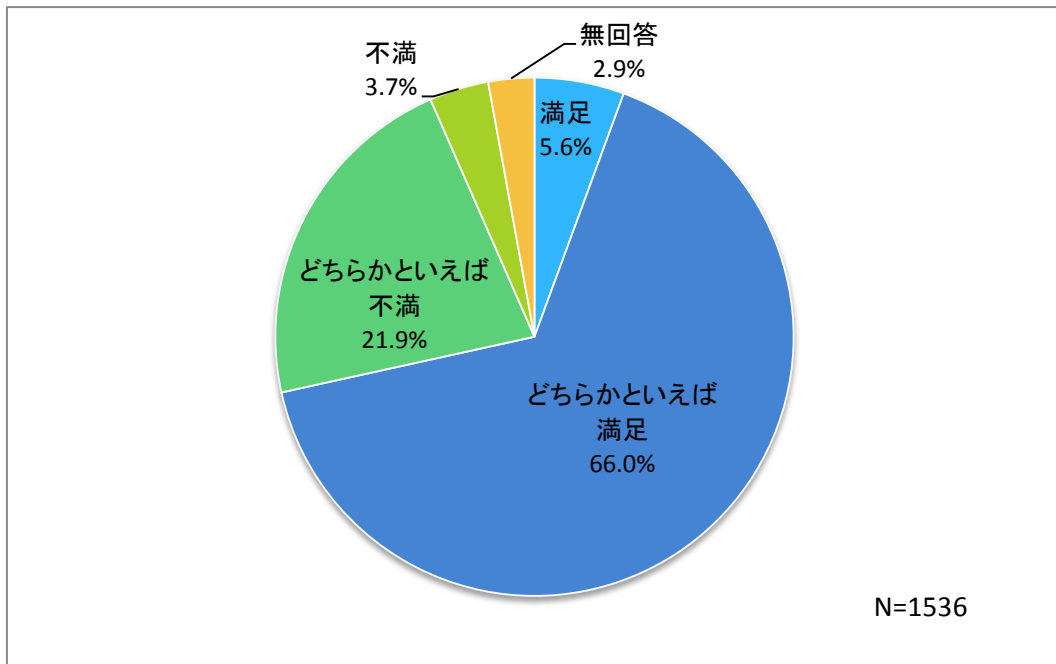


問12 全体的に見て、長与町のまちづくりについて、どの程度満足していますか。(択一)

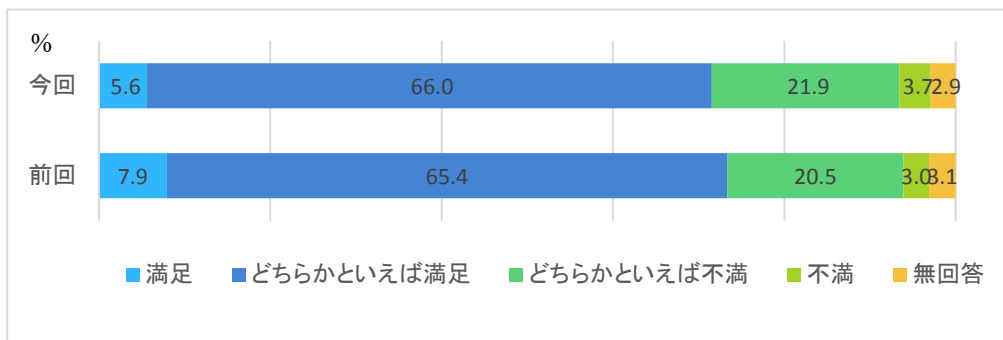
約72%が“満足”の意向

全体傾向		「満足」、「どちらかといえば満足」とする割合は、71.6%となり、「不満」、「どちらかといえば不満」より46.0ポイント高い。なお、今回調査結果は前回調査（平成21年）とほぼ同様の結果であった。
クロス集計	男女別	男女間による大きな傾向の違いは見られない。
	年齢別	年代による大きな傾向の違いは見られない。
	地域別	「満足」、「どちらかといえば満足」とする割合は本川内郷が最も高く、最も低かった平木場郷との間で、18.1ポイントの開きがみられた。

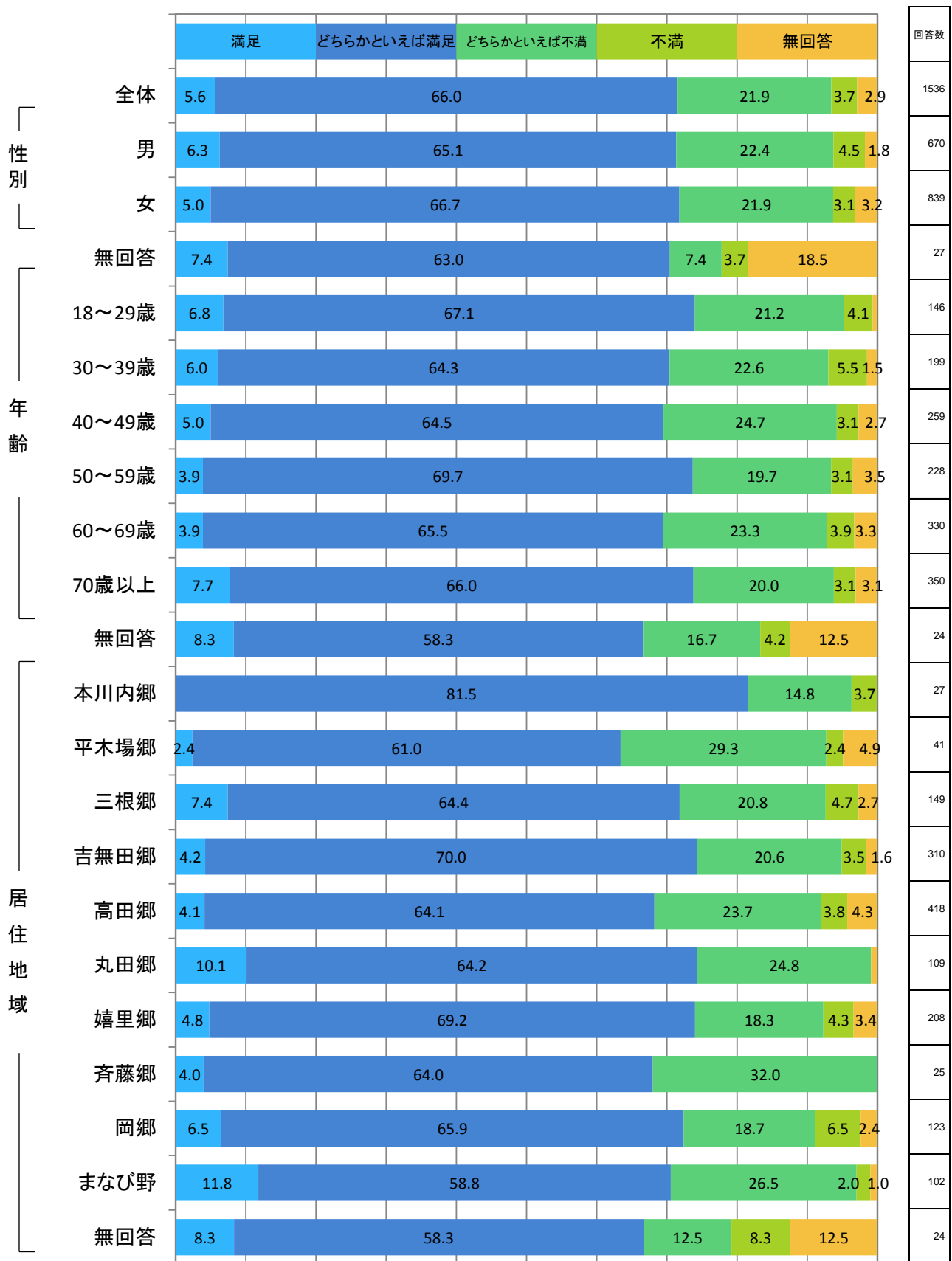
(全体傾向)



前回調査(平成21年度)との比較



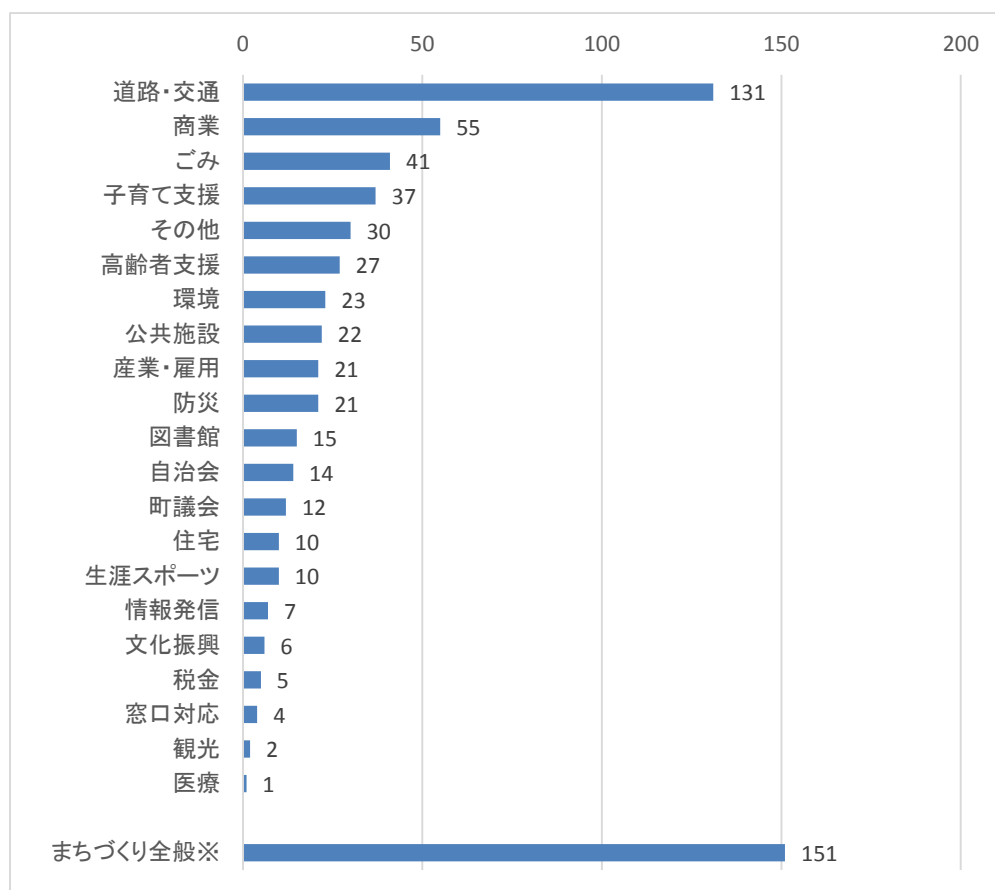
(基本属性クロス)



自由意見

自由意見記入者は 561 人（記入率 36.5%）であり、その内容を分類集計すると以下のとおりである。

※まちづくり全般とは、まちづくりのビジョンに関することや多様な分野にまたがる複数意見のものとした。



(各分野の主な意見)

分野	件数	主な意見
道路・交通	131	<ul style="list-style-type: none"> ・時津方面への公共交通の充実、渋滞緩和 ・長崎市方面への公共交通の充実（増便、経路見直し）、渋滞緩和 ・JR 長与駅へのバス（新交通含む）の充実、渋滞緩和、駐車場等の整備、JR 増便 ・高田小学校周辺道路・架橋の早期整備完了 ・ビューテラス北陽台周辺の道路整備・公共交通の充実 ・郊外部での自由乗降区間の設置 ・町内巡回バス・乗合タクシーなどの新交通の導入 ・交通費助成の導入（入浴費助成だけでなく選択式の導入）など

分野	件数	主な意見
商業	55	<ul style="list-style-type: none"> ・商業機能の強化(大型商業施設の誘致など) ・中心商店街の活性化(空き店舗対策、新規出店支援など) など
ごみ	41	<ul style="list-style-type: none"> ・ごみ回収方式の見直し(ステーション方式、民間活用。高齢者では対応が困難、自治会対応の限界等) ・ごみ袋の改善(大きさ、取っ手等)・料金見直し
子育て支援	37	<ul style="list-style-type: none"> ・経済的支援の強化 ・学童保育の充実 ・保育所・幼稚園保育料の低廉化 ・小児医療機関の充実
高齢者支援	27	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の居場所づくり ・入浴助成の見直し(交通助成等と選択式) ・高齢者の雇用の場づくり・生きがいづくり
環境	23	<ul style="list-style-type: none"> ・有害鳥獣対策の強化(イノシシ等) ・自然保護と開発のバランス ・河川への生活排水流入対策
公共施設	22	<ul style="list-style-type: none"> ・既存公共施設の設備充実 ・公園の充実(子ども向けの公園づくり) ・ごみ焼却場の余熱を活かした温水プールなどの施設整備 ・道路設備の充実(カーブミラー等の設置、植樹管理等)
産業・雇用	21	<ul style="list-style-type: none"> ・企業誘致(商業施設含む)による雇用の場づくり ・特産品のPR、朝市等の開催 ・町内の雇用に関する情報発信強化
防災	21	<ul style="list-style-type: none"> ・土砂災害危険箇所の点検、改善 ・防災行政無線の改善
図書館	15	<ul style="list-style-type: none"> ・新図書館整備場所の再検討(現図書館での建替え等) ・交通アクセスの充実
自治会	14	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会会員の高齢化による活動の停滞 ・未加入者対策・連携
町議会	12	<ul style="list-style-type: none"> ・議会機能の強化 ・議員数の見直し
住宅	10	<ul style="list-style-type: none"> ・空き家対策の充実(リフォーム補助、家賃補助等) ・低所得者、高齢者向け町営住宅の整備
生涯スポーツ	10	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ施設の充実(既存充実、新規整備等) ・高齢者向けスポーツ施策の推進
情報発信	7	<ul style="list-style-type: none"> ・行政情報の発信 ・情報公開の推進

分野	件数	主な意見
文化振興	6	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の伝統行事の継承 ・生涯学習講座の充実
税金	5	<ul style="list-style-type: none"> ・町民税の減税 ・支払い方式の多様化
窓口対応	4	<ul style="list-style-type: none"> ・丁寧な窓口対応、あいさつの徹底
観光	2	<ul style="list-style-type: none"> ・海辺や琴ノ尾岳を活かした観光振興
医療	1	<ul style="list-style-type: none"> ・総合病院の誘致